

卷頭言



人生を画す

自治会会長 森 本 兼 囊

“ 人生には数多くの「節」がある ”

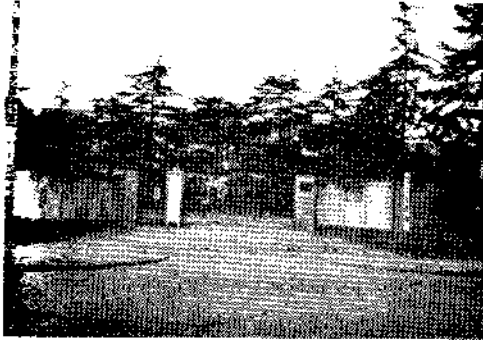
今までの“節”の多くは、年の初めであり、又入卒のときであつたらう。しかしこれからの僕達は、僕達独自の、精神的現象に起因する“節”を多く持つ必要がある。

その結果、おのずからその記録の必要性が生じるのは当然である。それを日記帳に求めるのもしかりではあるが、それをこの“スプリング”に、積極的に求めることも意義あることと思ふ。

“ 森のように明かるく、清らかな水の湧き出る泉のごとく新鮮で、かつバネのようにのびのびと力強く ” という題意が示すごとく、この“スプリング”は、青春期の頂点とも言うべきこの大手前生活の結晶たることを本来の目的とするのである。

この意義、この目的の有形物としての現出がこのスプリング自身でありたい。否、僕達はそうあることを希望すると共に、そうなるべく努力しよう。

対大手前の練習か
一夕陽



女子校ですノ
（プール）

制服がないのに
（高津）



(スプリング 第四号 もくじ)

巻頭言

1

※ ※ ※

アンケート特集

5

クラブ紹介

35

文芸作品

55

※ ※ ※

編集雑感

104

他校訪問

市岡高校	北野高校	住吉高校	旭高校	プール学院	夕陽丘高校
51	42	28	81	10	36

汎愛高校	天王寺高校	同志社香里高校	高津高校	清水谷高校
67	63	56	19	60

ア
ン
ケ
ー
ト
特
集

一、大手前生の実態

二、府下十四校の高校生を対象に
その実態を探る

三、文化祭の反省

協力校

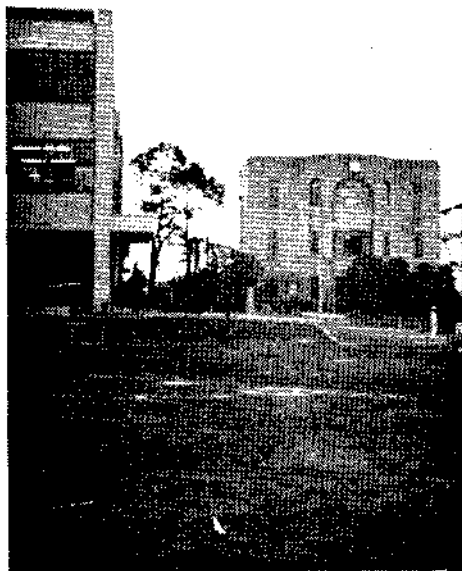
- | | | | |
|-----|---|---|---|
| 1. | 旭 | | 岡 |
| 2. | 市 | | 前 |
| 3. | 大 | 手 | 野 |
| 4. | 北 | | 津 |
| 5. | 高 | | 谷 |
| 6. | 清 | 水 | 蔭 |
| 7. | 樟 | | 吉 |
| 8. | 住 | | 愛 |
| 9. | 相 | | 山 |
| 10. | 帝 | 塚 | 寺 |
| 11. | 天 | 王 | 社 |
| 12. | 同 | 志 | 愛 |
| 13. | 汎 | | ル |
| 14. | フ | ー | 陽 |
| 15. | 夕 | | |

(50 音順)



“きれいなあ” (河、愛)

“あこがれの的” (清水谷)

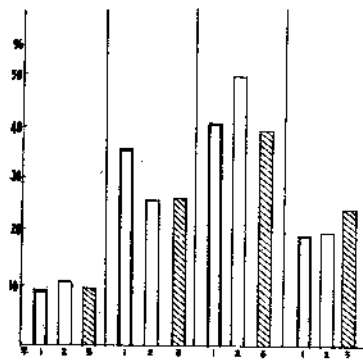




大手前生の実態

朝、 大手前生の生活

朝
間
○起床後家を出るまでに要する時間



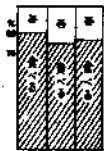
右のデータからわかるように、大手前生は案外家ではゆつくりとしている。(遅刻の多いのはその結果か?)

○朝食を食べるか否か?

食べない理由

○時間がない(多数)

貧困・美容B.T.C

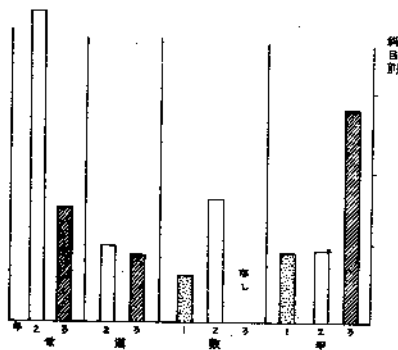


その処理法としては

授業中の弁当等があつた。

○授業中の居眠り

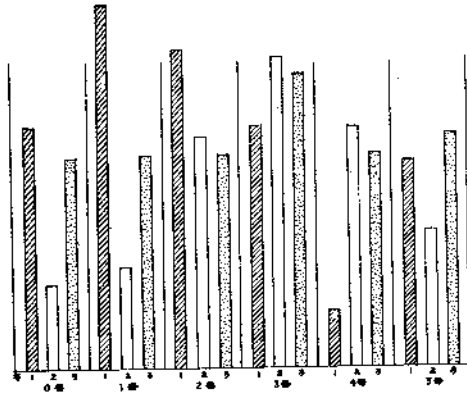
学校



その他に体育というものもあつた?

さすがに三年生は数学の時間に寝るものはなかつた。

“良い言い方をすれば学習参考
 トラ書、これを何冊持っているかを
 ”を調べた。



○その使用法

使用法	人数
ロッカーに1冊も教科書を入れていない人は殆んどなかった。	2
教科書以外では、体操服が多数を占め、その他かさ、プロマイド・ラブレット等があつた(ふざけるナ)	3
家に帰って最初にすること	2
おやつ・休憩・新聞・昼寝が多かつたが、他にけんか・デート等	2

ロッカーの使用法

ロッカーに1冊も教科書を入れていない人は殆んどなかった。

教科書以外では、体操服が多数を占め、その他かさ、プロマイド・ラブレット等があつた(ふざけるナ)

家に帰って最初にすること

帰宅後

おやつ・休憩・新聞・昼寝が多かつたが、他にけんか・デート等

制服について

女

性の制服について、女性自身(週刊誌にあらず)の立場から、又、それを見つめる男性の立場からアンケートをとつてもらつた。

○女性に、の質問

- ・不満である 87%
 - ・不満なし 13%
 - ・すばらしい 0%
- 「不満である」と答えた人が絶対的であつた、うちわけは次のとおりとなつた。(87%のうちわけ)

- スカート 34%
- ベスト 5%
- 上着 15%
- 夏の制服 22%
- 色 4%

不満な所として・形がやばつたい
 ・ひだが少い・しまらない(夏)・オーバーブラウスにしてほしい

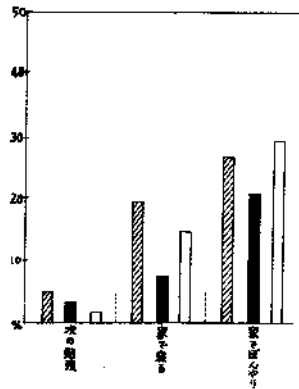
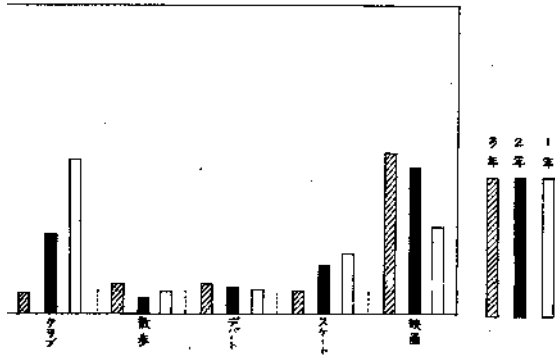
○男性に、の質問

観察力のすると男性の目から見た意見は次のとおり・・・

- ・不満である 57%
 - ・不満なし 31%
 - ・すばらしい 12%
- 「すばらしい」と答えた人が12%いる事であるので、女性の人に「制服について、そう悲感しなさんな」と、言いたいところ!
- 不満な所は?、の質問に対し次のように答が得られた。
- スカートのひだ・もつとスポーツイに・身体にあつてない・セーラーが良い・・・BPTC

テスト終了日には！

苦しいテスト（？）が終わった時、この有能なる大手前生は、どのような一日をすごすのであろうか、「久しぶりにえらいたんともうかつた！」
 ・・・これは食堂のおやじの弁。
 ・・・カンケイナイ。
 とにかくデータを次にあげよう！



◎クラブ、○次の勉強では123年生という事はつきりあらわれている。

テストについて！

○何日前から調べるか？

- ★一年生
 - 4週間 | 15%
 - 3週間 | 0%
 - 2週間 | 15%
 - 1週間 | 12%
 - 7日間 | 13%
- 5日間 | 12%
- 3日間 | 12%
- 一夜すけ | 31%
- あきらめる | 17%

★二年生

- 4週間 | 25%
- 3週間 | 1%
- 2週間 | 2.5%
- 10日間 | 13%
- あきらめる | 1%
- 7日間 | 15%
- 5日間 | 8%
- 3日間 | 10%
- 一夜すけ | 30%

★三年生

- 4週間 | 4%
- 3週間 | 0%
- 2週間 | 4.5%
- 10日間 | 10%
- あきらめる | 22%
- 5日間 | 11%
- 3日間 | 8%
- 一夜 | 28%
- あきらめる | 22%

○どの科目に重点を？

科目	1年	2年	3年
数学	38%	30%	28%
英語	38%	31%	27%
国語	8%	7%	8%
物理	×	22%	15%
化学	×	4%	6%
生物	13%	×	×
世界史	×	3%	9%
日本史	×	3%	6%
社会	1%	×	1%

男女交際は如何

ガールフレンド(対男子)						ボーイフレンド(対女子)											
八人以上	七人	六人	五人	四人	三人	二人	一人	人数	八人以上	七人	六人	五人	四人	三人	二人	一人	人数
○	○	○	○	○	二	三	十三	一年	○	○	○	○	○	○	○	六	一年
五	○	○	四	○	六	二	八	二年	二	○	○	○	○	○	三	四	二年
一	○	○	○	○	一	七	九	三年	三	一	○	一	一	二	六	一九	三年

①異性の友人の数について
結果は右の表の通りである。

たゞ、

不思議に思うのは、八人以上の中に、三八人、一〇〇人、三六五人、*GREATER MANY* などと答えた人がある事である。又、一年生女子の場合、非常に少ないのは、書かなかつた人が多いためである。

②ボーイフレンドの特徴

ボーイフレンドの特徴は、言い変えれば、現在、我が大手前の女性徒諸君にモテている男性の特徴である。外面的には、背が高い、体は太からず細からず、ハンサムでない、スポーツマンの人、内面的に多いのは、親切、誠実、あつさりしている男性で、浮きつばい、女性的、冷たい(外見)、ガリ勉の男性は、あまりモテないようである。

③ガールフレンドの特徴

これは、現在、大手前の男性徒諸君にモテている女性の特徴である。外面的には、背の高さに関わらず、や

せても、太つてもいない女性、内面的に多いのは、チャームング、やさしい、親切、美人、誠実、理知的な女性で、おとなしい人、快活な人、共に、モテるようだ。男性的、お母さんのような女性は少ない。答の中にこんなのがあつた。

「募集中、下のような人、紹介してくれたら、好きな物食わせてやる

(於食堂)背が高い、体は太からず細からず、美人、チャームング、個性的、理知的、やさしい、親切、快活、おとなしい、誠実、ソフトな感じ、声がきれい」

③付き合ひの程度

ベストは①映画、スケート、ピクニックその他、②食堂、中庭、校内で話す、③家へ招待したり訪問したりである。その他の中に「電話をかける」があつた。

④交際のきつかけ

ベストは、①同じクラス ②出身中学が同じ、③同じクラブ、家が近所であり、他は非常に少ない。その他で多いものを拾つて見ると、同じ学校、小さい時から、靴を踏んだため、スキー場で、があり、「ひとめぼれ」というのもあつた。

以上、アンケートの結果であるが、洪沢歌子著「愛について」の中に次のような文があつたので、参考のために記しておく。

特定の罪性にばかり熱中しないで、なるべく違ったタイプの青年をボーイフレンドにお持ちなさい。その代り、どなたとも深入りしないで、あつさりとお交際するのです。(中略)

あなたの教養と性格を一方に偏することなく、ゆたかに円満にのばしてゆく上に、これは大事なことです。

府下14の高校生を対象に その実態を探る

	O	N	M	L	K	J	I	H	G	F	E	D	C	B	A	
×		五〇・〇	五三・四	六七・一	八四・一	七六・二	六四・七	八六・七	六五・七	六九・四	七八・九	六八・六	七五・〇	七〇・七%	六四・一%	いる
×		五〇・〇	四六・六	三二・九	一五・九	二三・八	三五・三	一一・三	三四・三	三〇・六	二一・一	三一・四	二五・〇	二九・三	三五・九%	いない

というような結果を得た。

私たち高校生が現代の政治・経済にどれだけ関心を持っているかを、十五枚について調べてみたところ、1.「関心を持っていますか」に対し

一、政治経済に関して

以上のように各学校によつて差はあつても、多くの高校生が政治・経済に関心を持つてゐることがわかりました。

2ではどういふ政党、主義、人物を支持してゐるのでしょうか。

「政党」ではどの学校でも

「自民党」

「民社党」

がわりと多いようです。つづいて

「社会党」

「共産党」

の順になつてゐます。

「主義」は

「民主主義」

というのが圧倒的に多く、その次に

には

「自由主義」

「資本主義」

「平和主義」

などです。

「人物」においては多種多様ですが。

「西尾末広」

「ケネディー」

「池田勇人」

などが多いようです。

それでは、経済方面ではどうでしょう。

3. 「最近の経済的関心のある事項」

「物価値上げ問題」

は約半数をしめしており、その他に

「所得倍増」

「ケネディー暴落」

「貿易自由化」

「中小企業」

「経済成長」

など色々ありました。

二、将来の希望

私たちみんな、将来に対して職業、人物、抱負などどういふ希望を持つてゐるかを調べました。

1. 「なりたい職業」を各学校ごとに、ベスト2をとつてみると、

	O	N	M	L	K	J	I	H	G	F	E	D	C	B	A	一位	二位
																サラリーマン	エンジニア
																職業デザイナー	主婦
																エンジニア	エンジニア
																弁護士	実業家
																エンジニア	政治家
																技術官	教育家
																デザイナー	学者
																デザイナー	栄養士
																オフィスガール	エアホステス
																教員	×
																実業家	サラリーマン
																医師	教師
																薬剤師	アナウンサー
																デザイナー	ジャーナリスト
																×	×

票がとでも分かれてまだまだ色々な職業がありました。

2. 「どういふ人物になりたいですか」に対しては、どこの学校でも票が分れ、どこの学校でも共通して見ました。票の少し多かつたのを上げてみると、

「ケネディー」

「母」 「松下幸之助」

「大手前校長」

「ナイチンゲール」

「シユバイツァー」

「レーニン」

「湯川秀樹」

などです。

る。「将来どういうことをしたいか」

（具体的に）に対して

「海外旅行、世界一周」

「社会福祉に貢献する」

「事業を起す」

「社会保障制度を徹底」

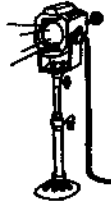
「静かに平凡に暮らす」

「未知の天体の研究」

「機械の発明、改善」

「世界連邦をつくる」

など色々な抱負がありました。



各校の自治形態

三貴校の自治会についてどう思っていますか。

「一」 関心がありますか。

はい 六〇・一%

いいえ 三九・九%

各校によりまちまちであるが、例

えば日校は八割方がはいと答え、又

日校では六割半強がいいえと答えて

いるが、一般に関心を持つものと見

ることが出来るよう。

「二」 活動は活発だと思えますか。

はい 四一・六%

いいえ 五八・四%

公立校では日校、丁校が意外にい

いえが多く（殆んど全員）、私学で

は、所により自治を認めていない校

もあり、一般に不活発である。

その点、我が校は、他校にうらや

ましがられている面も多く、改善す

べき点もまだあるが、幸せなこと

ではないか。

「三」 不活発だとすれば、その原因は何だと思えますか。

役員の責任 三〇・六%

会員の責任 五九・〇%

教師の圧力 二・三%

生徒の無協力、無関心

団結不足 二・三%

不明 二・〇%

その他 三・八%

これには、各校とも多くの意見を

上げているが、その他の中に、「自

治会の機構の中に根本的な問題点

がある」という、革新的な、我々にも

うなずけるようなものもあつた。

又、私学では、学校側が自治を認

めていないので、教師の圧力に比重

がありそうだが、実際は、公立校に

その比重がかかつており、私学には

無関心な結局アキラメムードが出て

いるということだつた。

以上のデータから推察すると、公

立高校の方が自治活動が盛んであり

その不満も多いことである。

各校と文学との関係は

	O	N	M	L	K	J	I	H	G	F	E	D	C	B	A	
我が校、及びその他教員耳の痛い様な	五二	四六	四六	三〇	二二	三八	六二	五二	二四	三〇	三五	四六	三六	五二	五七	よく余り読まな
	四八	五四	五一	六三	七〇	六〇	三八	四六	四七	五六	五五	四六	四五	四六	三九	いまいまい
	〇	〇	三	七	七	二	〇	二	二九	一四	一〇	八	一九	二	五	ない
	六八	五二	五五	四九	五九	三五	五五	六一	六七	六四	五六	六八	五八	二七	六二	文学
	三二	四八	四五	五一	四一	六五	四五	三九	三三	三六	四六	三二	四二	七三	三八	外国

(1) 小説、詩歌などは

	O	N	M	L	K	J	I	H	G	F	E	D	C	B	A	
と前の表と比較すると何の事だかわからなくなる。つまり主観の差か？	〇	〇	〇	〇	〇	〇	六	〇	〇	八	〇	〇	九	〇	〇	〇
	〇	〇	〇	〇	二	五	〇	〇	〇	〇	〇	二	〇	〇	七	1/2
	二	三	三	四	五	三	三	四	四	四	五	二	三	三	四	一
	六	三	四	四	三	三	五	六	五	二	三	五	四	六	四	二
	一	一	二	一	一	七	七	六	六	〇	一	一	一	九	二	四以上

(2) 月に平均して何冊位？

話であるが、右の表は主観によるもので、どこかの国の総理大臣みたいに、数字で表わすと。

前の表の下に掲げた通り

(3) 日本文学と外国文学ではどちらを多く読みますか。

(4) どんな作者が好きですか。

○ 日本文学では
各校とも多いのが、漱石、実篤、芥川の順、次いで、藤村、山本有三、太宰治。石坂洋次郎なども、目立つた所。

○ 外国文学では
ヘッセ、ジイドが各校とも好む所、次いでトルストイ、ヘミングウェイ、ドフトエフスキー。G校においてローラン、モーパッサンが目立つた。

○ 主義、主張なら？
各校やはり、共通したものがあつてローマン派、自然主義。G校においては、人道主義がお好きの様、B校、解なしの多いのはなんとしたことか。

5.小遣い

千と二千円が相場？

(1) 月いくらぐらいもらうか

(約) ①五百円以内 ②千円 ③千五百円 ④二千円 ⑤二千五百円 ⑥三千円 ⑦三千五百円 ⑧四千円以上

0	N	M	L	K	J	I	H	G	F	E	D	C	B	A	イ
0	0	3	9	10	6	3	0	10	4	14	5	9	1	0	イ
11	0	19	44	26	36	34	13	32	51	29	5	31	15	43	ロ
11	13	25	23	10	21	25	27	16	26	14	13	23	31	27	ハ
15	35	31	13	18	9	25	20	19	11	43	18	16	28	19	ニ
11	13	7	0	10	11	3	13	11	3	0	16	7	3	10	ホ
19	22	9	9	18	11	10	17	8	2	0	29	7	14	7	ヘ
11	0	0	0	3	4	0	10	1	2	0	5	0	3	3	ト
22	17	6	2	5	2	0	0	3	1	0	9	7	5	0	チ

(単位は%)

小遣いの分布は、各校の校風によつてかなりの違いが見られる。まあ全般的に見て、千と二千円という線に落ち着きそう。

公立校はくいしんぼろ？

(2) 主として何に使うか。

各校とも、飲食・書物が圧倒的であるが、私立校一特に女子の一においては書物の方が幾分上位にあるのにひきかえ、公立校は「飲食」が占簡気味。食堂の有無のせいもあるうが公立校の生徒はよく食べるようだ。

ガツチリ型多し？

(3) 少しでも貯金をしているか

イエス 15% ノー 44%
イエスが予想よりグツと多かつたので驚いているしだい。ある男子の私立校を除いては各校ともイエスが半分以上を占めた。案外、財布のひもは固いようである。

クラブ活動に関して

他校のクラブ活動の形態は？又どの位の人が活動しているのか？これは我々にとつてまことに興味深い問題である。そこで十五校にアンケートをとつてみた。

1. 入っていますか
2. 入っている方は何部に入っていますか
3. 楽しいですか

結果は次のとおり

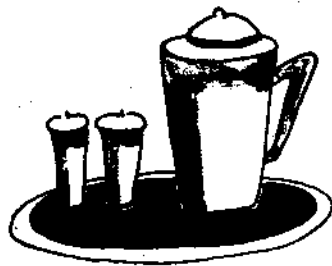
J	I	H	G	F	E	D	C	B	A	①はい
53	74	47	59	56	45	70	56	81	70	はい
47	26	53	41	44	55	30	44	79	30	いいえ
100	89	80	79	92	100	83	69	95	84	③はい
0	11	20	21	8	0	17	31	5	16	いいえ

O	N	M	L	K
48	72	36	64	81%
52	28	64	36	19%
98	95	95	88	94%
2	7	5	12	6%

②の質問に対しては各校ともバラバラであつたので特に気づいたことだけを上げると、まず運動系と文化系の比率では、一般に公立高校・男子私立校では運動系が、女子私立校には文化系が多いこと、はたしてこれはどういふわけか。それから我校にないクラブで目についたのは、B校の古典部、D校のレスリング部、F校のプラスバンド、N校の鼓笛など。

諸君ここでもう一度表を見てもらいたい。①に関しては三校を除いてすべて半分以上の人が参加してるといふこと、なかにはB校K校のように八割の人がクラブ活動をしているところもある。そして入っている人の八割以上がやって楽しいといつて

いる。これらのことからいえることは我々はもう一度クラブというものに対して考えてみる必要があるのではないかと、そうすれば我々の生活はもつと有意義なものになるのではないかといふこと、みんな考えてなければいけない問題だと思う。



7. スポーツに関して

1. 何かスポーツをしていますか

①	②
A	36
B	42
C	47
D	31
E	4
F	20
G	37
H	11
I	3
J	19
K	22
L	32
M	16
N	10

2. している方は主にどんなものを

野球	三十二・〇%
バレー	十八・四
テニス	十五・三
卓球	十二・一
水泳	八・一
バスケット	六・四
柔道	三・二

その他ボクシング・すもう・サッカー・ラグビー等

3. どんなスポーツに興味を持ち、主に見ますか。

野球	三十七・八%
バレー	二十四・八
水泳	十一・六
バスケット	十・二

テニス 三・三
陸上 二・〇

ラグビー 二・〇
その他スキー・スケート・サッカー・体操・卓球

契約金三千万円を出してまで、有望な新人を集めるプロ野球球団の気持ちはわかるというもの。見る方もやる方も完全にトップ、やはり野球王国日本をおもわせる数字が出たようです。バレーボールが第二位をしめたのは、世界第一位のチームをもつ国としてまことに心強いかぎりであると思われます。気軽にできるからかも知れませんが、日本の国技すもうの名があがっていないのは一木のさびしさを感ぜさせるところですか。



外国に関して

外国に対するあこがれは、だれもが持つているものです。そこで十五の高校を対照に、アンケートをとつてみました。
「どここの国へ一番行きたいか」に對

学校別 国名									
H	G	F	E	D	C	B	A	学校別	国名
12	20	22	3	14	28	22	22	米	ス
×	×	6	×	5	×	11	6	ス	ス
7	6	10	×	4	19	17	9	タ	ス
×	×	19	×	×	3	8	4	イ	ス
×	×	18	×	×	5	5	×	ス	ス
×	4	×	×	×	5	×	×	北	ス
×	×	×	×	×	5	×	×	ド	ス

学校別 国名									
O	N	M	L	K	J	I	学校別	国名	
4	×	11	9	8	7	7	米	ス	
6	×	10	3	×	×	5	ス	ス	
7	5	8	14	7	10	11	タ	ス	
6	×	3	×	×	5	×	イ	ス	
×	×	4	3	×	×	×	ス	ス	
×	×	×	×	×	×	×	北	ス	
×	×	×	×	×	×	×	ド	ス	

となつてゐる。
これを全体にみると、トップはアメリカであつたが、学校別にみると、イスがトップであるところも 二、三

口

その行きたい国と日本とを比較して日本の(1)よい点。(2)悪い点。という問に對して

- (1) 日本的な獨特の文化があり、又反面近代的文化が進んでいる。
 - ・国民が親切、人情が厚い。
 - ・景色がよい。
 - ・女性が美しい。
 - (2) 社会制度がととのつていない。
 - ・島国根情を持ち、せせこましい。
 - ・国土がせまく、道路が悪い。
 - ・公衆衛生が守られない。
- 等々。まとめるとだいたい以上のようになりました。



男女交際に関して

1. 「男女の生徒が仲良くしているのを見てどう思いますか。」

	O	N	M	L	K	J	I	H	G	F	E	D	C	B	A	
イ	6	0	2	4	3	2	0	2	5	4	2	4	6	0	4	1
ロ	16	14	37	54	31	15	20	25	49	49	7	25	67	65	42	
ハ	10	10	23	16	15	12	10	12	40	15	9	11	29	37	16	

(イ) 復が立つ
(ロ) いいことだと思う
(ハ) 何とも思わない

全体に見わたすと、(ロ)が圧倒的に多い。学校別に見てもやはり(ロ)が多い。大抵の人は男女の交際をいいことだと認めているようだ。それに対して「なんとも思わない」という、全々の無動心型。又、「腹が立つ」という、やきもちやき型も少々見られる。なほともあれ、男女交際を、いいことだと認めている、という事は、うれしいことだ。

2. 「異性が困っている時、どうするか」

	O	N	M	L	K	J	I	H	G	F	E	D	C	B	A	
イ	0	1	7	4	4	2	0	4	7	3	3	0	7	8	2	
ロ	12	13	26	33	16	12	19	19	46	26	10	10	34	49	30	
ハ	9	5	17	34	23	21	9	14	34	39	7	29	56	31	26	

(イ) 知らぬ顔
(ロ) 助けたいと思う
(ハ) 助けない
(イ) 助ける

上の表を見ると、学校ごとの差がでてくるようだ。A校、B校、G校、M校などに見られる(ロ)の内気型、C校などに(イ)の相互扶助型が多いのが目立つ。異性が困っている時は、お互いに助け合っていきたいものである。

3. 「中学生の頃と比べて、今とどくらが円満につき合えると思いますか」

	O	N	M	L	K	G	I	H	G	F	E	D	C	B	A	
イ	8	11	16	38	20	16	11	9	24	38	7	23	40	52	23	
ロ	7	3	17	19	10	8	15	13	36	12	6	7	29	9	18	
ハ	5	8	27	13	13	13	3	10	35	29	7	9	30	29	23	

(イ) 今の方がつき合いやすい
(ロ) 中学生の頃の方がつき合いやすい
(ハ) 変わらない

中学は男女共学だったが、高校は、共学でないという場合などがある為か、学校によつてちがいが、一概には言えないようである。



テレビに関して

1. 1日何時間ぐらい見ますか？
 他校に於いては1とる時間という
 のが非常に多く又る時間以上と見
 ないというのは非常に少かつた。又
 いわゆる有名校に於いては1と2時
 間が多かつた。
 名門？大手前校のあなたは何時間ぐ
 らいですか？
2. 主にどんなものを見ますか？



ラジオに関して

1. 1日何時間聴きますか。
 ① 30分以内 三〇・〇
 ② 三十分～一時間 一九・〇
 ③ 一～二時間 一五・一
 ④ 二～三時間 六・六
 ⑤ 三時間以上 五・五
2. 主として何を聴きますか。
 ① ポピュラー 四三・七%
 ② ヒット曲 二〇・六
 ③ クラシック 一三・〇
 ④ ニュース 一一・五
 ⑤ 教養物 五・三
 ⑥ スポーツ 三・九
 ⑦ ドラマ 一・九

さて我が校においても大体同じよう
 な傾向ではあるがラジオを二時間以上
 聴くのは0になつてゐる。

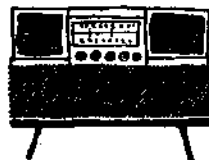
FM放送を知っていますか

①	49	A
②	69	B
③	68	C
④	33	D
⑤	14	E
⑥	61	F
⑦	69	G
⑧	24	H
⑨	18	I
⑩	28	J
⑪	5	K
⑫	45	L
⑬	47	M
⑭	18	N
⑮	1	O
⑯	8	

注 ①ハ イ
 ②イ イエ

①	24	A
②	42	B
③	42	C
④	18	D
⑤	11	E
⑥	35	F
⑦	26	G
⑧	8	H
⑨	9	I
⑩	15	J
⑪	19	K
⑫	16	L
⑬	25	M
⑭	11	N
⑮	17	O

注 ①ハ イ
 ②イ イエ
 Bは大手前



新聞雑誌に関して

A、新聞

1. 何欄を主に見ますか。

・その日のできごと 四十九%

・国際情勢 三十%

・ラジオ、テレビ 二十二%

・政治 十六%

その日のでき事を見る人が圧倒的に多かつたようである。少し異様な感じがする。政治面の関心の薄れがめだつ。又、学校別に見ると、B校では、

・その日のできごと 二十%

・国際情勢 十五%

・ラジオ、テレビ 十九%

・政治 十七%

回答数 七十七枚

この様に、どれも差がないような学校も見られる。これとは対象にF校では

・その日のできごと 三十七%

・国際情勢 三十%

・ラジオ、テレビ 二十五%

音楽に関して

1. 好きな音楽

クラシック 二十二・七%

ヒット曲 二十・三%

映画音楽 十一・九%

ジャズ 五・一%

ラテン 六・一%

民謡 五・四%

シャンソン 四・二%

タンゴ 十六・八%

ハワイアン 五・六%

邦楽 一・六%

大手前でもだいたい同じ傾向が見られるがクラシック、ヒット曲と答えた人が殆んどで他は少数ずつである。

2. 好きな演奏団体、演奏家ベスト5

イ、流行歌

男 舟木 一夫 十四・三%

橋 幸男 十・一%

坂本 九 九・七%

女 島倉千代子 十一・七%

吉永小百合 十一・一%

・政治 二

回答数 一〇〇枚

であつた。

その他の様なものを見るか。として、マンガ、スポーツが大半をしめていた。

2. 購読している新聞名

・朝日新聞 四四一

・毎日新聞 三三一

・産経新聞 二二四

回答数 一一五四

スポーツ系の新聞を購読されているのが、極少数あつた。英字新聞は回答数の中で一枚というのが、ちよつと寂しい気がする。

B、購読雑誌名

高校時代、蛍雪時代、週間平凡、週間朝日、美しい十代、リーダーズダイジェスト、女生自身、セブンティン、高校コース、女学生の友等があつた。女性の読む雑誌がまちまちだといふことがわかつた。又、少年サンデーも少しあつた。

江利チエミ 七・二

楽団東京キユーバンボーイズ

東京パンチヨス

クレージーキャッツ

ロ、ポピュラー

男 プレスリ 十一・七%

ベラフォンテ 十・九

パット・ブーン 九・八

女 コニーフランシス十三・四

ブレンダリー 十・一

ドリスター 四・七

楽団ミツチミラー 三・七

マントバーニー 二・一

プレスブレード 一・九

ハ、クラシック

男 五十嵐喜芳 十四・〇

デルモナコ 十二・四

タリアビーニ 八・六

女 辻 久子 八・三

デバルデイ 八・〇

シミオナート 六・一

指揮者

小沢征爾 十二・七

カラヤン 九・七%

楽団ウイーンフィル

N響 ニューヨークフィル

以上、大手前でも同じような結果が

得られたが、その他で他校以上に多く

名前の挙げていたのに、西田佐知子、

美空ひばり、ニールセダカ、ベラフオ

ンテ・バレンテ等がある。

3. 好きな作曲家

イ、流行歌 吉田正がだんせん一位で

次に中村八大、古賀政雄、

遠藤実が続いている。

ロ、ポピュラー とびぬけているのが

なく、みな同じ位でビリー

ホーン、ポール・アンカ、

ガージュイン、ニール・セ

ダカ等があつた。

ハ、クラシック ベートーベン、シュ

ーベルト、モーツアルト、

シヨパン、チャイコフスキ

1等

4 主として何で聴きますか。

レコード 三十六・六%

ラジオ 三十一・四

テレビ 二十二・九

演奏会 九・一



5. 月平均何枚レコードを買いますか

EP 1枚 六十二・二%

2 二十六・〇

3 十一・八

LP 1 六十八・一

2 二十六・六

3 五・三

EP・LPとも一枚というのが多いが、EPの方がLPより買う枚数は多い。

6. ステレオ演奏装置を持っていますか。

ロ	イ	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N
67.6	32.4														
41.7	58.3														
64.0	36.0														
25.0	75.0														
54.8	45.2														
86.4	13.6														
63.3	36.7														
24.1	75.9														
58.3	41.7														
34.8	65.2														
61.5	38.5														
65.0	35.0														
42.6	57.4														
10.5	89.5														

7. 自分で何か楽器等習っていますか

ロ	イ	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N
45	55														
28	72														
42	58														
20	80														
35	65														
47	53														
55	45														
23	77														
20	80														
20	80														
22	78														
22	78														
35	65														
36	64														

イはい ロいいえ

習っている楽器名は

ピアノ・ギター・ハーモニカ・
 琴の順に多かつた。琴は女子学校
 が大部分でその他珍しいものと
 して、箏・マンドリン・バシジョ
 ー等があつた。

映画に関して

一、月に何本見ますか

この問に対して邦画、洋画とも○
 本というのは極めて少なく、またそ
 の人々も年間を通じてまったく見な
 いという事は考えられない。平均し
 て邦画よりも洋画のほうがよく見ら
 れているといえるだろう。回数につ
 いてはどの校もたいして差がなく、
 「一本見る」という答が多い。
 「十本」というのもあつた。家の職
 業が映画館経営なのであるうか、い
 ずれにせよらやましい御身分であ
 る。

二、印象に残っている映画

なんとも多数の映画が挙つたもの
 である。ここ数年間の有名無名の西
 部劇、戦争物、スリラーから恋愛物
 史劇、ミュージカル、ヌーベルバ
 グの新作からかつての名作の香りも
 高いリバイバルまでズラリと並んで
 いる。ちなみに十五枚を通じてのべ

スト4を見ると、洋画では、

一、ウエストサイド物語

二、ベンハー

三、風と共に去りぬ

四、ローマの休日

という事になる。これに続くものとし
 てアン・パンククロフト主演の「奇跡の
 人」。デビッド・リーン監督の「アラ
 ビアのロレンス」などがかなりの票を
 集めている。小教派をひろつて見ると
 メルヴィル原作の「白鯨」やダニー・
 ケイの「五つの銅貨」、エディ・ドウ
 チンの伝記映画「愛情物語」、キヤロル
 リードの名作「第三の男」、ラストシー
 ンの素晴しかつた「刑事」、ジャンヌ
 モロー主演の「死刑台のエレベーター」
 かのM・デビスが音楽を担当した作で
 ある。

ある女子校では「風と共に去りぬ」
 が圧倒的多数をしめ「若草物語」や
 「禁じられた遊び」などが人気がある。
 一般にリバイバル映画はよく見られて
 いるといえよう。例えば「怒りのおど

う」「戦場にかける橋」・「嵐と共に去りぬ」「駅馬車」「真昼の決闘」「ジャイアンツ」などには、かなりの票が集まっている。

邦画では

一、椿三十郎

二、天国と地獄

三、七人の侍

四、名もなく貧しく美しく

といつたところである。

「モスラ」「ラドン」なんてのもあったのかこれは本校生である。

「末は博士か大臣か」「日本昆虫記」

「つづり方兄弟」等

三、好きな俳優

洋画 「男」

一、C・ヘストン

二、S・マクタイーン

三、A・ドロン

四、J・ウエイン

となつている。以下H・フォンダ、G・ペック、J・デイーン、などが、

人気がある。女子校ではA・ドロン

W・ビュートイ、R・ペイマー、等が

支持を得ている。ハリウッドの俳優

が多いが、ヨーロッパ大陸の俳優では

J・P・ベルモンド、ジャン・ギャバ

ン、日・ブツフホルツ、R・オツセン

モーリス・ロネ、M・マストロヤンニ

など。

洋画 「女優」

一、O・ヘツプバーン

二、E・テイラー

三、B・バルドオ

四四、M・モンロー

五、C・カルディナーレ

六、S・ローレン

七、N・ウッド

八、D・デイ

九、C・カウフマン

十、S・プレシエツト

トップのヘツプバーンは圧倒的な強みを示す。彼女のガリガリではあるが知性的なところが高校生にもてるのかもしれない。もつとも彼女の鼻の格好が

悪いなんていう御仁もあるが。

邦画 「俳優」

一、三船敏郎

二、石原裕次郎

三、加山雄三

四、森繁久弥

その他ヘンナ植木等、ニヒルな丹波哲

郎、仲代達也 等

邦画 「女優」

一、吉永小百合

二、星 由里子

三、高峰秀子

吉永小百合は学生には圧倒的で清純な面が男子によくもてるらしいが女子はジエラシーを感じるらしく票が集まらない。その他十代のスター又は演技派のスターが多い。



アルバイトに関して

「今年の夏休みに、アルバイトをしましたか？」という問に対して、全体十五校のうち、わずか十一・五%が、「はい」と答え、残りの八十八・五%の人は「いいえ」と答えた。

この結果を見れば、夏休みは大いにバカンスを楽しんだ（一学期の復習をした人もいたのかな？）ものと思われる。

「した方はどんなものをしましたか？」という問に対して、水泳大会の接待三五%、店員（おかし屋、八百屋）が一九%、事務員が十三%、工員（印刷工、電機工）が九%、雑用が五%、その他、おもしろいものとして、サンドイツマン、丁稚、皿洗い、発掘土方などが挙がっていた。

「どんな目的ですか？」という問に対しては、「小使いかせぎ」が四二%

「社会勉強のために」というのが二五%で圧倒的に多かった。

自分の事は自分で・・・という一種の独立心の表われであろうか？ その他「旅行費用のため」「勤労の喜びを知るため」「たいくつしのぎ」「自分の力をためすため」又、珍しいものとしては、「考古学のため」というものもあつた。

プラスかマイナスか

「そのアルバイトはプラスでしたか、マイナスでしたか？」という問に対して

(イ) プラス 七十五%

(ロ) マイナス 十

(ハ) どちらでもない 十五

この結果を見るとわかるように、プラスと答えた人は全体の四分の三を占めている。その理由としては、「社会を見る事が出来た。」というのが、三三%、「働く事のつらさを知った」

というのが二四%、「働いて得たお金のありがたさを知った。」「精神的に勉強になった。」というのが七%、その他、「自分自身を反省する事が出来た。」「働く事の尊さがわかった」「自信がついた。」など挙がっていた。それをみても、アルバイトをした事によつて、実生活を一段と豊富なものに成し得た事になる。マイナスの理由としては、「勉強時間の減少」「つかれた」「社会のむずかしさがはつきりかわからなかつた」など挙がっていた。やはり、学生にとつて、「勉強時間の減少」という事が、一番の弱味となるのであるか？



大手前に関して

一、生徒について

A (イ) ガリ勉である

(ロ) ガリ勉でない

(ハ) わからない

学校	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O
(イ)	614	?	626	592	156	?	?	?	50	?	636	?	246		
(ロ)	70	121	136	69	125	23	115	35	0						
(ハ)	31.6	253	278	639	719	210	385	719	364						

この結果をみると、(イ) と (ロ) に答がかたよつていゝ。これは、他校生に對し無關心か又大手前生をガリ勉だときめつけているからだろう。

「何だか悪い感じが悪い」
 (イ) 何だか悪い感じが悪い
 (ロ) わからない

学校	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O
(イ)	222	?	258	59	167	192	313	?	?	235	?	268	246	261	?
(ロ)	167	291	294	83	151	73	151	256	77	98	0				
(ハ)	61.1	451	447	750	657	614	657	509	655	656	739				

C (イ) 理屈っぽい
 (ロ) そうではない
 (ハ) わからない

これには無條件であるという事を表わしている。

学校	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O
(イ)	410	?	549	611	333	193	94	?	?	488	286	?	242	565	?
(ロ)	107	88	55	83	55	94	93	107	19	0					
(ハ)	483	363	333	584	752	812	419	607	739	435					

D (イ) 打算的である
 (ロ) そうではない
 (ハ) わからない

生をガリ勉だとしておいては、又、校においは、理屈っぽい傾向がある。が、みられ

(二十九頁へ)

	O	N	M	L	K	J	I	H	G	F	E	D	C	B	A	
(イ)	?	363	93	?	280	333	?	?	146	206	304	412	379	?	259	25%
(ロ)		45	56		160	71			94	59	0	176	161		111	11%
(ハ)		592	651		560	586			760	735	677	412	460		600	60%

(イ)がロよりも多かつたのは、残念な事である。

(イ)親切である
(ロ)普通
(ハ)わからない

この結果をみると、圧倒的に多いのは、いちがいに、は、言えない、が、大手前生は他の校生との交流が少ない、え、る、の、で、は、ない、だ、ろ、う、か。

	O	N	M	L	K	J	I	H	G	F	E	D	C	B	A	
(イ)	?	200	71	?	333	250	?	?	135	70	42	125	108		138	13%
(ロ)		280	143		42	250			219	296	333	500	484		431	43%
(ハ)		520	786		625	500			646	634	625	575	408		431	43%

二、大手前の評判
「一般的に言つてあなたの学校では大手前の評判がいかがですか。」
という質問に対して

(イ)良い
(ロ)悪い

(イ)が多いが、(ロ)の多いのは「D」の結果からみて、あたりまえだと思ふ。

	O	N	M	L	K	J	I	H	G	F	E	D	C	B	A	
(イ)	?	304	359	250	393	282	?	?	82	?	?	?	?	?	300	30%
(ロ)		43	49	0	36	128			35						60	60%
(ハ)		653	592	750	247	590			883						640	64%

い普通
の三段階にわけて書いてもらった。

三、友人の数
「あなたは大手前生の中に何人、友人を持っていますか。」という質問で、自分の友達のうち、大

他校における大手前の評判は、悪くはないが、そうよくもない。しいていうならば「中の上」といったところだろう。

手前生が何人いるかを書いてもらった。他校生から見た

大手前

他校生に「大手前について」というアンケートを出した結果、我々には信じがたいようなものがある。

・大手前という学校があることは、このアンケートの紙で始めて知りました。(A校)

(それでは、大阪城がどこにあるか御存知ないわけですね)

・誠に申分けございませんが、私は温室育ちで貴校のことは一切存じません。(B校)

(それはゴケンソンばかり)

・大手前と追手門との区別がつかない私です。(字が違う)今まで殆んど井の中のかわずで他校の事など気

にもしませんでした。(C校)

一気にしてね。かえるでも知つてんのよ。ガチヨン)

・大手前にも文化祭、体育祭等はあ

もう少しまとも?な意見

・大手前について、余り詳しくは知りませんが、このアンケートだけでも感じられることは、貴校の学生の頭の良さでしょう。優秀校にありがちなカサカサした人間にならないように、勉強に、運動に頑張つて下さい。(E校)(ありがとう)

・勉強もいいが人間性を高めることが一番大切なように思います。試験前はお風呂にも入らないと聞いてびっくりしました。(F校)

(試験前ばかりじゃない)

・兄貴に聞いて知る所によると、なかなか楽しそうな学校だそうだ。

便所その他にキレイな所というところと体育館とその他一つのように、かわいそう。(G校)

(その一つとは何でしょう。)

・こんなこと(このアンケートのこと)を活発に行なっている貴校に新たな好感を覚え、うれしく思っています。又、これからも、私達の学

O	N	M	L	K	J	I	H	G	F	E	D	C	B	A	
?	?	42	8	22	9			49	?	?	?	?	?	16	0人
1	2	10	4	3	15			5						9	1人
		3	1	2	2	10		2						12	2人
3		1	1	2	4									3	3人
				1	2									1	4人
1		1			1			1						6	5人
				1	2			1						3	総

友人の数は1/2人が最も多いが、0人もそれ以上であるから、これからもつと他校と交流し、他校の長所を級収し大手前の長所をPRしよう。

校に良い影響を与えて下さる様に。

こちらからも、気の付いた事をはじめ、どしどしお知らせしたいと思つていきます。(日校)

(ぐつと感激)

一女学生のいじらしい意見

○ とてもスパラシイ学校だそうですね。勉強だけでなく、歌声やフォークダンス等があつて、とつてももうらやましい。一度行つてみたい。

せめて門だけでもくぐつてみたい

(お暇なら来てよね。私寂しいの)

その他

○ 我校との交流が少ないので貴校の事は知らない。もつとよく知りたい。

(リレー衛星で知らせてあげる。)

○ 女の子がきれいだと聞いているがおそらくそでしよう。

(どう答えるべきか。)

○ そんな学校つぶしてしまえ。

等がある。しかし、一般に大手前の評判は悪くはないようである。

ぶんかさい



をかえりみるのこと

文化祭は
楽しかったか？

①二、三年の人は去年に比べて

○ 楽しかった	14%	1
○ まあまあ	26%	2
○ つまらなかつた	26%	3
		冊
	25	20
	60	64
	16	48

○ 今年の方がよかつた	57%	2
○ 同じくらい	33%	3
○ 去年の方がよかつた	33%	冊
	10	29

② 一年の人は

○ 期待以上	9%
○ 期待通り	32
○ 期待以下	59

今年の文化祭は、二日にわたつて盛大に催されて又、その反響は二、三年生の人達には、比較的好評だったようだが、一年生の人は、もつと楽しい文化祭を期待していて期待以下

☆ ☆ ☆

と答えた人が、半分以上を占めている。来年は、一年生が中心となるのであるから、きつとみんなの期待以上のものになるだろう。

「展示について」
内容は

○ よかつた	19%	29%	40%
○ まあまあ	55	52	39
○ つまらなかつた	26	19	21

○ クラブ展示ベスト5. ○

順位	一年	二年	三年
1	理研	47 理研	41 理研
2	ESS	35 地歴	41 理研
3	生物	10 美術	20 地歴
4	社研	5 書道	13 ESS
5	美術	3 新聞	13 社研
			10 写真

理研が、どの学年にも、約半分近い子評で、ESS、地歴も、それに欠

いでいる。理研部員の説明による実験の様子が、みんなの関心をさそったのであろう。

展示物を

○ 全部見た	44%	52%	36%
○ だいたい見た	35	37	43
○ 一部だけ見た	6	10	12
○ 全然見なかつた	15	1	9

展示に関しての意見、希望について書かれたものをあげてみると

- ① 創意、工夫がもつと必要。細かい字は読みにくく、目で見て訴えるものがほしい。
- ② 奇抜なアイデアを。どのクラブでもマンネリにおちいつているのではないか。
- ③ 場所の使用をうまくして、本館に集めたほうがよい
- ④ 木材、針金の不足で、できあがったものが不安定だった。

「舞台行事について」

○ 良かった	18%	34%	23%
○ まあまあ	58	53	50
○ 悪かった	24	13	27

二日目に国民会館で行われた舞台行事に関しては、良かったという意見が案外少ない。その理由は何かであろうか。又、最も良いと思つたプログラムは何かという問に対して、

	一年	二年	三年
ESS	67	70	61
弁論	16	12	15
演劇	7	8	8
音楽部	5	6	6
ダンス	3	2	6

という結果がでて、各学年ともESSの英語劇「夕づる」が、大変好評だった。問題になつた弁論がそれにつづいていて、終了時間が、だいたい延びたが、みんなの足を止めたのが演劇部による好演だろう。

舞台行事に關しての意見を聞いてみる

- ① 演劇の音が聞こえにくかった。始めからマイクを使用すべき。
- ② 幕合が長すぎた。
- ③ すべてにもう一つ新しみがほしいなどであった。

演劇について

○ よく聞こえた	3	3%
○ まあまあ	33	17%
○ 全然聞こえなかった	64	22%
	15	5%
	23	11%

観賞態度

○ よかった	20	35%
○ 普通	49	27%
○ 悪かった	32	12%
	12	5%
	25	8%

一年生は全然聞こえなかったという人が、多数なのに対し、二、三年は、それほどでもなかったようである。せまい会場でも、前と後では相当待遇がちがっていたのだろう。

金蘭会館の行事について

○ 金蘭会館の行事に参加したか

① 参加した	15	65%
② 知っていたが参加しなかった	4	27%
③ 知らなかった	25	8%
	17	33%

①と答えた人に「良かったと思うか

① 良かった	30	30%
② まあまあ	40	40%
③ つまらなかった	30	30%
	38	28%

②と答えた人「理由を簡単に

- ・ 時間がなかったため
- ・ 会場が満員であったため
- ・ つまらないと思つたため

一年生には始めての経験であるためか、金蘭会館での行事を知らなかった人が全体の4/5もあつた。ちよつと宣伝不足の感じがする。又、知つていて不参加の人には、展示の係で暇がなかった人や、係でなくても時

間がなかった人が多く、参加したい人でも行けなかった人があるのは残念だ。

中庭において

○ がらくた市があることを

① 知っていた	70	85%
② 知らなかった	30	15%
	15	29%

○ 来年はある方が良いか

① ある方が良い	51	51%
② やめた方が良い	49	57%
	45	55%

品物の並べ方にもつと工夫をという意見もあり、今年のがらくた市は品物も少なく低調だった感じがするがそのせいか来年はやめた方が良いという人が約半分もある。

○ 弁論に参加したか

① 参加した	24	39%
② 知っていたが参加しなかった	50	22%
	22	45%

③ 知らなかった	26	39	22
----------	----	----	----

○ 来年もある方が良いか

① ある方がよい	72%	68	80
② やめた方がよい	28	32	20

喫茶について

○ 来年もあつた方がよいか

① ある方がよい	77%	67	77
② やめた方がよい	23	33	23

ケーキは予約制になっていたが当日販売もしてほしいという意見もあつた。又、ふん囲気が出ていないこととは安かつたというのものもある。

全体を通じて

○ 全体を通じて 良かった事、残念であつた事 その他の意見で主なものを選び上げてみると

- ① 二日間あつた事に対して
- 二日間あつてとても良かった。
- 展示の日はたいくつだ。半日だけ

でよい

- 二日もあるとだらけてしまう
- 展示は二日ともやつてほしい

② 会場に關して

- 国民会館では座席が足らなかつた
- もう少し広い会場にしてほしい

○ ゴミが多かつた

○ 花がいてあつたのはよかつた

③ 自治会、関係者に対し

○ 自治会の努力はりつばであつた

○ 関係者に感謝する

○ 自治会はもつと陰になつて働くべきである。

④ 弁論に対して

○ 内容を悪意に理解された事が残念である。

○ 校長先生に注意されて、せつかく

の気分がこわれた。もつとあつさり

と注意してほしかつた。

③ やじに關して

○ やじは禁すべきではない。

○ 不愉快なもの、下手なものはやめるべきだ。

フオークダンスに關して

- もう少し参加しやすいようにしてほしい

○ 時間をふやしてほしい。ずつと続

けてやればよかつた。

○ 途中で終つたのは残念であつた。

その他

○ 終りの時間を明確にしてほしい

○ 全体として盛り上りがなかつた

以上の様な結果が得られました。

文化祭二日制とか、弁論に關していろいろ問題も残されましたが、これをも

ととして、来年はもつとすばらしい文化祭を催したいものです。

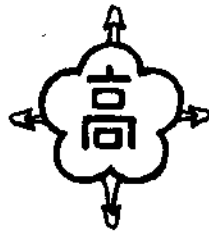


夕陽丘

環状線桃谷駅から五分、大手前並の校舎があり、校内では現在あちこちで工事が行なわれちよつとごちゃごちゃして、お世辞にも、校舎、設備がりつぱとは言えない、夕陽丘は清水谷、大手前と共に、我々が生れた頃、女学校から普通高等学校に変わったもので、どことなく大手前にも似ている所がある。

我々が訪問した時ちよつと文化祭の最中で、自治会の人があつちこつち案内してくれた、この文化祭の各クラブの展示は2〜5日間一クラブによつて異なる。放課後だけ行なわれ、大手前が国民会館でやるような事は、同じ様に四天王寺会館で行うのだそうです。

文化祭で大手前と異つた事は、ちよつぱな温室を持つた園芸部が活躍している事と、茶道部のきれいな女の人が、お茶



をふるまつてくれることだ。一ねんのためと言つておきますが、お茶をふるまうのは、我々の訪問した翌日からこの事だ。・・・・・さんねんでした。一運動場ではホッケー部が練習中で我々には目新しいものだった。又我校との定期戦でおなじみのサツカー、ラグ

ビー部もハリキツて練習していた。

校内をあつちこつち歩いてみて、女子によく会うので「女子の多い学校ですわ」と聞く

ですよ、あなたも学校と同じぐらいじやないですか」との事だったが、清水谷の制服によく似た、青色のえりのセーラー服を着た人が、男子よりはるかに多く、「恋人を持つなら、止

のように、なかなかチャヤミングな人も多いように思えた。

自治会の人のお話によると、毎日と言つてもよいほどフオイクダンスを行うとの事だからも夕陽丘の校内の気が推察できよう。又大手前が北野と行つていような對抗戦をやりたいとの事でした。実現したら北野に負けず、すばらしいでしょう。





プー ル 学 院

男女交際禁止、これはある程度の下
心を持つて行つた我々にとつてはショ
ックだつた。時間があつたら余程その
わけを聞こうと思つたけれど、学校の
方針がそれによつてかわるわけではな
いのでやめた。

もう一つ驚いた事には、この学校は
府下で二番目に古いそうで、来年で創
立八十五周年になるそうだ。女学校では
我が校が古だねきだと思つていたら、こ
こにもつと古いのがあつたわけである。
またこの学校はイギリス系のミツシ
ョンスクールで、寄附は一切なし、授
業料も公立校より幾分安いという事だ
ある。あちらの先生はこの点を強調さ
れたけれども、残念ながら我々は、男
子であるので指をくわえるよりしかた
がなかつた。

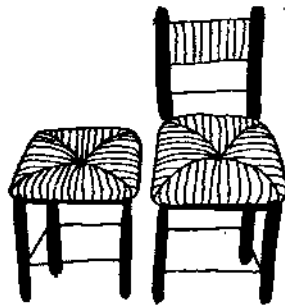
特殊な点と言へば朝に礼拝があるこ
とであろう。これは火曜日を除いてあ
り、火曜日には聖書の話があるそうだ
また十曜日には土曜学校と言うもの
があり、隣の小学生と遊んだりするそ

うだ。校舎を一通り案内してもらつたがまるで迷路の様で
その上人影がなく静かで、その日が雨天のためだつたから
なのか何かうす暗く、そして廊下がだだゝ広く、又我々が
この学校において特異な存在であつたため、気味が悪かつ
た。しかし体育館には入つてみるとまるで逆で、明るい
光線のしたで所狭ましと

(實際少しせまかつたが)

黄ろい声が弾んでいた。

しかしよく見ると背の
低い女の子が割と多いの
である。発育不良の女の
子が多いのかと思つてい
たら、実はそれは中学生
達だつた。ここはエスカ
レーター式の学校である
から中学生と高校生が同
じ所でやつていたわけだ
ある。女学校でイギリス系のミツシジョンスクールなどと聞
くと何か厳格な感じを受けるが、プールは決してそんな事
はなく、若い先生も多いし皆ほがらかで活発そうだつた。
それが証拠に玄関を入つた所にズラリと何の賞状か知らな
いのが並べてあつた。プールを一口で言えば外から見た感じ
と、実際とは全く違ふと言うことではないだろうか。



校門をくぐつて、最初に感じたのは、木が少ないことだが、それだけに男替的な感じがした。正門から校舎まで、コンクリートの道が通つていてとても広々とした感じを受け、ますます大手前は貧弱に感じられる。

生徒会室へ行くと生徒会役員の前期から後期への引き継ぎをやつていたにもかかわらず快く対応してくれた。しばらく引き継ぎ式を見せてもらった後、役員の方と生徒会のことなどについて話をしてもらつた。引き継ぎの時期としては少しおかしいので聞いてみると、後期役員の出候補者がいなくて、一ヶ月ものびたさうである。生徒会に対する

テレオ装置も完備し、コントロール室もあつて、LP同好会の方がレコードを聴いていた。放送部室にも立派な装置が置かれていたが、放送部員しか使えないということだ。雨あがりですし水たまりもあつたが、広い運動場ではラグビー部やサッカー部が泥まみれになつて走りまわつて

いたが、ちよつと見た感じではあまり活発そうには見えなかつた。この学校の運動クラブは、部員の少ないのが悩んださうだ。文化系クラブはあまり見ることが出来なかつたが、本校にはない、茶道部、筆曲部があり、きれいな和室や、立派な筆の並んだ室などがあつてうらやましい限りだつた。

旭 高 等 学 校



生徒の関心はうすく、それだけに執行部はやりにくいさうだ。ここでも最悪決定権は校長にあり、代表会議で決定した事もほとんどだめになるといつておられた。以上の二つのことから生徒会の活動はあまり活発ではなささうだつた。

このあと生徒会の人達の案内で校内を見せてもらった。校内はどこも新しく、明るくてとても気持がよい。図書室は開架式でたいへん広く、自由に本を見る事が出来てずつと利用しやすさうだ。被服室や調理室も広く、設備も良く放課後は誰でも使えるさうで、我々が行った時も数名の人が熱心に何かやつていた。音楽室は音響効果が施され、ス

全体に近代的な感じがし、教室の数も多く、色彩的な配慮がなされておられ、クラブの部室もモダンであり、我が校の古い校舎とはあまりにも対照的であつた。

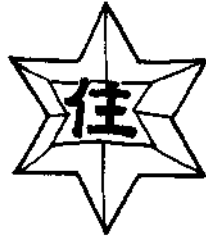
生徒会としては、今後の目的に、生徒に生徒会に対する関心をもつともたすことや執行部や常任委員会に横のつながりをもたせ、もつと協力し、充実させたいと、新役員らしく希望を語られた。

風紀の点では、非常にきびしく、無帽などは、びしびしとお叱りやをくうのであるということだ。我々は生徒会の人に見送られて、美しい校舎を後にした。

住吉高校

阿倍野橋から南海上町線で七、八分ぐらいの北島で下車！書類といっしょに置いてあった。（御苦労さんでした）

して、ゆるい坂をほんの少し下りると、左側に本校よりも広い門のある学校、すなわち、府立住吉高等学校がある。門をはいつてまず最初に気がついたのは、その静かなこと、時々通る自動車や電車の音がするだけで、本校のようには、始終自動車や市電の遮つて



いる所とは、比べものにならないほどで、うらやましいかぎりです。もうひとつ、この学校では、自転車通学が許されており、ひとつ半の部屋が、その置場にあてがわれており、約百台置けるようになって

なっています。諸君の中には、通学するのに徒歩では遠すぎるが、電車では近すぎたり、又、遠廻りになるといふような人がいるでしょう。そんな人達は、さぞうらやましいことでしょうね。（びつたりよ）

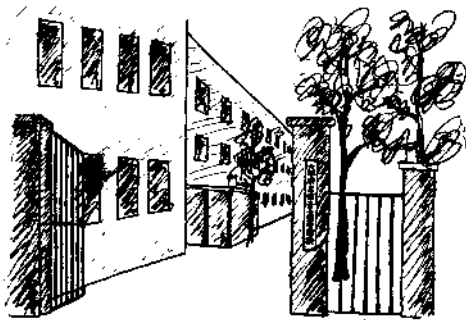
最後に食堂をのぞいて見ると、記念館が使われており、本校の拡張する前の大きさと同じぐらいか、少し大きいようでした。その種類は、少なかつた。もつとも本校ほど種類の多い学校は、ほとんどないでしょう。

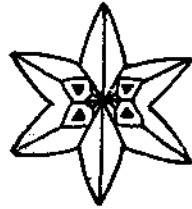
ここにあり、よけいに小さく思われました。又、本校の頼んでおいたアンケートを捜すのに、書類棚をひつかきまわしてひと苦労、よくよく見ると机の上に他のその活動は、一見したところでは活発のようであるけれど本校と特に変わっている所はないようです。

クラブ活動を見ますと、拳法、洋弓、アイスホッケー等のクラブがあるようですが、あいにくと活動している所を見られませんでしたので、どの程度活動しているかわかりませんでした。

最後に食堂をのぞいて見ると、記念館が使われており、本校の拡張する前の大きさと同じぐらいか、少し大きいようでした。その種類は、少なかつた。もつとも本校ほど種類の多い学校は、ほとんどないでしょう。

他校と比べると「まあそんなもんでしよう」という所です。「陽もだんだんと校舎のむこうへ沈みつつありましたのでこれで、失礼させていただきました。」





北野

大手前と姉妹校にあたる北野高校を訪れてみた。交歓会などでよく知っている学校だ。校内をくぐつてみてまず最初にいかにも高校らしいふん囲気をもった所だということが校舎の建て方や、附近の環境等を感じられた。大手前も始めてこのぐらゐの場所に存在していたらなあと思う。我々の学校よりも広いプールや体育館、テニスコート、バレエコートなど我校にあるものはほとんどそろっている。特に食堂は広く明るくて清潔そのものだった。でも少し料理を出し入れする所が狭いように思う。昼食の時などはさぞかし混雑するのではないだろうか。

運動場では「ラグビー部」や「女子ソフトボール部」などが活発な活動をやつており、この学校でも運動クラブは活発であるということがわかった。それに、我校にないクラブ室がそれぞれあつたのはとてもうらやましかつた。文化系クラブの活動状態を見ることはできなかつたが、大手前とあまり差はないようだった。

この学校の自治会を訪れて、自治会の組織や活動などについていろいろと聞かせてもらった。まだ前期の役員から

バトンタッチされたばかりだそうで、今のところ大きな仕事にあたつてはいる様子もなかつたが、後期の役員が、これから行おうとしていることは、修学旅行の楽しみを男子生徒にも持たすことと、食堂値上げ問題だそうです。修学旅行は今まで女子だけで行われていたが「我々にも行かせてくれ」と一・二年生が強く希望しているそうです。自治会本部の壁にもそのようなことを書いた紙が何枚もはられていた。食堂値上げはつい最近あつたそうです。このことについては大手前とも共通した問題だったので反対に質問されました。この食動の値段は大手前とあまり差はありません。

この学校も一般生徒からの盛り上がりも少なく、自治会役員だけが動いている様子だった。「自治会が主催してフオークダンスを行なつても集まる人数があまりにも少なすぎる」とぐちをこぼしていた。この点においては我校とよく似ている。それに代表会議を開くにも、代議員があまり出席しないので満足なことができないと言つていた。おそらく自治会への関心が我校よりも「ウスイ」からだと思ふ。

我々は大手前では見られないりっぱな玄関を通つて、北野高校を去つた。

高等学校

市岡高等学校



自治会活動の活発なことで有名な市岡高校を訪ねた。この学校は市電市岡元町三丁目をおりるとすぐ目の前に見える。校内を通るとすぐ広い運動場があり、そのすみのコングリートの道を通つて校舎に入る。生徒数約二千で定時制もあるようだ。校舎そのものはあまりきれいでもなく、うすぐらかつたが、何となくいきいきとした感じがした。二つの校舎で囲まれている中庭は我校自慢の中庭に負けないくらいりっぱで、緑がいっぱいだつた。体育館も柔道場も卓球場もあつた。体育館ではバドミントンクラブや体操クラブが練習を一生懸命やつていた。体操部では団体へ出ることもあるそうで、この学校のクラブがたいへん活発であることを感じた。残念なことと同校には我校自慢のラグビー部がなかつた。クラブ員に、生徒会に何か不満があるかと聞いてみると「予算のことだけです。」と言つていた。彼らは皆生徒会に関心を持つていたように思えた。文化系クラブも活動を行つていたので美術クラブ

や文芸部を訪ねてみた。美術クラブでは前からの作品が山のように積まれていて部室も一教室分の広さがあり、活動もしやすいように感じられた。彼らはクラブの中にも話し合う場所を持つてゐるそうだ。また特別教育活動（我校ではロングホームと呼んでいる）は週二時間あり、その大部分を話し合う為に使い、大手前のように、娯楽のために使つてゐる時間はほとんどないそうだ。そういうところに、市岡高校の特色がでてゐるのではないのだろうか。又授業時間数は文部省の定めてゐる最低基準だそうである。また生徒会役員の人達も毎日遅くまで学校に残りそれぞれ仕事をしつゝ、とても忙しそうだつた。この学校では生徒会というものを、先生方も重んじてゐて、生徒会に自由な活動をさせてゐるようだつた。そこに市岡高校の生徒会は活発であると言われている原因があるのだろう。外はもう暗くなつてゐたのにまだ運動クラブは練習をやつてゐた。我々は市岡のより一層の繁栄を祈りつつ門を出た。



上本町二丁目で市電を下車し、東へ五分程歩くと、我々となじみの深い清水谷高等学校がある。あまり広くない運動場左横に見て玄関に入った。事務室で自治会の人を呼び出してもらつて

いる間、上靴にはき替えるようにいわれた。というのは、新校舎ができたので、校舎をよごさないためであろうか？ これは今年からである。

自治会会長の方に案内。説明してもらつたが、清水谷では生徒総会の定足数二分の一で、我々校にくらべ、非常に少ない。ここに自治会への関心を弱くする一因があるのではないだろうか。校内を案内してもらい、切めに自治会本部を見せてもらつたが、雑然とした様子は我が校と同じである。だが、ここには少ないが傘の設備がある。傘を忘れ、他の人の傘にも入れてもらえなかつたりする大手前生に比べてうらやましいことだ。次に放送部室を見せてもらったが、スタジオ・モニター室があり、非常にりつはなものであつた。珍しいクラブとしてH.I.Y.クラブ (H.I.Y. club) の略だそうである。文化系ト教の精神で色々な事を研究するのだそうである。文化系クラブで言える事は部室に恵まれている事であろう。ところで運動系クラブは文化系より活発であるということだ

清水谷高校

つたが、雨のため練習が見られなかつたのは残念であつた。我々の盛大の関心事、食堂は、我が校よりは幾分広く、コーラの自動販売機がおいてあつた。不思議な現象として我が校のものと同じソーダ水が、二十円で売られていたことだつた。權堂に聞しては、やはり狭く全生徒は、とうてい入らないとのことであつた。校内を一通り見て感じた事は、我が校より机はきちんとならび、掃除がよくいきとどいていて、これは見ならうべきであろう。

話はかわるが、男女比が7対3で清水谷といえば、女学校を思い出す我々にとつて、不思議な感じがする。フォークダンスの時も、男子がはみだすか、又は野郎と野郎が手をつなぐという味けない状態になつてきたらしい。ここで一つ言つておきたいことは女生徒が親御なことである。どこかの高校の女生徒もみならつてくれたらなあと思つた。一女の方失礼！一般的なにいっておちついた感じのする学校であつた。





高津高校といえば、我々はまず何を考
えるであろうか。それは制服がないこと
だろう。だからさぞまぢまぢの服装をし
ていることだろうと想像していた。だが
校門をくぐるとそんなことはなく

ある。自治会活動は生徒全体が早いという理由であ
まり活発でなく、総会も執行部が任期中、二度しか開かれ
ず（うらやましい人も、いるんじゃないの）生徒全体も
自治会活動には、たいして関心を示さないようである。

男生徒はもちろん、女生徒も大手前の制服と同じ

食堂は地下にあり、非常に暗く、陰気な感じを与へ

ような服装を着用しており、清純な感じを与える。

又、きつねうどん二十円、カレー四五円と我が校よ
り安い、まずくてとても、毎休けい時間に、いり

清掃はよくいきとどいている。校舎の広さ・壁のよ

びたるというわけには、いかないようである。（か
わいそうね）又この学校は上本町四丁目、清水谷

これ方・明治何年製？と思われる机・殺風景な運動
場など、我が校とそっくりである。「この学校は殺

のすぐ近くに、あるので清水谷の女生徒が遊びに来
ていたのも印象的であつた。 我校にもきてくれた
ら？・・・と思う人もおられるのでは。

風景でしょ。元男子校やつたからやわらしい。こ
の学校の生徒は、自分の学校に誇りをもち、自分達

まあ、この学校は我が校と、よく似た、おちつい
た感じのする学校であつた。

の学校に満足して勉学にはげんでいる。だから帰り
も早く、校舎内に残っていない。しかし、五時頃校

舎をまわると、あちこちの教室に灯がつき、一・二

の生徒が、各教室で熱心に勉強していた。まあ、も

つとも、校門をでたからも一・二年生は五・六人づ

つ集まつて、どこかで私的に会合を催し、そこで友

情が芽ばえる様である。

クラブ活動は、運動系クラブは二つある体育館と運動場
で練習していたが、各文化系クラブの活動はたいして、目
につかなかつたのも、元男子校の特徴だろう。クラブ数は
全体で四十余り、運動系文化系クラブの比はほぼ一・一で

高 津 高 校



同志社香里

何しろ学校に入ってから出るまで終始おどろき通して、「こんな素晴らしい学校を他校の生徒に紹介できる同ヤンがうらやましいな」と思った次第。

クラブ活動は活発で、我校にないのだけをあげても運動系のレスリング、スキー、器械体操、文化系では宗教オルオイス（聖歌）、吹奏楽・コロロのクラブ、他にゴルフ・マンドリンの同好会などがある。

最も聖心のある食堂には、赤、青、黄とまるで「日のお正月」を迎えたかのように色とりどりの椅子が並べられてあり一角にはテレビまで据えられてあり、うらやましいかぎりであるが、味の方はどうか？一参考までにここは種類のみ三研の由一。

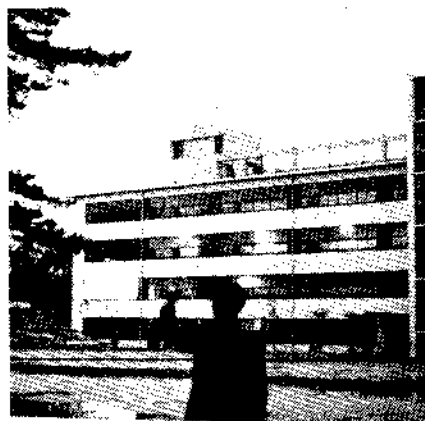


この十月に出発したばかりという総合体育館は、一階にはレスリング、剣道、柔道、卓球に教室より広い練習場が与えられていて、二階の体育館は市立体育館並みのバカデカイもの。

各科の特別教室も立派なものばかり、生物、物理、化学の教室はみな実験室と講義室とに分かれていた。最後に案内された天文台ときたらうらやましいかぎりである。

この訪問の締めくくりをするにふさわしいものだった。中学の校としては全国一、高校でも十指には入るといふすばらしい望遠鏡があつた。上星の輪の stjya、吹田あたりを歩いている人まで見えるそうだが、皆既日食観測に、北海道まで出かけて行ったそうで、その時の連続写真も見せて下さった。「天気がよければきれいな半月が見られるのですがネー」といわれ、残念がりがながら天文台をあとにした。工事のあとで、校庭はまだよく整備されていなかったが、他のすべての点で、我校とはケタ違いに立派で美しい学校。そんな印象を受けた訪問だった。

✽ P.F.R. (海外文通クラブ)



近鉄阿倍野駅から歩いて十五分の距離、繁華街から少し入った所にあるのが天王寺高校である。周りは静かであり勉学には適した位置にある。現在全生徒数一五〇一人、三〇クラス、男女比はおよそ七対三である。第四学区に属し、東住吉、西成、浪速、などの区からくるそうである。又、給料生活者の子弟が多く、そのため教育には理解があるそうである、これは我々を案内して下さった先生の話。この先生、「ええ天王寺は・・・東大には何人・・・京大に何人・・・又各中学校は私の所をめざして勉強しているとか：：：」

なかなか熱心に話をして下さった。その言葉通りこの学校の進学率は、ご存じのように超一流であり、又、それに比例するかのごとく運動の盛んな学校としても知られている。これも元男子校のなごりであろうか。そのため運動系クラブの動きは活発で、月曜日から土曜日まで毎日かかさず練習するようで勉強をもわすれて、といった所か。十六ある運動系クラブ、ラグビー、ハンドボール、

水球、サッカーなどは、全国的レベルに達しており、他のクラブもなかなか活発である。それにくらべると文化系は少し活発とはいえないようである（失礼！）我々が訪問した時も演劇部が練習



天王寺高校

してただけであつた。しかしどの学校にも言える事だかわからないが、部室についてはめぐまれてる状態とは言えないようであつた。校舎は壁の色の関係か我が校より暗い感じを受けた。風通しのよいのは一とくに冬一いずこも同じの感を与える。同じといえは、この高校も生徒数に対し、講堂がせまく、生徒総会も体育館で開くという新一あるいは珍？一現象をひきおこしているという。図書館は開架式であり、我々にとつてはうらやましい事である。運動場は我が校とはほぼ同じ広さであるが、運動場での事故数はかなり多く、これは放課後各クラブが一せいに練習を始めるからだそうである。一

元気余つての事ですか・・・

我が校とちがう主な点は六時間目終了後H・Rが十分間おこなわれる事。春休みに課外はなく、夏期に十日間位あるだけだそうだ。（これはしめた！と思つたんですが・・・試験休みはありません・・・ほんと「幸あらば苦あり」ですなあ自転車通学が許され、五〇人余りが利用しているとの事。

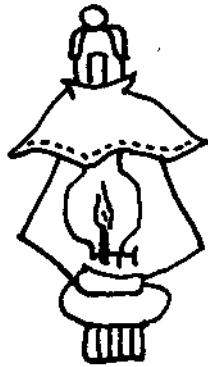
又この学校は夕陽丘が女学校であつた時からの行事で、今も春に交歓試合を行ない、秋には北野との交歓を行なわれている。

全体としておちついた感じのする学校であつた。

汎愛高校

かねがね校舎の事についてはうわさを耳にしていたが、これほどすばらしい物とは思わなかつた。うらやましいと思つた点をあげてみると、まず普通教室にはそれぞれロッカー・ルームがあり、その中には我校の約二倍の、入れる物を思案する様なやつが並べてあつた。その室も女子と男子で区切つてあり、臨時の更衣室にもなるわけである。国語・数字、英語を除いてはすべて特別教室でうけるようにしてあり、そのまた

特別教室のすばらしい事・調理室へは入つた時などまるで電器器具の展覧会場（来たような気がした。体育館は我校の二倍もあり、その中ではバスケット部と卓球部それから体操部が場所を待てあ



ますかのように使つていた。でも一つだけ我校の方がいいと感じたのは食堂である。しかしこれは料金を除いての話。こちらはべらぼうに安かつた。

もう一つこの特長と言へば女子が男子よりも多いと言ふことであらう。チャイミングな女の子が大勢いるのに、なぜこの様な現象が起きるのか我々は不思議でならなかつた。どうもチャイミングな女の子の数と男子の数は反比例するらしい。大手前がいい例ではなからうか。へんな話になつたけれど、女子が多いからと言つて必ずしも男子が小さくなると言ふ事もなく、又女子の意見ばかりが通るといふ事はなくそこは和氣あいあいとうまくいつているぞうだ。どこかの学校の様に、栄養失調で發育不良、運動神経が鈍くて、若い者の意見などにはめつたに耳を貸さない、ガタの来たような先生ばかりでなく、若いハツラツとした先生の多い事もこの学校の特長ではないだらうか。

学校が直前している今一番の問題は校門の前が私有地であるために道路は代表的な日本型で、街灯もなく防犯上悪いので市に買いつつてもらうように交渉しているそうだがうまくいくことを祈つて我々は汎愛を後にした。



クラブ紹介

書道部	生体部	陸上競技部	文芸部	写真部	地理部	F.S.部	新開部	地歴部	音楽部	バレーボール部	硬式テニス部	軟式テニス部	サッカー部	弁論部	
.....	
54	52	50	49	48	47	46	45	44	43	43	41	40	38	38	37

弁論部の現状



「一年生、だれか入ってくれないかなア」

これが我弁論部のいつわらざる気持なのである。現在一年生の部員は男子二人、女子一人の計三人しかいないのである。

「なぜみんなはいらぬのかしら。弁論と聞いて何かこわい、むずかしいクラブの様に考えておられるのではないかと我々は考えるのですが。実際そんな人が多いようですね。そこで我々はもう一度活動やクラブのことを知ってもらおうと思います。」

活動は毎週二回。この時に練習、討論を行います。練習といつても実に楽しいものです。各自が原稿を書き、それを話すのです。聴衆は部員です。時によつては、放送部で借りたテープレコーダーを使つ時もあります。そして自分の声を聞くのです。自分のくせがよくわかります。また野次もよく入つていて、大変おもしろいです。練習の時には内容は全く問題にしません。問題にするのは発音です。発音が悪ければ誰も聞けないからです。要するに弁論で最も重要なのは発音なのです。しかしそれでいて活動日には発

声練習をほとんどしません。というのは、発声練習は「話」をするものとして、常日頃からしておく必要があるからです。活動日にはその日頃の発声練習のかわりに、原稿で練習を行うのです。ついでに日常の発声練習が弁論部でよく話題になります。聞いてみるとおもしろいんですよ、アレが。また即題弁論を行う時もまれにあります。あれはなかなか言えないものです。弁論で最もむずかしいのではないのでしょうか。あれがりつぱにできたらいしたもんですよ。討論、これも実に楽しいものです。討論というのは、意見が平行線をたどるようにせず、歯車がかみあうようにするのが理想的で結論を出すのを目的にしています。現在の日本人はいまだにこのように話し合うという習慣を余り持っていないません。そしてそのことは高校生の中でも言えます。そのような悪習を打破し、貞の民主主義社会を建設するためにも次代をになう我々高校生は討論をする機会をできるだけ多く持つべきだと思つたのです。そのような意見に賛成される方、ぜひ弁論部へ。

弁論部の中は明るいのです。実に明るいのです。弁論をする人間に暗い人間はいません。また弁論部は和やかです。皆が他の部員と協調して活動を行います。一度そんな人と活動してみたい方、ぜひ四階弁論部室へ。食堂に一番遠い、大手前の離れです。(弁論部)

サッカー部

人間は考えるあしである

人間は考える葦である（パスカル）この意味は、頭を使つて、足で競技するスポーツが人間にとつて一番有意義であるという事です。頭を使うということは、作戦のこと、ひいてはヘツディングの事をも意味します。足はもちろんキック、ランニングです。パスカルの云うとおり、今やサッカーは、世界でスポーツ人口が最も多い競技の一つとなりました。ヨーロッパ、東南アジアでは、道ばたでいつも子供がボールをけているのが、見うけられます。広場では、背広を着たおとなが試合のようなものをしていきます。そう、丁度、日本ではキャッチボールをしているように。なぜ、こんなにサッカーは普及していくのでしょうか。お

もしろいからだ。この一語につきまます。第一足の力は、手の方の数十倍？いやこれはサバを踏みすぎた。数倍あります。これによるスピード感、これこそサッカーの生命です。第二のおもしろい理由は、簡単なことです。勝つためにはどうすればよいか。木のワクにボールを入れればよいのです。反則といえば、手を使う事です。そうして最後に、巧妙な、裏をかく戦術遊びであるからです。ここで一般論

をやめにして、次の文章を読みましよう。「みなさん！大手前高校サッカー部に入りましよう。楽しいふん囲気持のよい汗、試合に必らず勝つ喜び、これらは、高校生活にプラスになることを信じて疑いません。我々のめざすところは、サッカー部のサッカーではなくて、みんなのサッカーです。サッカー部に入らないにしても、大手前高校のサッカーに関心を持つて支援しましよう。なお、今は、マネージャーがおりませんので、女子の方は、どしどし応募してください。応募者多数の時は、面接試験をして採用します」

「人間は考えるあしである」パスカル

軟式庭球部

根気のある人達に

一般にテニスと呼ばれているものに軟式テニスと硬式テニスとがあります。硬式テニスの方は国際的に発達したものであり、軟式テニスは我国独特のものであります。一見してテニスとは上品でかつこのいいスポーツです。さしずめ男子ならプリンス、女子ならプリンセスといったところでしょうか。そして誰にでも手軽にでき、たやすいスポーツのように見えます。しかしその技術は奥深くやる気のな

い人はとうてい見込がありません。

そこで当軟式テニスクラブでは、やる気のある人を求めています。たとい鈍くてもマラソンがピリの人でも結構です。やる気があればいいんです。

今、ここに男子、女子クラブを別々に分けて紹介しましょう。

先ず男子に於て、現在の部員数は二十名近くです。しかし名前が頭の中にあるのはわずか七、八名にすぎない。それは試験が終了すると練習に顔を見せるといつた、ズル賢しい者もいるからなのです。その結果、毎日練習している者と、そうでないものとは、当然差が出てくるのです。そして悪循環して、試合に出るものはよく練習するし、そうでないものは練習しない。そういつた者には練習させたくもないのです。本来のクラブの意義から言えば、それはまちがった事なのですが、現実には、しかたがないのです。もう少し考えねばならない事もあるでしょうが。

過去の大会記録はあまり芳しくなく、現役一年生では一チームだけが大会に於て、第一・二・三回戦まで勝つて、その他は敗北の連続、二年生は、小さな学校対抗では、優勝とまではいかなくとも上位にいる。しかし、それも調子の良い時だけ。全般から見ると、他校と比べて少し劣るようだ。(これは他校のテニス部員から聞いた言葉)

我々クラブ員も別に上手だとも思っていないませんが、他校との練習量から比べると、まあまあです。当クラブの一番の悩みは、クラブ員の不真面目さにあります。大学進学のことを考えているものが殆んどだし、下校時間も早く五時一冬時間一になつていく。この状態では、大会に勝てる見込みはますますなくなるのです。一応男、女子ともクラブ員はいるのですが、現実には女子はあまり練習できないのです。それも当然の事ですが、クラブという名のもとにおいて考えるとメチャクチャな練習方法ともいえましょう。女子を教えるとなると、その運動神経の鈍さ、練習意欲の乏しさまことに難しい。コートを使つてもらうのがもつたいない程です。この点では女子には良くは思われていません。それでは女子の方へバトンを渡しましょう。

女子の部の一番の欠点は練習に来る者の顔ぶれが一定しない事である。なまけなかな。公認の大会に出場の経験のあるのは一年では一チーム、今の二年生の人達は試合に出ても三チームそろつて出場できるからいい、といつて部員を募集しているのかというと、決してそうではない。要するに、根気のあるやる気のある部員が欲しいのです。今名簿に載っているのは二十名以上、真面目に出席しているのはわずかに五、六名、みんなキャリアのない未熟者というわけで来年の春が思いやられます。

九月二十四日、旭高校と試合をした。二年生の人達から二チーム、一年生から二チーム。練習不足にもかかわらず森、北村組は決戦でみごとなチームワークを見せ、交歓試合の意義を果していた。一年生も相手の一年生にストリート勝ち。又、十一月二日の北部大会でも団体戦は二対一で寝屋川高校に勝った、その後の汎愛高校との二回戦では惜しくも負けてしまった。

クラブのふん開きはいつも来ている者ならよくわかつているだろうが、極めてなごやかか？。男女の部員の練習上での仕方など他のクラブには負けない楽しいものがあると思う。一もちろん、男子の練習の妨げになつてはいるであろうが：。。

あまりにも簡単な紹介で申しわけないが練習状態を皆さんの方ならこれ以上の事もおわかりでしょう。これからは今まで以上にきびしい練習を積み、来年にそなえたい。

テニスはマナーの スポーツ

硬式テニス部

以下ここに硬式テニス部の最近の活動状況、対外成績及び将来等についてその概略を述べようとするものであります。まず最初に、活動状況につきましては、部員総数



名うち女子部員 名であります。これ迄はコートを中心にして実戦に則した練習が主体となつてまいりましたが、これから冬に向い、コートの状態や風等の外的条件の悪化が予想されますので、来春ま

ではランニング等の基礎練習を重点的にやつて行くつもりです。次に対外成績であります。これは、去る八月の大阪総合大会にはダブルスでベスト八に二チーム又、新人学校対抗でも三回戦に進出し、そしてこのたびの新人個人戦では予選なしの決勝トーナメントの出場となり、又残りの人も予選トーナメントではトップアシッドとなるなど、進境めざましいものがあります。最後に我が硬式テニス部の将来とテニスそのものについて少々述べさせていただきますならば、前述の通り我がクラブはここしばらくのうちに、かくのごときすばらしい成績をあげ、現段階におきましてもA級候補生と目される人も数人いるなど、なお今後において一層の躍進が期待される所より、来年にはA級入りする人もかならずや出て、近い将来には大手前硬式テニス部最盛期のごとく全国にその名をとどろかせる日の来ることでしょう。

硬式テニス部がこのように目ざましい進歩を見る事ができましたのも、ただ単に、テニスそのものだけの練習にと

どまらずテニスを「プレイする」ために必要なマナー等を
すすんで学び、それを尊ぶ部員の気持のたまものといわね
ばなりません。現在に至るまでの、世界の最もすぐれたテ
ニスプレーヤーである「ウィリアム・T・チルデン」は彼
の著書の中で次のように言っております。「試合に敗れた
からと言って我々が思う程下手なプレーヤーでもなければ
試合に勝つたからと言ってそれ程上手なプレーヤーでもな
い。要はテニスは楽しくプレイすれば良いのであって、楽
しくなければやめてしまえばよい。」ここに言われていると
おり我々は楽しくプレイする事を欲しており、ここにもう
一度、テニスはマナーのスポーツであるということを強調
して皆様のテニスとマナー一般についてのより深い理解と
我クラブに対する、いづくしみの情を御期待申し上げ筆を
置くしだいでありませう。

バレー ボール

皆さん考えてみてください。あと何日かたつとオリンピ
ツが東京で開かれます。日本の独壇場であろうと予想され
ていた柔道が世界選手権をオランダのヘーシンクによつて
無残にも敗れ、陸上競技唯一の望みをかけたマラソンも、
皆さん先刻の東京国際スポーツ大会で御覧のとおりです。

これではいくら設備に金をかけたところでどうしてオリン
ピツクが盛り上がるでしょうか。アメリカやソ連が沢山の金
メダルを獲得するのをただ指をくわえて見なければ、なら
ないのでしょうか。しかし皆さんが安心してオリンピックの
優勝を信頼できる種目、しかもそれは男女二種目の完全
優勝こそです。バレーボールです。バレーボールこそ
日本がアメリカ、ソ連を向こうにまわして一歩もひけをと
らないスポーツなのであります。又このバレーボールは、
すこしの場所と比較的にたくさんの方が一緒に楽しめる最
も理想的なスポーツです。本校でも最も理想的なスポーツ、
理想的なクラブが担当し活動しています。

真のクラブ活動のあり方を取り入れ実施し理想的クラブ
をさらにもつともつと理想的なクラブにする為、クラブ員
全員が一体となつて努力しています。極端に上級生が上級
ぶり下級生を拘縛することはあり
ませんが自由ななかにも一本「筋
」が通つています。チームワーク
は、他のいかなる学校と比べても
決してひけをとらないと断言する
ことができます。年々二度の総会
も開かれており何か大きな暖い
家庭のようなふんいきのするクラ
ブであります。総会といつても、(四十三頁へ)



明月の音楽部

困苦しいものではなく、夏休みにはバス一台を貸り切つてどこかへピクニックへ出かけます。どうですか皆さんもバレー部に入つて一度バレーボールをやつてみませんか。

☆ ☆ ☆

音楽部は現在四十名余りの部員がおり、毎週火水木の放課後に練習を行つています。しかし、文化祭やコンクール前には毎日のように練習をします。クラブ内は至つて明るく、

落着いたふん囲気があります。学校の色々な行事で活躍していることは御承知の通りですが、部員の最大の関心事は毎年十月に行なわれる毎日学生音楽コンクールであります。出場するため一入賞するために？一学期の末頃から曲を選び、夏休みには、猛練習に入ります。

二期になると、一学期の始めには多かつた部員もだんだん姿を見せなくなつて本当にコアラスの好きな人はその練習によつて、ますます部員として成して行きます。こういうとんだか、音楽部は歌の上手な人ばかりで練習も相当しんどいんだと思われかも知れませんが、曲が終わると半音、時には一音位、狂つていたりする事もしばしばです。練習も気楽にやっています。コンクールに参加するこ

とによつて部員間の親しみが増し楽しいクラブのふん囲気が生まれます。現在のところ残念ながら練習に出て来る部員は半数位という状態で、毎年三年生有志の方に一緒に出場してもらつています。少数であつても歌の好きな人が楽しくやつていたらそれでいいだと思つておりますが、六十名位の部員を常に持ちすばらしい合唱ができたらどんなにいいだろうなあと思っています。もう一つ残念なことは、何年か前に一度三位に入賞したつきり……。

地歴部とは

地歴部

本階三階中央、騒しい自治会本部の前に、これ又、対照的な静けさの社会科学研究室がある。これが地歴の部室である。つまり私達は本当の部屋をもたず、社会科学研究室に、食客（いそろう）の身なのである。食客の常で、食客とも思わず、ひげづらをして、ボサボサ頭で勝手気ままにふるまつてゐる。

高校生活で何が一番楽しいか？それは、この食客のクラブ生活に他ならない。共に笑い、共に苦しみ、共に飯を食う。勉強もやり、研究もし、そして大いに遊ぶ。下らんシヤレをとばし、共に映画を見に行き、共に伽藍に接す。野に山に歴史をたずね、青空のもとに笑声が響く。ここに私

達は高校生活の本当の姿を発見するのである。この食客のクラブ生活が教えてくれるのである。

地歴部は実外上品なのである。(こう言うところをゲラゲラ笑いだす人が多いと思うが、その人達は地歴の男子を思い浮かべているのだろうか。しかし、自分の頭をポコンとたたいて

焦点を女子にあててみる、自分の笑い顔が、実に馬鹿に見えるだろう。それでも笑っている奴は、ポコンと頭をたたかねばならない一四十数名の部員のうち、女子が多数を占めている。だから部会の時等、部屋の床が心配でたまらない。現在一年の男子は四名で、この調子だと来年の男子の姿がかわれである。新入男子を望むところである。この多数の女子が、地歴男子と比較して実におとなしく、上品である。一勿論、中にはコワイ女子もいることにはいるが、男子には破壊的な奴が多いが、研究となると破壊が生産へと移り、騒しく、確実に動き出す。男女共協して、調和なして地歴部のふん囲気を作り出して、食客生活を送っているようである。

又この地歴部には、過去に於て、この食客生活を送り、現在ひげ面をそり落し背広に着替えた、力強い先輩がいる。この先輩方は地歴部卒業の人々ばかりで、「はにわ会」なるものを作っている。これは私達が食客生活を送るのに幸福感をプラスしてくれる。私達の進行方向がゆがんでいけば、正しい道に導いてくれるし、個人的相談にもものつてく

れる。資料がたらない時、その解決手段を教えてください。私達が無事に楽しく食客生活を送れるのは、一つには、このすばらしい先輩方のおかげである。

広告集めに

大わらわ

新聞部



新聞部の部室は金蘭会館横の階段を登り詰めたところで、三方に窓があり、窓からは運動場全体が見渡せ、非常にいい眺めです。屋上に通じる窓は、昔は自由に出入りできたのですが、今年になつて動物園の檻のように木のワクを嵌込まれ、これで部室の魅力が一つ減りました。しかしまだまだ、面白いものがあります。その一つは今殆んど音がでなくなりましたが、赤い「卓上ピアノ」です。いつ誰が置いて行かれたのかは知りませんが、元氣だった頃は、高きい音がでました。その次は手動式の蓄音機です。

こういえば、まるで音楽部のようなですね。ずいぶん古い感の蓄音機ですが、ちゃんと音がでるんですよ。ぎこちない感じですが。これは又、同時に将棋板の役目も果たしています。男子部員はクラブの事をそつちのけで将棋に専念します。時には女子も加わり「歩兵まわり」等をし非常に寛いだ

一時になります。といえ、新聞部は遊んでばかりいるように聞こえますが、そうでもありません。私達のクラブの一番大きな仕事は、年五回の新聞発行です。以前は年に八回程発行していたのですが、予算やその他の都合で五回になりました。二年生部員は女子が圧倒的に多いので、皆が喋りはじめたら大変です。頭はガンガン咽は濁れる。でもその割に何も決まらず困ります。一年生が入った時、一番最初に二年生に命令されたことは、広告集めました。この仕事は本当に辛いんです。夏は非常に暑いし、冬は凍えそうに冷たい。学校近辺では割に簡単にとれるのですが、それだけでは足りませんので、遠くへ足をのびさねばなりません。そうすれば、皆さんの行かれる機会が少ないので余り出してもらえません。十軒入って一軒出してもらえばいい方です。何軒回っても収穫ゼロのときは、足は棒になり、とても情なくなつて泣きたいと思うこともしばしばです。でもそんな時に飲む一杯のジュースや、一片のパンの味は格別です。人心地の着いた気がします。こう言つては何ですが、学校新聞に広告を載せても効果は少ないんです。広告とは体裁のいい寄付集めの名目だと思ひます。でも昔は、今のように印刷費を自治会費から出してもらえず、印刷費を賄うために広告を集めたのだそうです。お金の心配をしなくてもよくなつた今では、別に集める必要もないかと思ひますが、記事が少したりない時、穴うめの役

目をしたたり、その他色々役だっていますので、その頻度が残つていゝのです。原稿書きも大切な仕事です。排誌を重ねた上、提出します。自分が一生けん命考えた所を赤で抹殺された時は少しガツカリですが、殆んど原文のまま掲載されますので、後で印刷になつて読んでみた時、恥しい所だらけで「穴があつたら入りたい」という心地がします。一学期は一年生が実質的にはいませんでしたので、心配だつたのですが、二学期になつてたくさん入部してくれましたので、まずは安心というところでは、新聞部はいろいろな社会の勉強になります。

社研

活 動

社会科学部というところ、何かそこには自分とはあまり縁のない研究クラブを理想するのであるが、決してそういうようなものではない。経済学、政治学、歴史学、哲学等々により、社会一般の法則を見きわめる学問なのである。それに、自然科学が、自然、宇宙一般の法則を探り出し、それにより人間の生活の向上(合理化)を目的とするのと、根本的には、一致するものである。その底に自然科学との共通性をもつていゝにもかかわらず、又、何千年も前から科学の分野における自然科学の開発にはすばらしいものがあるにもかかわらず、宇宙のナゾのベールがとがわつたあ

る今日、社会科学の研究には、いまだに、幾つもの課題が残されつつ、作られつつあるのである。社会科学研究を始めてから一年もたれないのであり、刻々と移りゆく社会状況に、前代の偉人により、うちたてられた社会法則を照らし合わせたり、現代の社会状況から導かれた、雑多の問題にとり組むとき、いいようのない孤独感が、大手前生としての我々の心を揺るがすのである。

現代、水・土が、定例会となつてゐる。十一月からは土曜日に、宮川実著「経済学入門」をテキストに学習を始めている。資本主義社会の本質をつかむため、最もその核心をついた我々初心者向きの本である。今までに、数十年前までは学生の必読書であつた「共産党宣言」、「空想より科学へ」等による講座も試みた。量か、それとも質か、の問題は別として、残念であり不安なことは、毎年、社会科学を志そうとする学生が少くなり、その時期が遅らさされていることである。



ESS

がんらい、ESSてえのは変な眼でみられがちだ。奴らに言わせるといわゆる「ええかつこしい」

とか「毛並みがちがう」とかいう事らしい。ところがこちらでは、そうは思わない。こちらでは「ESSにはいつてない奴こそ変なんだ」と思つてゐる。だから君達も普通の人間になりたければ、ESSに入りたまえ。五十円払えば入れてやる。しかし君達の態度しだいでESSに入つても変な奴になつちまうことがある。だから心がまえをしつかりしてもらうために、少しクラブの内容を紹介しておこう。わけもわからずに入つてくやむなんて、プロポーズしておいて後でじやまくさくなるのと同じだからな。

さて本論に入ろう。まずESSの目標だ。English Speaking Societyてなことを言つて英語をしゃべれるようになるのが目的だ。(保証はしないけれど)だが、

向こうでは子供までしゃべつてゐる英語を授業料払つて教わつてゐるのにしゃべれないのはしゃくだ」とかなんとか理屈をこねて、どもりながらかたことをしゃべつてゐるのが現状だ。しかし考えてみたまえ。山をいくつか越えて行けばいつかは海に出るものだ。え、何だつて？次はじめるつて？じやあ次いとお。大きな予算を使つて何やるかつてえ、まず日常の活動として部屋に入つたら全て英語を使つて話す事になつてゐる。ひとことでも日本語らしきものがとびだせば、「罰金五円」て事になつてゐる。だから月末金のないときには、めつたな事はしゃべれないから、皆黙つてゐる事になる。さて年間で一番大切な活動は何と言

つても文化祭だ。E S Sは展示と舞台の両方に首をつつて
んでいる。展示には、英語に関するものなら何でも結構。
さて、お次に一番興味のあるものは、英語劇、楽しみも多
いが悩みも多い。観客には、何言ってるんだか、わからな
い。そこでテープ、トイレットペーパー、それに野次が飛
ぶつてことになる。だがそれも演技と顔でカバーして台本
も諸君にわかるように毎年、毎年、やさしい初級程度のも
のを選ぶようにしているから、諸君の理解さえあれば、成
功することは実に簡単。

さて次に弁論大会、これは全校生徒を対象に行なわ
れる。だから君達、おおいにハツスルして賞品をかつさら
いたまえ。そういう人を大いに歓迎する。さてコンチ又一
番楽しい活動はやつぱしハンティングで事になる。

読んで字の如く外人をハントするわけだ。これは大阪城
だけでなく道であつた外人すべてに対しても行なわれる。
考えてもみたまえ、日ごろの練習の成果がわかる時だ。そ
れにキレイな女の人を見つけて、ペンパルになるチャンス
がごろごろある。考えただけでもわく
わくするじやあないかね諸君。だが楽
しい事ばかり続かないのが世の常。
「討論会」てえ伏兵がいるんだな。こ
れが又きびしい。諸君等がロウ下でや
っているのなんかよりずっと高尚な議



題について二週間みっちり討論する。モチロン英語でだ。
しかしあるものにとつてはカええかつこするのは、この時
だ。てな事になる。他にも文集、他校との交歓会（フオー
クダンスをたつぷり楽しめる）などいろいろ楽しい事がイ
ツパイある。それになんてつたつてE S Sはハンサム、美
人ぞろい。というわけでやつぱりクラブならE S Sという
事になるようだ。

しいて悩みというようなものを探つてみるなら、部室が
せまいという事だ。定員八名の所に二〇名も入るのは、当
然の事ながら定員オーバーだ。交通局から文句がでるだろ
う。どつかいいとこないかいな。という事だ。

理研について

理化研究部

理化研究部すなわち理研はその名前から判断すると、
いかにも難しい事を研究しているように思われるかも知れ
ない。又その逆に実際の活動をちよつと見た人は遊んでい
るかのようにも思ふかも知れない。そこに理研の活動の難し
さがあると思う。大手前では二年生から物理と化学を始め
る、だから一年生部員には中学校の時によほど学校の勉強
以外の事を研究したのなければ、中学校卒業の程度の知
識しかない。又活動の中心になるべき二年生も、理研の活

動内容の化学や物理は二年になつてならうので、一年生の時に活動して得た少しの知識と中学校の時に習つた事ぐらいの知識しか持たない。そういう理由でその年一年間の活動項目を決める時は苦心する。いろいろな本や、又顧問の先生の助言によつてあまり難しすぎないものを選ぶのである。

そのような不利な点があるにもかかわらず理研は、毎年その年の活動を発表する文化祭においてはすばらしい成果をおさめている。今年の文化祭を見てもそれがわかつてもらえると思ふ。

理研の活動の得な点をあげよう。それは自分でいろいろな薬品を手につけて見ることができ、そして自分でいろいろな実験を行い、その結果を自分の目でたしかめることができる。すなわち自分の体験としての知識を得ることが出来る。これは普通の授業にも役に立つものだ。いくら本で読んでも実際に見なければその知識を生かして使いくらい。百聞一見にしかずなのである。

だれでも化学や物理の授業の時に実験するのは楽しいものだ。だから理研も自分で来てそして自分で実験してこそ始めて理研のおもしろ味がわかるのである。また自分で実験する時には失敗したり器具の破損をしたりするかも知れない、しかしその時に先輩に尋ねたり顧問の先生に聞いたりすることによつて進歩するのである。もちろん最初からよく

よく調べてから実験して、その上での話である。また、このように自分で実験することによつて責任感が養われる。これは当然のことだろう。

このように理研独特の特色の他に、一般のクラブのよさというものがあるのはいうまでもない。

最後に、これからも理研部員にさらに一層の熱心な活動と、一般生徒のみなさんに理研に対する正しい理解と応援をお願いする。

写真部

趣味としての写真がこれほどまでに大衆化された国は、日本を除いて他に類を見ることができません。

「めがねをかけていて、そしてカメラを首からぶらさげておれば日本人」これはけつして笑話ではないと思ひます。

我々写真部員は単にこれを趣味としてすまらず、写真を撮ることによつて何かを得ようとしているのです。時には事実にも忠実であり、時には自分の感情にも忠実でもあります。

我々は別に職業写真家になるつもりはありません。またそれにならうとしても無理でしょう。我々はそんな写真家よりもつと新鮮でありたいと思つているからかもしれません。

こう言う部員もいます。「私は写真を撮ると言う事がただ単にそれだけで楽しいと感じるのです。カメラは私のその時の気持ちを素直に表現してくれます。楽しい時には楽しいのを、さみしい時にはさみしい写真を撮つてくれます。故に自分は、カメラが私の心を写し鏡であると思つてい

ます。」こういう人の写真は、その内に何かを秘めたおとなしい作品となつてしまっています。このおとなしい作品の傾向が写真部の大部分を占めていることは、高校生としてはあまり好ましい事ではないのです。このおとなしい性質を遡る程度エネルギーな物にしていくのが、今後の写真部の課題であると思つています。

現在、部員は二十数名おります。この大世帯が理科系教官の厳重な管理のもとにある学側の暗室に間借りしているのです。この暗室は写真部のものではないために、使用の毎に使用届をださなければなりません。

本年度の文化祭には、写真部独特のふん囲気を出すために特に苦労しました。が、やはり一番困難を感じたことは、暗室が一つしかないということでした。一日に消化できる枚数は四つ切でせいぜい五枚程。文化祭展示に必要な約百枚を確保するにはどうしても夏休み以前から製作にとりかからなければならぬということがわかつたのは、すでに遅し文化祭の一ヶ月前だったのですから……。しかし今年度の文化祭にて、わが写真部は文化系クラブとして中

文芸クラブ

意味ある 思想的な発展



「桐文」に全生命をかけていた昔の文芸部と違い、現在は実に広範囲にわたる活発な部活動が続けられている。本年度文化祭における「夏目漱石」の研究発表は、見事に漱石の人を浮きぼりにしている。又目をみはる何物かがあつたことはいうまでもない。

部員はそのモットーを「創作」にかけている。各々の個性を生かし、その好きな小説家の研究に余念がない。それら部員の研究結果は、毎週土曜の午後の討論会において発表される。近き日に「日本文学史研究」と題された講座の集録集が発行されることになつていく。その意義は大きい期待しようではないか。

文芸活動における思想的な発展は意味がある。部員に於てある親念を造りあげていく何かの参考ともなる。幅広い人間性の完成にこれら思想的な話し合いも実に役立つと思われる。その点では、文芸部はその名に恥じない活動をしていると言つても過言ではあるまい。

今年度は文化祭特集号など「桐文」の他に四冊の部誌を

陸上部



既に発行。表面的におとなしい文芸部も今年度あたりから、その活動が盛んになつてきたのは右の数字を見ても明らか。

いよいよ来年から文部の新規の計画をもつて「部員倍増」「桐文の一層の充実」を目標に大いに前進することは確定的。その発達ぶりに注目していかうではないか。

ど走らんぞ」そいつが次の大会で、又、トットコトットコ走つてる。人はいう「単調なスポーツ。何がおもしろいのか」記録に対する挑戦。だが、僕らには何の理論的媒介もいらぬ。「まだ走るのか」と弱音をばく奴もいる。それでも彼奴は走つてる。走る内に、跳ぶ内に、投げる内に僕は生命感の充実を見つげる。しかも、そこに己の姿はないのだ。走つているのは自分でも、自分を感じないのだ。跳んでいても、自分に重さはないのだ。投げていても、投げている自分は、意識の内に遠くにあるのだ。ここに陸上競技の妙があり、一つの絵となる。

伝統的に強いのはジャンプ・特に走高跳、短距離も良い。長距離・投てきには人材は少なかつた。現有勢力も短距離ジャンプ中心。個人で傑出することは難しいが、リレーではいけそう。女子部もある。



暗い体育館、せせこましい運動場。もう御免だ。表へ出る。大阪城へ出てみる。さわやかな掘端の風がほほにあり柔かな芝生の芽が足裏にある。軽快なピッチでとぼす。そこにあるのは己と果てしない芝生の緑だけである。バートの高さが上がる。まい上がつた己の体は一瞬間に止まる。克己ノそんな高尚なものを目ざしているのじゃねえ。「用意」の合図に自分の体重を腕にかけ、首をたれる瞬間この一瞬に生命力が充満する。「あと三千米」苦しさ、全身の虚脱状態以外何があるものか? 「俺はもう五千米な

社研部

日常生活を基台として



「社研」と聞くとおあついで哲学書を片手にした、いかめしい姿の人間を想像される方も少くはないと思う。しかし事實は必ずしもそうではない。なぜなら、我々の討論、思索は常に我々自身の日常生活を基台としているからだ。

ここ本館三階クラブ長屋南端社研部室では週二回の活動日をもっている。討論、思索しあう主題は、政治、経済、社会、宗教、思想、教育、恋愛、哲学、人生等々にわたる広範囲なものであるが、どれをとつても、われわれ学生にとつて切実な問題である。

部員は常に、「人間であること」を考える。

自分という一個の人間とはいったい何であろうか？

まわりの人々という人間とはいったい何であろうか？

そんなものがより集まっている社会とは何であろうか？

そして、なお疑問点を残しながらも、「現状のままではだめだ。なんとかせねば……」という考えに到達した。

これで、社研部の使命も御判りいただけただけだと思うが、部員個人の態度、又社研部という名からくる印象に対して疑

問をもたれたり、その使命からはずれているとお感じになった方こそ、まさき社研部のドアをたたいてほしい。現在、部員13名、まずは順調に活動している。いままでは文化祭の「部落」の研究にとらわれ、部員が思うように活動もできなかつたが、今は、講師を囲んでの部会もあり本格的な軌道にのりはじめています。

高校生 — 人間としてめざめる時代 — というものを、もういちどみつめなおしてほしいものだ。

生物部

清らかなムード



文化祭が終わって考えると、生物部は、ここ二・三の底迷期を脱して来ていて、清らかなムードにあります。それは優秀な一年生の進出であります。二年三ノ四人、一年十人が確実に活動しています。文化祭も終わって新館一階の部室も整理し美しくなつた。そして来年に備えての準備、計画に余念のない所である。これは細かい年間計画ですばらしいものであります。ネズミ（かわい子ちゃん）も一年計画で完全な実験ができます。ところで一般に、「生物部は解剖ばかりしていていつも殺している残酷なクラブ」と

世評があるが、これはいつわらざる誤解である。ほんとに生物部は無駄な解剖をやつていない。今年なんかカエルが七、八匹、バツタ数匹それくらいです。カエルなども生き物でありまして人間なんかと同じように生命をスーと取るものではありません。生命は不思議なものでして、今日この科学の発達した時でさえ、人の手より生命は創造されてはいないのであります。

さて本クラブの活動を申し上げましょう。白ネズミの栄養(アミノ酸ビタミン)の欠乏(勉強(迷路)環境)における変化(赤一色の部屋)とじこめる(シヨウジヨウ)バエは今種属が絶えているが再び復活します。イモリの尾の再生、イカの発光細菌の純粋培養、水カビの研究(すが春)になりますと生物活動期で発生(カエル)なんかも見られるし、カラス麦の生長の実験もできるしで、やりたいことがいっぱいあります。読者の学生諸君は生物の勉強をして「これはほんとかしら」とか「実際に見たいやりたい」と思われる方もあろうかと思えます。例えば、遺伝にしても九・三・三・一に出たとか百匹いて赤眼が五十四匹：と先生が言っているが、僕はだまされているのかも知れない。疑つて然るべきだ。そして実際に数値を出して見れば良いわけです。研究して見ることです。本クラブではそれ以外に、皆さんに直接関係あるテーマも取り上げたい。例えば「力の退治には？」「薬剤散布、水そうに油

を入れる等が知られてるが、研究しますと水ソウなども秒毎に、わずかの波がたてばよいようです。この外いろいろあります。ハエのポリオの油虫、プールの細菌の活動については教科書に書いてある事を実際に行なう。「我々に直接関係したことを調べる。それに高度な、ユニークなものもやつてゆきます。プラスα(合宿の新しくきれいで広く、一番よい部屋)これでも勉強に急がしくて」と言われて本クラブに入らない方にこの言葉をさし上げます。高度なクラブ活動は勉強能率の向上、親友、先輩との交流ができていいと思えます」そして一月くらい活動に参加されることを望みます。その後は続けようと思ふと、あなたの意志です。それでは一度、新館一階入口横の生物部室におこし下さい。



書道部

落ちついた気分を

私たち書道部は、毎週木曜日に練習を行っています。その内容は、みなさんと存知のように字をかくことです。そして「少しでも、美しい字が書けるようになりたい」というのが部員の望みです。

練習は、毛筆、硬筆両方しますが、その日に何をするかというのには、だいたい本人の意志で選びます。そしてその成果（というのには恥ずかしいんですが）は、文化祭の時の作品展で皆さんにみてもらえたと思います。もともと書道部の活動というと同じみなので、外に公表する機会は、文化祭を除いては、ほとんどありません。ですから文化祭が近づくにつれて、その仕合せ（といつてもまだまだ不完全なものです）が大へんです。そして少しでも多くの人にそれを見てもらえたらと思っています。

これからもずっと練習が続きます。少しでも上達するには、実際書く以外にないからです。そして同時に、多少ともおち着いた気分になることもできます。字を書きたいと少しでも思う人は、書道部に来て下さい。そしてみんなで練習しましょう。

自治会の歌

一、揺籃錦城変わるなく

世の潮騒をよそに見て

理想の姿に聳ゆるなる

今その姿仰ぎ見て

集ひて鳴らす自治の鐘

集ひて語る自治の魂

二、仰げば高き北斗星

またたく星の玉響や

三年のえにし浅からぬ

淀の水際 道遥に

互に誓ふ自治の愛

互に示す自治の意気

三、春紅の花の城

秋揺蕩の桐の丘

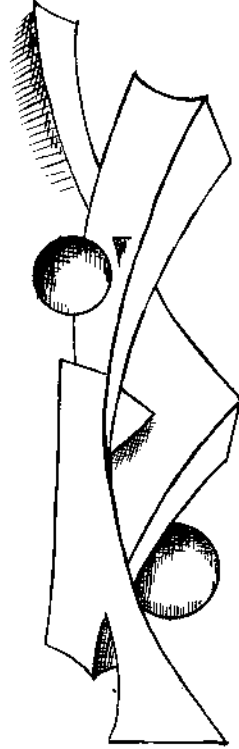
貞理求めてあゝ三年

永久の盛栄を今ここに

和して歌はん自治の歌

和して踊らん自治の舞

文 芸 作 品



一、詩	二、随想	三、創作	四、その他
1. 郷愁・一片の木の葉 二ノ一 高田 博之 57	1. 孤 独 二ノ十 井上江都子 69	K 佐藤 某 94	学級新聞より 一ノ八 98
2. 道 二ノ一 成瀬 英一 58	2. 自由課題随想 二ノ一 清水 三治 70	洞 窩 一ノ八 榎 義章 95	ワングルの旅 二ノ一 河村 正人 98
3. 五首の心 二ノ二 金田 博志 58	3. 文化祭警備員から 二ノ一 高田 博之 78		
4. 夢 二ノ四 角 滋幸 59	4. 学生時代 三ノ七 真砂 昌之 79		
5. 寂 二ノ五 竹島 節子 61			
6. 月の光に倚す 三ノ五 上城 輝彦 62	5. 一つの訓練 二ノ一 国友 正 82		
7. 恋 二ノ一 成瀬 英一 64	6. 天声人語 三ノ五ノトより 84		
8. 木枯らし 二ノ四 角 滋幸 65	7. 考える習慣 三ノ四 福島 勝彦 86		
9. 大阪が広くなつた 一ノ五 竹島 節子 66	8. 夏の思い出 三ノ七 十市 勉 90		
10. 青春喪失 上城 輝光 68	9. 「あした」―Hの次にくるもの 二ノ六 高田 正一 92		

詩

郷愁

二の一 高田博之

さびしさのあふれる心に
思いをよせるポプラの木陰
大きな葉かげの中の
ただ一寸の幼き思い出

寂しき涙は頬をつたい
思いははるか故郷の人に
二人で歩んだ
野菊の小径

美しき愛の形見に
ただ一言の真の言葉を
はかなき あまりにもはかなき
愛の追憶

そつと見上げる紺碧の空に
美しきポプラの木さえ
知つてか知らでか
風さえも心して吹く

一片の木の葉

二の一 高田博之

静かなる木立に立ち
ただ一人見つめる一片の木の葉
くすんだ灰色の空に
あざやかに弧影を示す

美しき遍歴を終え
やさしく漂う一片の木の葉
我が悩みを知れるごとく
ひとにぎりの死力をつくす

そつともらしたため息に
ただ一人応ずることく
かすかなる、あまりにもかすかなる
微笑を示す



道

二の一 成瀬英一

手さぐりで
何も見えない
何も聞こえない
ただ広く
ただ長い道を行く
今は岩山らしい
今は野原らしい
でも何も見えない
何も聞こえない
どこへ行くんだ教えてくれ
さけび声も出ず
進む足さえのろい
どろ沼へはまつた
小川で清めた
見えない目を感じた
ほのかな灯
でもそれもすぐに消え
あたりは又まつ暗
泣きながら 笑いながら
今日も歩く
手さぐりで

五首の心

三の一 金田博志

笠置路に長傾いのなかりせば
今紅葉の秋に戯むを
彷徨す秋の焼野に夕去りて
彼方に傳ふ弾琴の人
白雲のたわに群れて白雲の
日に戯むる夜を明石ゆく
若人らが勾へる花の盛りなれ
繁き草原いざ集いむ
黒百合の今にも君に捧げしを
黄泉路に通う彩雲の人

夢

二年四組 角 滋 幸

一面、橙色だった。橙色に包まれた明るい部屋の中に、俺は座っていた。俺は幸福に満ちていた。何もかも――しかし、俺は思った。俺は生きているのだろうか。だが橙色だけが静かに存在するだけだった。そのとき、俺は光るものを見つけた。明るい橙色の中にも、それは銀色に光っていた。――ナイフだった。

俺はナイフを右手に握った。疑いが、一きわ高まつた。そのとき、ナイフが俺の左腕の上を走った。血が――真紅の血が橙色の中にハラツと散つて、一瞬、散つた血の真紅が強く輝いた。橙色が大きくゆれた。生きている――俺は満足した。

血は止つた。再び、あたりは橙色の静寂にもどつた。――又俺は疑い出した。俺は生きているのだろうか。そして再びナイフが走つた。血がほとぼしつた。橙色の静寂に反響するように、真紅が輝いて散つた。橙色はさらに大きくゆれた。生きている――俺は満足した。

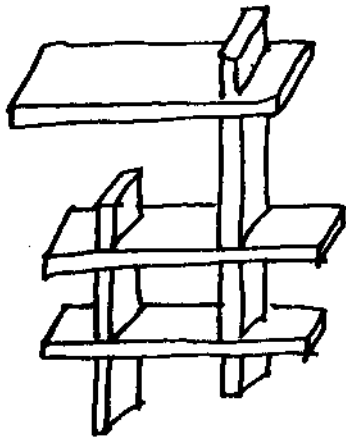
銀色に輝くナイフは、狂つた様に俺の体の上を走つた。真紅が絶え間なく輝いて散り、眼がチカチカした。

真紅の輝く瞬間瞬間に、俺はその輝きに驚き、同時に満足した。――真紅の輝きが橙色の静寂をゆさぶる時に、

俺は生きていた。……橙色はもはや静まらなかつた。

☆ ☆ ☆

今も、俺の頭の中に、素晴らしくエキサイティングなこの光景が続いている。即ち、ピカツ、ピカツと銀色に光りながら走るナイフ、その度に散つて、その度に俺を新しく驚かせる真紅の血、そして絶え間なく動いている明るい橙色……



寂

一の五 竹 嶋 節 子

朦朧とした頭で

堀端を歩く

あたりには

掃除婦達のほうきの音が

流れてくるだけだ

石垣の陰に私をおいたなら

そのまま下におりてしまうだろう

さんとさんと照る

太陽の下におかれたら

しおれてしまうだろう。

こうして、木陰を歩く自分

何の目的で

車を求めて

歩くのか 話すのか

一人 二人

小さな石の積み重ね

少ない水にはえる雑草の色

掃除婦達の歩く音

皆、私の表面を

なでてとおる

車は何台も何台も走っているが

市電は何台も何台も走っているが

私達は一人あるいは

数人で帰宅しようとしているが

.....

空は明かるいのに

冷たい風が吹いて：：：？

けれども城の木々は

少しも動かない

働く人 車 そして私：：：

掃除婦達は掃除を終えて

つれだつて、どこかへ行つた

月の光に寄す

三の五 上城輝彦
—村上輝康—

そなたの光は冷たくて
青き猫をも照らし出し
私の内に照らし出し
いみじき刃を照らし出し
なぜにそんなにえぐり出す

そなたの光はずいぶんと
遠くの空へ走りゆき
昔の空へ走りゆき
犬達の犬群を

明らさまにも描き出し
私の心にやきつける
私の瞳は充血し
ついなき青さに充血し
ついに私をつきおとす

そなたの光は時として
あたたかくも光り出で
打のめされてつぶされた

私のはるとをやはらかに
諦の光で撫でまわす

そなたの光はなお深く
私の胸の奥にある
たえずかすかな光して
いつも私をさいなめる
あの濃青の気体をも
照らし出だしてつき出し
ついに私を変えらるまでに
強固の意志をもたぬのか
だけどそなたもやつぱりに
青き猫しか照らさない



恋

二の一成瀬英一

黒いひとみ

さびしげに

我は待つ

君の言葉

小さな口

君は答へり

○

喜びに

小さな胸が

君故に

みだれもだえし

あの頃を

忘れし程に

○

信じ合い

誓い合ひし

君が心

君の夢

何せにはかなく

我を泣かせん

君をはじめて

知りぬあの日

君とはじめて

歩んだあの道

一人歩めば

さびしさに

君のおもかけ

涙にかすみ

我が心

何を求めて

今日を歩かん



木枯らし

二の四角 滋 幸

木枯らしが吹く中に、子供達がねね回っていた。その手が、指が、冷たさでまつかになつてゐるのに、笑い声がおこる度に、青だの黄だののセーターがとびはねた。寒い午後だった。

木枯らしはピュ！ピュ！音をたてて吹いた。枯葉がカサカサと音をたてながら舞い上がった。板べいをすり抜けて枯葉は家のガラス戸を叩いた。いかにも寒く。

老人はいろいろごたつに入つてゐた。凍えんばかりにふんにかじりついて、眼はずつとガラス戸にあつた。さつきから、枯葉が一枚、一枚ととんできては、ガラス戸にカサリ、カサリとぶづかつた。老人は見るともなく、それをながめていた。ほんやりと。

ふと老人は顔をあげた。木枯らしの中に、子供達の笑い声を聞いたのだつた。

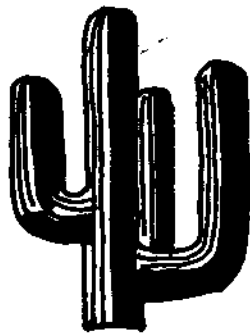
「ばあさんや、賢一と正二はどこにいるかね。」

「表で遊んでいますよ。本当に、風邪でもひきませんかね。」

老人は答えなかつた。再びガラス戸を見るともなく見た。又一しきり枯葉がガラス戸に音をたてた。

子供達は、ほおを紅潮させて、木枯らしの中で遊んでい

た。その間を、枯葉がすり抜けながらくるくる回つた。寒い午後であつた。



大阪が広くなった

一年五組 竹 嶋 節 子

大阪が広くなった

夕陽が落ちて行くと

空が、空の色が

だんだん柿色になつて

大阪が広くなった

ランニングをしていた生徒達は

皆いなくなつて

観光バスも通らなくなつた

ただ、石垣だけがじつとしていた

城外はまだ 自動車がいそいでいた

いろんな音が一度に聞えた

満員の市電がゴトゴト通り過ぎた

険しい顔をした人々が

その中につめこまれていたが

銀杏の葉は風が吹くたびに

ひらひら散つた

風はいよいよ冷たくなつて

水銀灯に灯がついた

ヘッドライトの光が曲線を描いて

タイヤのぬくみを

アスファルトに残して行つた。

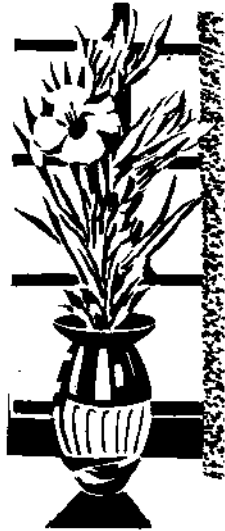
黒い空の裾で

いろんな灯が

ついたり消えたりしたが

その度に

大阪は広くなった



青春喪失

上城輝光
〔村上輝康〕

つぎはぎだらけの青春は
毒蛇の光をもえたたせ
つめたき光をもえたたせ
非常な早さにもえつきる

いたいたしくも生きてゆく
あの灰色の狼達は
あてどもなくにさまよいつつも
あまき光を出すという
あの楽園の方向に
むなしい歩行を続けます

あそこへ、どうせ、ついたとて
何の中身に変りはない
もぬけのからの世界を満たす
いみじきばかりに黄色くも
青き気体を作るので
何の変りのありませんよう
だけど私の狼は

尖端に向つてどんどんと
おし出されて行くのです
不均衡のシーソーは
たえず私の全てです

あるよく世間に通じた人が
知つたかぶりに言います
「ばかもの、お前は何を言う
大きくなつたら判るぞよ
それでは私も申しませう
「それじゃあ、あなたは一度でも……」
いやいや、やはり言いますまい
私の蛇の道、じやまします

ああ
つぎはぎだらけの青春は
非常な早さにもえつきます



随想

孤独

井上 江都子

私はこれまで何故か孤独ということを考えて来た。それは時と場所こそ変れど、いつもその正体がわからないで終つてしまつていた。暖かい家庭、仲の良い友達、その中で生きてゐる私は決して孤独ではない。それなのにどうして孤独はいつも私を追うのだろうか。離れてくれないのだから。それは一日をあまりにも愉快に、楽しく、はしやぎ回つた日のあとにやつぐる同窓会でなつかしい友人達と楽しく過ぎた帰りの電車の中で、私は妙に胸が苦しくなるのを覚えよう。美しいネオンが次々と私の目の前から遠ざかつて行くように、彼らも遠ざかつていくように思えた。彼らは楽しそうに語り、笑いながら、私を一人残して遠くへ行つてしまふように思つた。私は賑やかさを求め下声して歩いた。扉間はきたない川でさえ、夜は美しく着飾つたネオンの訪問客があり、休むことなく隔り続ける川の波、夢見るような目をした恋人達、会社帰りの同僚、学生達、みんなの顔は笑つていた。楽しそうに話していた。その中で私だけが違つていた。今迄、私は人間、いや万物が孤独なものであると考へてきた。その中の私自身をも含めて、しかし今の私は、私だけが孤独ではなからうかと思つた。親友はいる

しかし私の心を赤裸に示せるほど彼女を信じてゐることができない。唯一の友人であるのに、なぜ私はこんな人間かと思ふ。悲しくなる。まるで自ら孤独の世界に入つて行くのではないか。孤独を避けながらもなぜその中に入つて行こうとするのか、私にはわからない。人間は自然に對して昔から恐怖心を抱いている。古代人が自然を神として恐れ尊敬してゐたように、しかし私の本当の親友は自然である。元來私は空を見るのが好きである。雲は私の目を楽ませ、心の中に光をさしこんでくれる。夜の星は私にやさしい眼差を投げかける。彼らは決して私に回答を与えてくれない。しかし私の訴えをいつも心ゆくまで黙つて聞いていてくれる。そして私の目の泉の源をひからびさせ、心の中の重い石をとり除いてくれる。学校の帰り道の草花や、前方に横たわる緑の山は私の疲れをいやしてくる。ある日帰りが遅くなつたとき、黒く横たわる山を前にして「あの山道を一人で今歩いたら」と想像した。それは恐ろしいことだつた。木でおおわれた一本道をどうして暗闇をついて歩くことができるか。そのとき私は友と信じていた自然でさえも、私を近づけようとしないうかを持つていて、私に背を向けたように思えた。星も視力が弱くなつた現在、全てが私の友ではなくなつた。それこそ天外孤独だと感じた。夜空を昇上げ、なつかしい思い出話を星と語つてゐるとき、原因もわからなく流れ落ちる涙は、この私を慰めようとしてい

るのか、それとも一層深い悲しみへ私を押流そうとするのか。雲よ、星よ、教えておくれ、私だけが孤独なのか、それとも人間、万物孤独なのかを……。



自由課題随想

清水 亟治

一、紹介

この夏、三年生の一部に自由課題を出しました所、一八名、感想文で一八四通提出され、多くの考え方が見られ大変参考にもなり、感想はそれぞれ返しましたが、少し時間では互いの考え方や気持が十二分に理解しえたとは存じませんので、この貴重な紙面をかりて不足を補い、かつ皆さんの参考になれば有難いと存じます。

課題は大きく二つに別れ、一つは「科学に関するもの」、次は科学思想等短篇の抜粋が五篇、その読書感或は批評をすることであつた。

二、大要

前者では特に猪木正文著「物理学入門」(一十三名)、畑中武夫著「宇宙と星」(五名)がよく読まれており、教室で知り得ないことを知つたり、新しい独創力こそ必要であるということに共感したのが多かつた。その外「科学と社会」(「エレクトロニクスの話」)「生命の起源」(「不思議の国のトムキンス」)「各三名」がよく読まれていた。「素粒子」(「物理学は如何に創られたか」)もあつたが、大分難解理解に苦しんだようでもある。

後者の標題は「不思議な原子伝説」(草食動物はどうして

窒素をあまりとらずにあれだけの蛋白をつくるのか」

「科学の最大の特長」「暴力というもの」「判断力、病氣医学の段階」「人の幸せ」というものであつて、少いもので二通多いもので三〇通、計九五通集つた。

この短篇集は一つの考え方と実行法で結びついているがプリントだけからは判り難いものであつたよう。しかし全般的に、その受取り方は人によつて違い賛否両論あり、言葉そのものゝ無理解も混つていた。同じ言葉を使いながら非常に違つた考え方をしていたり、表面の意味のみ問題にして、裏にある真意が判らなかつたり、同じ日本語でさえこんな混乱があるのだから、言語の違う国民間に大きな誤解を生じるのはもつともだ：：と、エスペラント誕生の動機をも据返つてみる。

ここで問題にもなり、授業中にも話したのが、次の言葉はどういうものか。定義をしておかないと賛否両論共無意味であり、実は同じ考えだつたということも起りうる。

「科学とは何か」「暴力とは」「幸せ」「正義」「友」とはどういうものを指すのか。

英語の *coro* と日本の神とは違ひし、我々の神というものはキリスト教の精霊に近いものだし、幸福と *Happiness* とは大分内容に差があるよう。私たちの考えている正義と

幸福 とは大分へだたりがある。

幸福ということも中国では五福とかいつて、寿（長生き）福（財宝）、好修徳（善い行為）、（安寧）（精神的な安心感）、考終命（人生の目的を知ること）と詳しくのべている。が西洋では「人間がいかに努力しても永遠に実現出来ないもの」（Sさん）とされている。

三、私のネライ

「――」は感想文より、――」は私の意見、

こゝで私の考えをのべ、感想文をみてみたいと思う。

この課題のネライは、「この文を読んで私は嘩然として受けとつてきた考え方を、まるで逆にとつていふように見えた。K」のように、読人によつては全くの別世界であり、今迄と違う見方が出来るということをまず知つてもらい、すべてこの世には反対のものが存在する：：という鉄則を見つけてもらうことであつた。すべての物の価値は、立場を逆にすれば反対に見える：：ということである。だから私には、感想文の賛成組も反対組も同じように受け入れたい。私たちのこの世界では、立場をかえれば良いものが悪いものになりうるし、悪が善になつたり、薬が毒であり、毒が薬にもなる。否、毒でなかつたら薬にもならないのである。私たちは物の表ばかりを見て、それですべてだと考え易い。中には反対に、物事のウラばかりしか見

ない人もある。どちらも物の真実は判り難く、表もウラも同じように見て行きたいし、そしてどちらが表かはきめにくいものだし、表がウラになるし、ウラが表に変わることにもなる、ということも知っておきたい。

この事が一番大切で、これが判らないとこの一連の文章の真意も半らないし、エレホン（Erephon）の逆、ドコニモナイの逆でドコニデモアル国、本当の国、マコトの国という意味。バーナード・ショアの先生でサミエル・パトラーの著、岩波文庫の話も、その真の面白さが判らない病人は刑務所に入れ、犯罪者は病院に入れるとか、機械は博物館に入れてこの方、数百年は使はないようになったとか、不合理的大学を出ないと一人前の人間でないとか：。まず、人の幸せ、という短篇を見て頂いてから、出された感想文と批評を拾ってみよう。

四、人の幸せ
1 新しき世界へ 三三一号より 1
わが道はヒトリゆく道なり
友を求むる心は、正義を知らぬ故なり

友あり遠方より来る、マタ樂しからずやノと云つた孔子は、友を求めていたのではない。友を久しい以前に遠くにのこして来たのである。或はハルカナル國から未知の友が来たのである。

類をもつて集る、は烏合の衆なり、弱者なり、劣者なり

亡者なり。

集つて閉結し、友を求め、力を得んと思ふものは片々たる自分の弱さ、アワレサを自覚したものである。片々たるものは遠心力強くして吹き飛ばされたる微塵の如きものなり。つまり微塵になりたるため、元の一体に帰り、陽性にならんとするモノにて、頤をもつて集らんとする心はずに陰性なり。

☆ ☆ ☆

衆をたのむ勿れ。自ら陽なれば光を与え熱を与え自ら求めずして片々たる陰性は身辺にしたいよる。カレラに力を与え、勇を鼓舞すべし。衆を頼んではいけない。衆は放棄すべきもの、唾棄すべきものである。なぜなら、衆はこれ片々たるものであるから、例えばH₂Oの分子の集りたる薄氷の如し。汝の体重を托せばたちまち破るゝなり

多数決：：は烏合の衆の唯一の頼みとする金科玉条なり
烏合の衆は力を頼みとする。力が感覺的判斷力の最高權威であることはこれで分るだらう。この多数決を管理せるものは烏合の衆の國である。

千万人と雖も吾行かむ、と云う諺があるが、私は「千万人の敵なるが故に我一人行かむ」と直した方が正しいと思ふ。

x x x

来る者は拒まず、去る者をして去らしめよ、という言葉がある。拒まないのは頼みとしないからである。去らしめるのも同じである。

去る者はゴーマンである。よし主義や志向や趣味がちがつても、愛と尊敬の念さえあれば、別にこの狭い世の中で別れ去る要はない。万人をひとつにする力：愛、正義：を身につけることを頼む者は、何人をも去るべきではない。去ると云う行動は陰性であり、自殺である。親はどんな凶業な親でも親である。我々はすべてを親に負うのだから。師はどんな徳徳の師でも恩師である。なぜなら、師は我々の精神の親であるから。

x x x

表陽なればウラは陰、表美なれば内は醜。是は今迄私の感覚的判断力にだまされ通して来た。今でも私は女の人をいると誰でも好きになる。美しい顔はホトホト男とれるがアトになつて必ず失望させられる。第一、美しい女は必ずゴーマンである。私は昔から、みにくい顔、恐しい顔、暗い顔、不幸な顔、愚かな顔を見ると一層引つけられる。それを明るい、素直な、エレガントな顔にするのが私の楽しみである。しかしそれは最も難しい事である。自然の法則から云えば、最も自分に正反対、顔、形、行動、思想、体

質、生れ月をえらぶべきである。勿論それは大きな困無をもたらず。

難有りを、有難しに転換する事が人生のあそびなんだ。それは真剣で、血まみれな戦である：と。これは似たもの夫婦だの、類をもつて：の逆を行く事である。

宇宙の法則から云えば、正反対の女性を尊重し、幸福にする事だけに努力すべきである。決して自己と同一の思想や行動の人を求めべきではない。つまり男にとつて妻とは妻難である。六〇年の不作と云う言葉もある。その難ありを、あり難しにする事が男の真趣である。

女は自ら夫を選ぶべきではない。これは女の妻難である、女はどんな男にでも愛される資格をもつべきである。女はどんな男をでも満足させる女であり、どんな男にでも満足すべきである。これは災難であるが、この資格がないと女は必ず不幸な一生を送らねばならぬ。

しかし女には、男を自由にする方と権利が与えられている。その前には男は一言もなく屈服してしまふ。すなわち食事を調整する権利である。女は食事を一手に引受けるのだから、食事の重要性をよく考えれば、男はどんな男にでも変える事が出来る。男は妻の出すもの、こさえるものをだまつて、或は感謝して、パクツク動物である。パクツイテ来なかつたら、愛されていない証拠である。つまり愛される資格がないのだ。

だから、女が身につけるべきは、男のもつていない資格である。ふしぎに男はそんな女を求めるものである。

武骨な重人にはヤサシサだけがすべてである。金もうけのうまい実業家は、金使いのうまい虚栄な女に引かれるものである。

たゞ一つだけ共身につけなくてはならないのは、愛される資格の最も根本的なもの、スナオサである。これは実はカシコサの反対である、人が白を黒だと云つても、あゝそうですか。これは黒ですか。とスナオニ心から受け入れる。これはカシコイ人にはできない芸当である。なぜなら賢い人は、ゴーマンであるから。

そんなスナオサはすぐ教われる。なぜならそんなうそはすぐばれるから。もちろんその事に、大なり小なり迷惑をうけたり、損をしたりする。時には命を失う。しかし迷惑や損や苦しみは自分を強くしてくれる。多いほどよろしい命を失う事は思ふけれど、命を失うほどの危険を冒さなくては、大した喜びはえられない。

今、日本人は、西洋栄養学や化学や科学を信じ、ビタミンをのみ、砂糖を何十万トンもたべ、大学で分析的な知識を身につける事に努力している。そして彼等は皆、災難に会っている。実にスナオサなのである。

（注、私は大手前に来る少し前より、葉らしき葉は使つ

たことがない。それでも病氣は防げるものだ。一

しかし、そんな危険な時世にでも、スナオサゆえに殺される筈はない。科学文明にのりかえた以上、トコトンまで行くべきである。それより外に目をさます方法はないのだから。トコトンまで行つて、死の谷におちると誰でも一大勇猛心をおこして、生命をもう一度取り戻そうとする。そして人は生命の秘義、正しい食事、自然の法則、正義を発見する。

これができないような人はゴーマンな人である。医業や科学を信仰して、うぬぼれているのだ。ゴーマンは死ななきや活らなない。

ここで、女性が幸せになる最大、最高、不可欠の条件が分るだろう。それは男性にとつても同じものである。全ての人に共通の唯一のものである。それを私は正義といふ、宇宙の秩序：：という。

これさえ持つていたら、どんな境遇にいても、人は必ず幸せになれる。困難が大きいほど、大きな喜びになる。

人の幸せは、その人が横断した不幸せの大きさに、逆比例するモノである。

以上、全く考え方のちがつたいくつかの文をお見せしました。エレホンの現代版です。

五、感想文より

「これを読んで私は、よくもこんなに変わった考え方があ
るものだなあと思つた。エレホンについては前に話を聞いて、
何となく興味を持っていたのだが、私にはこの考え方は理
解できない（N）」「幸せについて僕はいままでこのよう
な考え方をした事はなかつた（S）」「威圧的な文章表現に
ともすれば無条件に受け入れそうになるのを押え、不思議な
力のあるこの言葉をかみしめてみた（A）」「同じ姿、心
を持つ人が二人としないのだ。私には私の道があり、人
にはまた別の、その人だけの道があるのだ。こゝで幸せとい
うものについて考えて見た（S）」

「友を求むる心は正義を知らぬ故なり、とあるが、なぜ
そういうことが言えるのか疑問に思えた（K）」「友を求
める心とは友でない者、すなわち敵を意識していること
である。友は求めるのでなく、自分の本当の気持ちさら
けて話し合う内に、自然に出来るのが一番よい。すべての
人を友とする；；のが最善である。難かしいことであつて
も不可能ではない」「私は確かに友というものを否定する
だが私が友を排するのは、私の利己主義から来るもので
あることを知つている（E）」「しかし、友を求めるのも、
少しだけ大きい、一段だけ上の利己主義ではないか。博
愛の利己主義というか、その上が汝の敵を愛せよ。一番
上は……？」

「むしろ、大集団を形成しなければ毎日の生活も送れな

いという凡人の方がはるかに多いのである（T）」「事実
はその通り、あなたも凡人のまゝがよい……というのなら
もう問題は無い。凡人は低判断力。折角、高校まで来たの
だから、もう一般、もう一段と高い判断力をめざしては」。

「それでは弱い人は、一生スナオでいられることが出来
ない（K）」「負けるが勝とか、柔よく剛を亂すとかいう
ことを聞いたことはないか？」「私はこれを読んで、少々
期待はずれであつた。；幸せになる条件が正義、宇宙の秩
序であると言つてはいるが、私はこの意見に大賛成であるが
その条件を道理と言ひ換えてもよいであろう（T）」。

「私はこの文を読んで反響を感じた。なるほど理屈をなら
べると、たしかにこうであるかもしれない。しかし、私達
は人間である。もつと人間の感情を考へるべきであらうと
思つた（E）」。一人によつて千差万別、感情のことも考
へた上で私と話しあつてみないか」。

「女は自ら夫を選ばべきでない。果してこれが現代女
性に当てはまる言葉だらうか（O）」「前夜の文章をよく
読んで預きたい。男性側にもチャーンと問題が出てある。
この文だけ取り上げると誤解されることになりそうだが、
全体を見て判断することが大切である。これは逆に云えば
世界中で一番魅力のある、良い意味での、男性に関心を持
たせる女性になれることだ」。

「直接的に選ぶのでなく、相手に自分を善にしたいと思

う心を起こさせるようにする（P）」「そう、そうして引きつけられる人は、互にその引力の強さと質にふさわしい相手である。」「女性にスナオサが必要だと思ふ：：しかるに大手前には、割合、理屈っぽい女性が多いのである。残念乍ら、私もその一人と思われているかも知れない：：が、スナオサを身につけるよう努力しよう（P）」「非常にうれいことだ（）

「一番反撥を感じたのは、親はどんな親でも親である。：：師はどんな悪徳の師でも師である。親たるべき親、師たるべき師でなければ、私はそれを親又は師とは思わないでしょう（K）」「現代、その資格十分（）

「ふとしたことから友が欲しくなり、何かにすがりたいような気持が起るのが人間の強さだ：：。顔の美しい人は心も美しい（M）」。一反対だ。心の美しい人は生活が正しく、生活の正しい人は顔も美しい。いつまでも、年がいつても。若い人の美しいのは親のお蔭だ。しかもこゝでいうのは、見た目だけの外形の美しさだけではない（）

「正反対の女性を幸福に導いてゆく。なんて、ヘボ理屈にすぎない。導けなければどうするのだろう（M）」（君には法然上人だつたの、善人も往生する、いわんや悪人に於ておや：：という気持は判るまい。正反対の人や事件には、意志さえあれば、自分の力を最大限に發揮出来る最高のチャンスである。それで自分の力が役に立たなかつ

たら：：その人を幸福に出来なかつたら：：それ以外の人も同じく幸福に出来ずに終るだけである。そういう意味でカツリツクは離婚を禁止しているが、その判つた人には正しいことである。（）

「改めて考えさせられる所があつた。：：人生経験の浅い私ゆえなのだろうか（N）」

「科学の発達により人間の寿命ものびている。原始時代の人間の寿命なんぞは知らないが：（Y）」。無智も甚しい。科学というのは西洋でもこゝ三・四百年位の歴史しかないものである。それ以前とくらべなくては何とも云えぬし、いくら長生しても病人ばかりが死にもせずに年をとつても何にもならぬ。今日の夕刊に、漬物用の四斗樽が持てなくなつたから、二斗達に変えてほしいという時代：：科学が進歩して？」

「幸せとは一体何だろう。辞書を引くと、さいわい、幸福、運のよいこととある。：私は楽しいことをして、かつ満足している時（S）」（そして、いつまでもつゞくもの、つゞけうるもの）。

「私にとつてこのような問題について考える機会が与えられたということは大変うれい事である。私は今まで、随分、この問題について考えて来たし、人にも真理とおぼしきものを自分の方及び限り訴えて来た（K）」。

「この一連の文章は、現代社会の機構を底からゆるがせ

て、それを屈服せしめる壮大な包括力を持つている。こゝでは、あの現代が最も頼りとする議会主義でさえも槍玉に上げられて、その正体を暴露している（M）。

「人の幸せ：…わかるはずがない。わかれば人間の知識の發展などもなかつたであらう。…：実際に求められてよいものは、「見えぬ世界のもの」…：精神であり、平和であり、そして最後に正義を、この正義を通じてこそ、人間の存在があるのだ、微力でゴーマンな人間ではあるが、たゞ正義に到達すべく、一歩一歩あるいていけばいゝと思つたのである。愛と正義に対して歩む難かしさは、ちよつとした簡単な難かしさではない。その道がいばらであり、血の地獄であればあるほど、幸せに近づくのではないか。まさに、人間が横断する不幸の大きさに、人の幸せは逆比例するモノなのである（T）」

以上が感想の下なもので、私の考えなりにまとめてみました。重複する所があるかも知れませんが、本当に、今生きる喜びを感じようとし、幸せを求めていない人はいないでしょう。日々の生活が苦しい中にも、僅かの喜びを感じているのが普通ですが、その喜びをさらに大きくし、この道こそ永遠の幸福をつかみうる道であるという道を探し求めたい、求めて頂きたいと願つています。

勉学に忙しい時期、心にゆとりの少い折ではありますがそれだけに、心の奥底深くにわだかまつている。この間

題を今から、ゆつくりと十二分に時間をもかけて考えておかねばならないと存じます。

ナゼ、大学に行くのか。よい会社に就職するため。

ナゼ、就職するのか。落ち着いた平和な生活を送り、楽しい家庭を営み、老後には安楽に暮せるようにするため。

しかし、それで本当に幸せと考へ、また満足しているのだろうか、満尾出来るのだろうか。

もつともつと遠つた人生があり、まだまだ面白い人生があり、もつと新しい所に立つ幸福もあるのではないだろうか。そして、それを実際に実現出来る道もある筈だが。

求めよ、さらば与えられん、でなく、求めよ、それはもろ、君の手の中にある。と。

春秋に富む諸君の、これからの健斗、向上を祈ります。



文化祭警備員から一言

二年一組 高田博之

今年の文化祭はなかなかよかつたと思う。しかし第2日目の舞合行事について警備員として一言いわしてもらいたい。何故、警備員(生徒から選ばれた)がおかれたか、昨年の文化祭のみどい野次とか、テープ投げなどの結果であることはみなさんも知っておられることと思う。だいたい警備員なんて文化祭におかれるものではないのである。伝統ある大手前の文化祭に警備員がおかれたなんて先輩が聞いたらびつくりされるであろう。なげかわしいことである。しかし、文化祭は名の通りお祭であるから少しくらいは開放的になつてもよいが度を過ぎるのは絶対よくないと思う。この辺に大手前生の悪い面が出ているような気がする。当日は兄父の方や他校からの生徒もきていたと思うが、日頃は紳士的な顔をしている大手前生のヤジとかバ声をどう思つたであろうか。又、警備員の注意に対して反抗的な態度に出たり、まつたく涙の出るようないやみを言つた人もいたが、これは僕達警備員の立場をよくわかつてもらつてほしかつた。楽しく談話したり観劇している最中に、腕に何かつけた変なヤカラがやつてきて注意されると本当に気分を害するのは僕自身の体験からもよくわかることで

あるがみんなのなまじやつていたのだということだけはわかつてもらいたい。



学生時代

二一の七 真砂昌之

学生時代について私のある親しい友人は次の様な主張めいたことを私との会話の中で言っている。「学生時代のあり方としてまず第一に自分が将来、有利でより有意義な一生をおくつたと回顧しうる為にも、今、自分が最も興味があり、又実際やつてみても、現在の自分の不満な心境を満足させるのに十分であると感ずる。ある一つの学習以外のテーマとなるべきもの、即ち一種の娯楽めいたものに熱中し学校における学業はその次に來させるべきである」と、そして、それに対する私の意見はいつも「この種の考え方は現在とくにこの三・四年の間、とみに青少年の間で高まつてきており、又それらの行為事々を教育関係のある権威ある人々によつて、非難されているその思想であつて、それ故、私としてはあまり好ましく思つていない」という点に集中せしめられる。又、私はその友人とこれらの事を言ひ合つてゐる時は、いつもこの様な考え方で自分なりに満足しているのであるが、その友人と別れて、一たん帰路

につくやいなや、その道々、私の心は、そのような単純で自分の考えの入らない、ごく平和的で一般的な考え方に満足出来ず、深く、重苦しい考えの溝に落ち込んでしまふのである。なるほど、私の友人が言つてゐる事には、確かに私より、いくらか世間の、いや現在迄の生活——まだ一生のうちではほんの一部分ではあるが——における苦痛を味わつてきてゐると、そのように感じられる要素が見出されるのである。それを思うと同時に私の世の中（学生時代）に対する考え方がより単純で、より盲目的であつたことが、ここでもひしひしと感じられるのである。又、その友人はこんなことも言つた。「試験の平均点が十点上がると、鉄棒の一技術をマスターする方が、ずつと今の自分（発育途上にある自分）の爲になる」と、この言葉にも、私の心には、じんときるものがあつた。私は自分では、それも思つてはいたのだが、強強に擦り過ぎてゐると、よく友達から言われる。又、そう言われてみると、なるほどと思ひ当るふしもないではなかつた。従つて私の学校における成績も、やはり、その学年の標準よりは、上に位置してゐた。しかし、私の体力、特に、運動技能におけるそのものは、他の生徒のそれと比べてみた場合、見劣りするものが、学業の方と比べて相対的に多いといふことは、明らかな事実である。又、その事が前述の私の心にじんときた点である。しかし私のその友人を除いて、以上のような考

えを持たない、或ち私がかつて、いや現在も考えているよ
うなことを考えている人々が、現在の我々学生の間にいる
ということ、ほとほと明らかである。ということ
は、ある意味においては、私の考え——というよりは、そ
の友人の考えとは別の考え、即ち世間一般の考え——にも
良い所、とるべき所があるということではないか？と又々
考えさせられる。しかし現在青少年の不良化と、青少年に
おける犯罪の増加をかつての時代——五・六年以上も以前
の日本——と比べてみた場合——但し、青少年の不良化な
どの問題は、その青少年の考え方に関係するものであると
思なした時——その疑問が、世間人に肯定せしめられて良
いものであるということは必らずしも言えないであろう。
要するに、私は、一生のうちの学生時代という精神過渡期
の時代を過ぎる為には、このような点を、一度は考慮しな
ければならないという事実を、現在の私自身、あるいは私
と同年令又は、類似の年令の人々の間に、もう一度、自覚
せしめたいのである。



一つの訓練

国友 正

僕たちが中学生であつた時から、JUDOの語は英和辞典にそのまま出ていたほど、日本の柔道は古くから欧米にも知られていて、JUDO MANはその道で尊敬もされてきたようである。高校時代の級友になかなかの強者が居て当時ドイツ人の会話の先生など相当なファンらしくて、たまたま柔道の話から、その生徒に「将来ドイツへ来て、柔道の教師にならないか」などと真面目に話していた。昭和初期のことで当時就職戦線極めて厳しかった時期で、クラス一週国際的に通用する柔道家を羨ましくも思つたことが思い出される。柔道が近代スポーツとして、心身の練習に重要視されるようになったのは、比較的新しいが、やはりわが国の国技として国際的にその真価は認められていたのである。時にはショーとして、柔道家とボクサーとが試合をするようなことも試みられたが、それは全くの余技副道であつたと見るべきで、数十年間、立派にスポーツとしての純粋性を保つて来たし、わが国民の柔道における強さというものは、欧米人など到底比較されるべきものではないと考へてもいた。これはその生活様式そのものに深く根ざしていることであつて、単にスポーツとして訓練をし

たからと言つて、一朝一夕に、日本選手を負かせることなど不可能だと考へていた。

それが昭和三十七年の世界選手権戦で、オランダのヘーシンク選手の出現により、わが強豪連がなぎ倒されて、選手権を持ち去られる結果となつて一大ショックを受けたわけである。彼もかつては来日して講道館で教えを受け、あとはヨーロッパで研究と訓練をしたらしいが、選手権を獲得されるまでは、巨大漢で、なかなか手強いという位に考へられていたのであろう。その力を恐れていたところが、技でも極めて優れていたもので、あのような結果になつたが来るべきオリンピックにこの種目が加えられているため、わが国では選手の強化に大馬力をかけている。その一つとして天理大ではこの冬、彼を招たいしてその教えを受けているようであるが、全く逆輸入ということになつてしまつた。

柔道が技のみでなく、力を必要とすることは判り切つたことであるが、その力をいかにして利用するかということの訓練が充分に行われていなかったのであろうか。全身の力を局部に、また一瞬のうちに集中する能力がかつての大人には備わつていたようであつて、その実例は僕も目の前で見せられたことがある。戦後、日本人の生活は相当な部分で洋風化して、無意識のうちに、鍛練をされていた日本人の身体的特徴というものは弱められて来たと考えら

れるが、それを補足する特別の方策を考えなかつたという点もあるのではあるまいか。一かつて世界に制覇した水泳などでもこのような点で一考を要するところがあるとも考えられる。一

ヘーシングはその体力をフルに發揮できるように、あらゆる角度から鍛練をしたと伝えられるが、一言で言えば、身体を構成する全筋肉の強力とその機能の円滑化に全力を注いだのであろう。手をつけ得るスポーツは、あらゆるものに手を出したと言われるが、骨の上で柔道のみを長時間やつて居ればよいと言ふものではないことを実証したものである。専門家でもない僕は出来ないうが、人の身体は使い方が一方的になると偏つたものになることは確かであらう、座る仕事の人は足が弱くなるし、手だけ使う人は手が発達するし等々；；。心身ともに不均衡になることは疑いない。それを矯正するために、体操、とくに婦人に人気のある美容体操などが流行するものと思われる。この体操は単に美容のためというのみでなく、均衡のとれた身体と、そのスムーズな活動機能を備えるのを目的としているのであろう。形だけを目的としたものではない。しかしこれはまだ消極的なものであつて、その機能に支障がなく健康を保つに適しているという程度であらう。積極的に一層強力な心身を持つためには、いわゆるハードトレーニングを必要とするであらうし、またあらゆる部分が活動でき

るような訓練とそれに堪えるための鍛練が必要になつて来るものと思う。

同じ心臓と肺をもっている場合は、むしろ身体の小さい方が、マラソンなどではよいらしいが、これではスピードに鍛練する必要に迫られる。しかし、われわれは、皆選手になるのではないし、従つて特別に鍛える要もないという議論もなり立つかも知れないが、同じことなら健康な心身をもつて、人間としての機能がスムーズであることを願うことに変わりはないであらう。

肉体のみでなく、精神面でも以上に類似したことが言えそうである。人間の、特に青年の尊さは、その可能性にあるが、それを現実的に可能にすることが訓練である。よく言われるように、百数十億の脳細胞からなつていてその頭脳は無限の可能性を持つている。細胞をラジオの真空管として見なすと、その容積は府庁の建物よりも大きいものになるのであろうか。その細胞の間に回路を開き配線をする。ことと、それぞれの細胞の速かに、スムーズに連関させることが訓練の目的であらうし、訓練を繰り返すことによつて程々の難問を解決する能力を備えるとともに、あらゆる困難に堪えることが可能になるものと思われる。

大多数の人間は生涯で、折角のこの細胞を半分位しか使つていないと専門家は見てゐる。ゲーテ位努力を続けた人

天声人語

(三年五組学級ノートより)

で三分の二を保つのであろうかと言うことである。また、訓練の場は必ずしも快適であることを、必要としな

い。

すべての面で快適であることは、場合によつて仇となることもあるらしい。

脳の研究で、名高い時実教授によると、椅子は堅い方が脳の活動を活発にするらしく、快いソファはわれわれに眼気を催させるということである。生徒用の机椅子に現在の様なものが一般的になつてゐるのは、このような意図によるのかどうかは疑問であるが、或は怪我の功名と

言うべきものかとも思う。臥薪とは訓練のためには文字通り効果のあることらしい。以上のように人間の機能を立派にする訓練と困難に打ち克つための鍛練をやるのは、われわれが単に、いわゆる成功をするためのものではなくて、天与の可能性を十分に活かして、いささかでも人間社会に貢献できる人間になるためであると思う。自己一身のみの利益を考へる場合は、大した訓練や鍛練を経ないで、極めて狡猾な方法でも牛さて行く道はあるかも知れないが、これはやはり罪の意識を伴うであろうし、結局狭い人生を送る方法ではないこと確実である。自己に忠実に、しかもあらゆる困難をも自己大成への訓練として有効に活用する

気概を持ちたいと思う。

○学問とはナンゾエヤ、子曰く「学問とは、何かはつきりわからんものである。」我答える。学問とは、いかなる功利的要求をもしりぞけ、興味本意でなく人間福祉増進のためのものである。故に受験勉強なるものは学問の邪道である。大学に入学するために勉強する受験生の心理は、真理追求をいう学問の正道における心理と比べれば、何と卑しいものであるか。我自身悩んでゐるのである。しかし我は我なりに学問の醍醐味を、数字の問題を解くことによつて味わつてゐる。誰でも味わえるのだ。勉強放棄はいけない、根性を出してやれば大学入試なんかへのカツバだ。

—アンタツチャブル—

○シヨーパーンハウエルは言つてゐる。「人間、即ち盲目的に生きようとする意志の表象」悲しいが私達はこれ以上の何ものでもない。俺は言う、「人間はきれいなものを食つて汚いものを排出する肉の塊にすぎない、意志はそれに付随するものである。」：あはれノパーベキユーに最適だわノ

—ブチャー—

○空地があるから駐車しよう。人間は悩む為に生まれて

来た。「バカほど悩みがある。「バカだ：」
しかし現在の状態に不満を持つていない。持つてもしかたがない。自分達が一生不遇に終ろうともよき Prosperity の
prosperity—A君忘れるな—が持たられされるなら本望だ。
私のやるべきことは勉強して能力「何の？」をつけること
だけです。「スタミナも—」 「白」

○一人静かに山道を歩き、何を考えることもなしただ歩
くだけ、やつと目的地について古のにおいを思う存分自分
のものにする。自分にはそれだけでたまらないのです。何
時間でもそうしたい。ああ、自分は一人静かに古に帰りたい。
虚無の世界に。 「純ニヒリスト」

○しどろもどろ。自分を忘れさせるようなことをやりた
いなあ。その間はなんて幸福でしょう。クタクタになる
まで運動したいそして何時間でもぐつすり寝たい。あの人
と何時でも語り合いたい。何と楽しいでしょう。大学入試
で滑らないように、高校生のままであるように。静かに静
かに楽に死ねたらいいのになあ 「K」↑精神分裂症

○高校三年になつたらいやな勉強をなぜせねばならない
のか？好きな勉強をなぜ出来ないのか？日本の教育制度に
欠陥があるからだ。 「隠密剣士↑日曜午後七時」

○十月二十一日午後三時十分、一つお戻します。日頃の
学習に於て実利を大切にしている私達ですが明日は学校
へきても自宅ばかり家で勉強する方が能率が上がるでしょ

うか？ 答「あの子の顔を見れば発奮し勉強にフアイトが
出るといふもの、来るべし」添削者「高校生の答案じやな
いですね。誰に教えてもらったんですか」 「A子とB男」
○断 章

「言葉は本来の使命から離れ人を軟く為のものに変化して
きた。
「現実逃避はすべきではない。傍でそれを見るのは見苦し
い。

「机上の空論と夢は魔蒸と同じである。即ち重が問題だ。

「機械が人間を支配するようになっては人間は、機械が人
間の奴隷であつたと同様に、人間は機械の奴隷になること
で人間でなくなる。

「自然への讚美と理解とは、感情的と理性的という意味で
相対立する。

追記、過去はなげき未来は不安で見るべきでなく夫々反省
と希望をもつて見るべきである。現在には熱意と冷静とであ
る。過去、現在、未来は絶対にはなれない、起時間的につ
ながつているので人間は分けて来えられな

(Alexander Gascon)

○アンタツチャブル、隠密剣士、K、白、Alexander Gascon
の諸氏が、三年五組の女性達に使いを出しているのですが
一向に返事を書いて下さいません、「我々の組の女性は奇
少価値的存在ですから、あなた方のお愛持を知らして下さい



い。乱筆で失礼します。”「女性は何少価値的存在」この言葉はウチラ女性をまつたく無視、軽べつしています。筆者に対して謝罪の文を出されんことを欲してやみません。それがない時は、ウチラはその義務を放棄してこれに対抗するものなり。三年五組の男性殿” 確かに私達の失言でありました。しかし私達の意とするところはお返事が欲しかったのです。ぜひ御執筆を”

以上

考える習慣

—ある一つの声—

三の四 福島勝彦

僕たちはこの大手前で三年間すごしてきた。「住めば都というから、今では別段そのいやなことは何もない。しかし何もないといながらも大きな不安を心に抱いている。その多くは来たるべき大学入試からきている。成程、入学試験によつて本当に大学に入るべき者を選抜するということは当たり前かもしれない。だが理屈ではそうなるが実際はそんなに生やさしいことではない。一人しか乗れない車に二人も三人も殺到するのだから、その競争は相当厳しいものらしい。そもそもこのゆがんだ現象は「大学出」という肩書きを不当に重くみる社会風潮からきているに違いない。そしてこういうものは急に変わりそうもないし、急に変わることもできない。表でいくら平等といつても、それぞれの個人の中にはエリート意識が強く存在し、結局はより激しい差別を起すことになってしまう。こういう風潮はもはや滅亡する運命をもっていることは明らかだ。けれど現実には「学歴」は「家柄」にとつてかわつて新しい身分制度の基準となっている。だから高校もこの時代の波によつて生徒を大学に送り込み、又生徒もなされるがままに大学にはお入り込まれる。しかし、このようなことでは、はた

して僕たちは本当の幸福を得られようか。しかしいくら批判してもそれだけでは何にもならない。僕たちはなんとか対策を見つければならない。ここで身近かな受験勉強一学校での勉強を含んだものについて考えてみよう。僕は何もアタマから受験勉強を悪いと決めつけはしない。たとえ目的としているものが少々卑くしとも、やつている勉強自身が正しいものであれば、それはおのずから正しい方向へと導いてくれると思う。だから受験勉強はいやだからといって、一切の勉強から縁を切るということも困ったことだ。要するに良いものは良いのだ。このように受験勉強は非常に良い面をもっている反面、完全に致命的な欠陥があることも忘れてはならない。具体的に数学を例にとつてみよう。僕たちは一年生の時からいやというほど問題集を買わされた。これはなんのためであるか。質よりも量でいくということである。出来るだけ多くの問題にあつて、その型をおぼえさせようとするためらしい。成程よいことだ。しかし僕たちはここに重大な誤算をみつけている。それはその問題の量が多すぎて、僕たちが問題の洪水に振りまわされていることである。特に三年生には非常識なほど多くの問題が課せられる。なにしろ一日は二十四時間しかない。英語も国語もしなければならぬ。気はあせる。結局、人にノートを借りるなりして、考えすることは省略して、その問題の解答を暗記しよう

と努めるはめになる。そして又、うまいぐあいに試験には問題集にあつたのと同じ問題が出る。そしてその解答はもう憶えているものだから、なんとかそれを思い出すように努力し、考えようとはしない。その上、問題の量も時間の割には非常に多く、いちいち考えてはとても時間が足りそうもない。どうも「数学は憶えるものらしい」と思わざるを得なくなる。しかしはたして数学とはこんなものであろうか。記憶力を養成するだけのものだろうか。実際的にみても、これではいわゆる受験用の実力さえもつかないのではないだろうか。ただ模擬試験のときに数学らしい問題が出るというのが唯一の慰けとなつているのは皮肉なものだ。僕は十個の問題の解法をひたすらに暗記するよりも一つの問題を苦勞して解きあかす方がずっとよいと思う。それによつて「解く喜び」を感じ、一種の「根性」さえも身につくのではあるまいか。ひいては数学に對する興味がわいてくるのではあるまいか。興味なしに勉強する程、味気ないものはない。それどころか劣等感という、ありがたくない副産物をうえつけられるかもしれない。しかし、そんなことよりも、もつと大きな問題がこの数学教育の結果として起こる。それは何でも憶えこもうとするあまり、考えるのが面倒くさくなつてくることである。初めのうちは数字の中だけにどまつているかもしれないが、知らず知らずにはそれは全身に拡がりはじめ、學向のはてには

ただただ、理実に甘んじる、批判力を持たない、もつとき
つくなれば、ある意味では有害な人間が出来上りほしくない
だるうか。僕たちが数学をするのは「もの考える習慣」
「いいかえると、果してこれでもいいのだろうか」と懷疑をも
つこと―をつけるためだと思う。それをこのように考える
ことができないように追い込むこの教育方針も、その優秀
さを誇る我が大手前数学教授陣が本当に意図していること
ではなくて、入試の現状からのやむをえない、あくまで臨
時的な「詰め込み勉強」の必要性からくるものであろうこ
とは信じて疑わない。なんだか「風が吹けば桶屋が儲かる」
式の複雑な論題になつてしまつたが、僕たちが無意識的
にしていることがこんなにも大きな結果をもたらすとい
うことが考えられるわけなのである。これは何も数学だけに
限つたことではない。ただ数学において、それが極めて著
しいので、取りあげたまでである。　　それでは僕たち
は一体どうすればよいのだろうか。残念ながら、僕たちに
とつて、入試を無視したことは、どんなによいことであつ
ても実行できないのが現状である。しかし、一步一步進ん
でいくことによつて、目前の大きな壁をも打ち崩すことが
出来るのである。数学については、まず、「考えること」
を提案する。　先に述べたように、いくら多くの問題が課
せられようとも一切気にせず、ただ一つ一つ、こつこつと
自分で解いていくのである。地味なことであるが、長い日

で見れば、僕たちに本当に役に立つものとなるのだ。僕た
ちは数学によつて、崇高な「科学的態度」を学びとるので
ある。しかしまたしても理実は僕たちの前に「欠点」とい
う大きな障害を設けている。仕方なく僕たちの行動は大い
に限定されるのである。僕たちはやつぱり、今までどおり
の勉強を続けていかねばならない。しかし、これが重要
なことだ―その中のたとえ一割でも一%でも、じつくり
と、時を気にしないが考えて考えて考え抜くことは出来
よう。僕たちはこうして着々と実行しながらも、我が優秀
な教授陣に対して大いなる反省を望まねばならない。何とい
つてもその根本的なカギは教授陣が握つているのだから。
結局勉強とけこういつたものではないだろうか。勉強を
「いわゆる勉強」と限つてしまうのは余りにも視野が狭い
ではないか。ある人曰く「勉強言うたら、数学でも体育で
も恋愛でも、なんでも一生懸命にやることと違うやろか」
正にそのとおりだと僕は思う。よくある例だが成績よい人
が体育をさぼつたり、文化祭を抜けたりするのを見たとき
僕たちは、彼を尊敬することはできない。学校は「学習成
績」だけが優秀な人間を育成するのではないはずである。
もちろん、成績もよい、人柄もよいという人はあまたいる
しかし、こういち見非のうちどころのない人にも、ど
こかに人に知れない大きな欠点があるのでないだろうか。
人間とはこういうものではないだろうか。所謂偉人とは

そのよい面が大きく、表に現われているだけで、反面、醜い面も同じだけ隠れていて、両方加えると「0」になるのではないだろうか。太宰治があれば良い作品を残した天才でありながら、心の中では絶えず人一倍苦しんでいたようなものである。ただ所謂凡人とはその「山」と「谷」との差が小さいだけである。僕は思う、人間誰しも人より秀れた点を必ず持つているに違いないと、そしてそれを引き出して育てるのが教育の方であると。だが現状はそれに程遠い。しかし遠いからといって初めからあきらめてしまつては興ざめだ。素外「考える習慣をつける」といつたようなことから道が開けるのではないだろうか。そしてまた、一人で考えるよりも三人で考える方がよりよい智恵がうかがうのではないだろうか。

結論として、勉強とは「一生懸命にすること」、学習とは「考えること」、そして高校とは「それらを教えるところ」ということがいえると思う。

追記

以上僕が三年間、いろいろ悩み、いろいろ感じ、そして僕なりに考えたことを書いてみた。いろいろくぐくぐだしきところはあるが、はつきりいつて、これは啓蒙を目的としている。そして、その起源は「現在の教育に対する疑問」にある。ここでもう一つ全般的な事柄を述べたい。

人間は「愛」によつて結ばれ、「理想」によつて進んで

いくということである。これは人間としての最低線であり、人寄の本質であると思う。「理想」というと頭から馬鹿にする人がいるが、理想とは現実のすぐ隣にあるものなのだ。だから実行しようと思えば、部分的には今すぐにも出来るのである。物事は少しでも「する」ということによつて、その価値は0から5にまで上がり、そして、その後一生懸命にやつて10まではいかなくとも8ないし7ぐらいまで達するのである。「きつかけ」とか「先駆者」といわれるものはそれ程重要なのである。「理想なきは死なり」とも言う。ただ現実にもまれて、その挙句、妙な方向に世界が進んでいくのでは余りにお粗末だ。「そらあ、それがええことばようわかつてるけど、現実的には、そんなもん不可能や」とか「結局、現実にあることが一番正しい事やないか」とかいう人がいる。現実主義といえは聞こえはよいが、実は現実逃避主義、なぜやり主義ではないだろうか。もちろん世の中全体が「わかちやいるけどやめられない」といつた風潮であるからして、こんな人がいるのも無理はないが。しかし、現在の「安定ムード」一実は人々がこのせちがらい世の中になれ切つてしまつてい

こと一は悲しむべき現実ではないだろうか。結局、こういう問題は将来をになう僕たちが解決しなければならぬのだ。それを今から現実になれきつてしまつていたら、果してどうなるであろうか。

夏の思い出

三年七組 十市 勉

今年の夏休み、二年の時の友達四人とキャンプへ行つた。この連中は以前にも数回徒歩旅行したことがある。簡単に紹介すると、第一の男は、すらすらとしてスマートで、万能スポーツマン。何事にもあまり気にかけない質の男。僕は、こんなタイプの男が好きだ。ニツクネームは、かまきり。第二の男は、この世に何の苦もなく生まれて来たようなのんき者。実に羨しい次第である。とりわけ、古寺に趣味を持ち、暇さえあれば一金の方は無くても人から借りて京都、奈良を歩き廻る。雨に煙むる京都が格別よいそうだ。第三の男は、見るからに真面目そうで、キヤツプ用具の準備など、色々と世話をしてくれる。全く有難い存在である。第四の男、この男とは、三年間同じクラスで、僕にとつては、最も関係が深く、良き相談相手になつてくれた。僕の高校生活に潤いを与えてくれたのもこの男である。以上のような連中と、勉強の事なんか忘れて、大いに楽しもうと思つて出かけた。事実、愉快に過ぎた。久しぶりに滲みきつた自然の中に身を投じ、満足感に浸つていた。すると、半無意識のうちに、心の中で二人の私が言い争つていた。

「一体お前は、何の為に勉強しているのだ」と、一人の私
が問うと、もう一人の私は「もちろん○○大学へ行く為さ」と、
答えた。「お前は、今学期と言うものをやつてい
ると思うのか。」「……」「今やつているような事は、学期
と云えるようなものではない。ただ大学へ入る為のも
のではないよ」と言うと、「なるほど、そうかもしれない。
しかし、考え方によつては、今こんな勉強をしているの
も行きたい大学へ入つて、自分の好きな勉強をする為では、
ないか。第一、私は、¹人生の落伍者²には、なりたくない
からね。だから、今一応現実と妥協しているだけだよ」と
反論する。「現実と一応妥協しているだけだと言うが、こ
の事が、これからの我々にとつて、何か妨げとなりはしな
いかと心配なんだ。」「そりやあ……」「さあざあ言う谷
川の流れによつて、ふと気が付き、まるで夢を見ていたよ
うな気がした。私は、じつと考えた。だが、これ以上議論
しても無駄であつた。
谷間の夕暮は、格別印象的であつた。全然人気がない山間
で、一夜を過すのはどんなものか興味があつた。星が空一
面に輝く頃、頭上を仰ぎ見ると、今まで、それほど愛着を
持つていなかったのに、この時ばかりは、何だか自分の体
全体が無限の空間に吸い込まれるような感じがした。その
時の自分は、すべての事を忘れ、全く、苦悩と言うものを
感ずる神経が麻痺してしまつていた。このように、感傷的

になつていた私にとつて、仲間の四人は、有難かつた。彼らには、全然気がいらす、何でも隠さず話せたから。彼らもきつと、私と同じような気持ちでいたろうと思つた。合格したら又来よう、と堅く誓つた。五人共合格するのは無理かもしれないが、その時の我々には、互に励し合うだけで、十分満足であつた。一

帰りの汽車は、無常なくらい速かつた。車中、皆ぼんやりと、何か考え事をしてるようだつた。実際、私も、ある事を考えていた。今このように気楽に遊んでいるが、来年には、入試と言う、あまりにも厳しい現実が直面している。現在の自分にとつては、与えられた任務を全うするより外はない。だから、どうしても、入試と言ひ壁を打ち破らねばならない。だからと言つて、他のすべての事を空しくしなくはない。出来るだけの事をやろうと、帰りに、こう堅く誓つた。

夏休みも、一睡の夢のごとくに終つてしまつた。今まで、こんなに短く感じた事はなかつた。何だか急に、孤独感に浸りたくなつた。そこで一人生駒山へ登つた。しかし、自分には、それだけの資格が、無かつた。孤独に堪える事が出来なかつたのである。今の自分は、まだ弱い人間なんだと、痛感した。やがて、もう自分は、親から離れて、生活して行かねばならない。そう思うと、急に不安な気持ちになつた。しかし、この時、私の心を支えてくれたもの、それ

は、強い信念であつた。「一生涯をかけて、何かをこの世に残そう」と言ひ、私なりの人生哲学であつた。この事だけは、是非とも貫き通すつもりである。人間である以上、そうするのが義務だと思ふ。

こんな事を言つてゐるうちにも、卒業へと、一步一步近づきつつある。何とも言えぬわびしい気持ちだ。あと一年でもあればよいのに、と思ひながら、今の心境である。心残りの事も多くあるが、悪友と別れるのが何よりも辛い事である。これも致し方のない事。我々は、前進せねばならない。よき未来を求めて。



「あした」

今日の次にくるもの！

三の六 高田正一

私たちは現在を掌握しているのではなく、現代（今日）は私たちより一世代前の人々の手にある。だから私たちの理想と現実が矛盾する。私たちが現実を掌握しておれば両者の間に齟齬はない。あれば我々が無能であることの証でしかない。

「だから理想と現実とが矛盾する。」と云つた。その理由は何だろう。理想と現実が矛盾せずにあることはないのか。ない時もある。いや、その時のほうが多いかもしれない。けれど我々は両者が矛盾して当然のように考えている。それは平和な時代を知らないからと言えよう。我々が理想を形成した時代が混乱期とも言えるあの「終戦直後」であつたためである。そしてこのような時期に理想を形成した世代は、日本という国の歴史のうちに、前にも後にもないように思う。

○ ○ ○ ○ ○
私たちは現実批判をよくやる。しかしむなしくもそれらは、たいてい空論でしかない。現実が我々のものであるという意識の上に立つているために、現実是我々のものではない。我々は現実のいわば寄生虫である。「あした」とい

う未知のものを背負つてはいるけれど。このことが現在、すべてに鋭く反映している。現実批判は本質的には自己主張であり、現実における我々の場の拡張の要求である。しかし残念ながら、そこには現実を掌握する人々にはできないものも含まれている。その原因は現代の人々の能力の欠陥にあるのでも、私たちの奔放なわがままでもない。

○ ○ ○ ○ ○
戦争は日本という偉大？であつた国に大きな物質的打撃を与えた。しかしそれは、幾分ゆがみながらも、回復したといわれる。けれども今、つまり今日、戦争は精神的な面に少なくない影響を及ぼしかけています。現代の社会を掌握する人々―戦前に理想を形成した人たち―と我々―戦後の混乱期にそうした者―の考え方の違いがそれである。つまり現代の人々の頭の中にあるものが私たちにはない。そして、その逆の場合もある。|| 現代の憲法は戦前派（現代人）にとつては「新憲法」であるが、我々には、単に「憲法」ではないというようなこと || こうした、あたりまえの意識のなかに、あたりまえであるゆえに、私たちが現実において、理想と現実を一致させ得ないものが存在している。つまり物わがりの悪い大人と理屈っぽい子どもが存在している。勿論、同時代の人々の間では、物わがりが悪いとか、理屈っぽいさは感じられない。現代の人々と私たちとの間の溝の存在は、このことにはつきりと気づいていない

こと、このことをぼんやりとしか考えていないことに由来しそうだ。

私たちは現実が我々のものでないことを、はつきりと自覚する必要がある。現実と私たちのつくる「あした」との間には、かつてなかった、また今後も存在しないだろう大きな溝があることを切実に知らねばならない。

すると私たちが現実に対してとるべき態度がわかつてくるような気がする。

現実批判をする時間よりも、現実のより深い理解のための時間を持つべきである。すれば少しでもこの溝は狭くなる。またそれ以上に、我々の世代が戦後という特殊な時代でありながらも、その特殊性と同時に普遍性をも兼ね備えた世代となることができるのではないか。しかし現実批判の矛盾を考える能力まで放棄せよという意味ではない。それらを我々の一人一人が内部に秘めておくことは必要である。

そして私たちが社会の掌握者となった時、暖め磨いてきた理想を実現すればよい。現実を深く理解してこそ、理想への変革が正しく易く行えるのではなからうか。

しかし私たちの時代にも、社会の掌握者たる我々と、次の世代の人々との葛藤があると思う。私たちが特殊であ

ばあるほどそれは大きいだろう。そしてここでも私たちは特殊な環境に育つたことを思い、次の世代が求める理想に対し、積極的な態度で臨み、考えてみる必要がある。彼らの主張のなかで、客観的に考察して正しいこと、我々が気づかなかつたことなどは、積極的な肯定で私たちがものにしてしまふべきだ。そうすれば次の世代にバトンを渡す時には、第二の理想がより高く掲げられていることだろう。

「今日」はそのまゝ「あした」にならないかもしれない。しかし我々は「あした」をそのまま「あさつての朝」へと続けなければならぬ。これが私たちの最大の使命ではなからうか。



創作

K

佐藤 某

校庭のいちよりの葉が散つていく。俺は寝不足の眼で、それを見つめる。いちよりは散れば、元素になる。激しい恋も終われば、思い出になる——。俺はやつと苦しみから解放されたようだ。

○ ○ ○

俺は、Kが青く固い果実のようであることを望んだ。いつも若々しく、きびきびと立ち動くことをKに強いた。事実Kは、多分にポイイツシユな、言い、果実だった。

それなのに、いつのまにやら君は、誰か俺以外の人間の手によつて、だんだんと少女らしい少女に変えられていってしまった。昔から紅へと君は変えられてしまった。

K、つぶらな瞳に、いつもひたむきな信頼をこめて俺を見あげた君が、ふつと、一本当に突然に俺から去つてしまったのは、まだ夏のはじめだったね。それからの君は、ろうかで出会つてもぎこちないほほえみをうかべるだけで行きすぎ、極端なまでに俺をさけるようになってしまったんだ。俺には、まるで理由がわからなかつた。そして、なんだかむしように寂しかつた。やがて俺は、君が去つた原

因を知つた。まったくつまらない誤解——いや、君にあっては大きなシヨツクだったんだろうけど——だから俺は思いきつて君に言つた。「誤解のとける日を待つ」とね。

だが、君は帰つて来なかつた。俺は、たまらない気持だった。そこぬけにほがらかで、そのくせ涙もろい君、あまたの半面、やさしさといわりの心が、ちよつとした動作のはしげしに、にじみ出ていた君、こんな君がどれほど俺の心を明かるくしてくれていたか、君が遠くなればなる程よくわかつてきたんだ。

君が、誰かに愛され、誰かを愛しているらしいと聞いたのは夏休み前の暑い日、化学教室でだった。俺は、胸がえぐられるような気がした。

それからの苦しい日々。俺は何度図書館へ行つたことだろう。いつも君と待ちあわせたあの奥の奥のテーブルで、あられるはずのない君を待つた。受験勉強は、まるで手につかなかつた。びちびちと若さが輝やいているような、君のおもかげばかりを追つていた。きらきらと、強い光を放ちよつときついかんじの君の瞳が胸にやきついて離れなかつた。だが、そのうちに俺は、君さえ幸せになれるんなら、俺は黙つて、君を見守つていてやろうと、そう思うようになったんだ。そう決心はしたもの、俺以外の誰かの手によつて、今までの子供っぽいかわい君が、だんだんと、しつとりおちついたおとなつぽい少女にかわつてい

くのを見るのは辛かった。俺は、その、君を独占しているヤツをなぐつてやりたいような気さえた。俺は、自分の氣をしずめようと、一層、山へのほつた。単独で、前穂を歩いたり、捨へ行つたり。山は、無言で俺をむかえ、俺の心の傷をそつといたわつてくれた。俺はKをあきらめた。夏が過ぎ、今秋も逝こうとしている。K、君を誰よりも深く理解しているのは、俺だ。K、俺は君を幸せにしてもやれなかつたね。だからこそ、俺は誰よりも深く君の幸せを祈つているよ。K、苦しいことがあつたらいつでも、ほくのところへ帰つておいで。K、強く美しく生きておくれ。

—Kを愛し、Kの愛する君へ—

俺はKを苦しめ、悲しめ続けてきたような気がする。まるで横暴な兄のようにKにふるまつた。Kは黙つて耐えてくれた。でも、俺はKを愛していた。Kと話し、その明かるといふ笑い声を聞くと、俺の心は和んだ。Kは、どんな少女もおよばない、人をひきつける「何か」を持つている。君は、まだそれに気が付いていないだろう。その貴重さは、失つてはじめてわかるものかもしれない。君も男なら、愛するKを君に独占された俺の苦しみもわかるだろう。Kは、俺が生まれてはじめて愛した少女なんだ。Kを幸せにしてやつてほしい。Kの、あり、きれいな眼に悲しみの光が射らないように。Kを妬む。男が男に心から妬むのだ。

○ ○ ○
校庭のいちよりの葉が散つていく、俺は寝不足の眼で、それを見つめる。



洞窟

一年八組 榎 義章

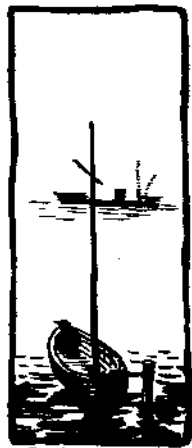
泡が二つ、まだ消えずに残っている。雨は依然として湖面を乱している。男が湖底に沈んで、半時になる。彼は次々と呼ばれていた。人づきあいが悪い、というよりは、人と話をすることもほとんどなかつた。ただ黙々と仕事をし、一日を終えていた。人は彼のことを、「あまりに賢明すぎで、凡人とはつきあわない。」とか、「先天的に社交性の

欠けた人面だ。」とか評したが、とにかく奇人であるのは誰もが認めることであつた。しかし、彼が人間らしいのは、世評とは大分違つていた。彼は生れてすぐ父に死に別れた。母親は自分の生きがいを全て彼に託した。母のもとで、彼はすすくと育つていつた。が、それもわずか五年の間だけであつた。彼が五才の冬に、母親は肺炎で三日間床にいつたきり、そのまま死ねぬ人となつてしまつた。五つの子供に残されたわずかばかりの財産も、いつのまにか人手に渡されていた。彼は五才にして、裸一貫で世の荒海に投げ込まれたのだ。世間は甘くはなかつた。彼は事あるごとに利用され、欺かれた。彼はだんだん人間というものを信じなくなつた。そして、純粹な愛情をもつて自分を育ててくれた母親、その面影が一層強く彼の脳裏に焼きつけられていつた。昼さがりに、唯一の深しみである釣りをする為に、森の湖へやつてきた。糸もたれぬうちに、突然、かなりひどい雨が降りだした。急いで用意しかけた道具をしまいこむと、彼は湖の縁に口を開けている洞窟へ飛びこんだ。しばらくそこにじつとしていたが、雨はなかなか止みそうにもない。洞窟は入口から三間も奥へ入ると何も見えなくなる程暗い。少し時間がたつた。しだいに闇に慣れしてきた。なんの空なしに洞窟の奥の方へやつた目が、ほんのかすかではあるが、明るさを認めた。彼は闇を凝視した。確かに何か光るものがある。その光になぜか強く引かれた

彼は、釣り具をその場に置くくと、洞窟の奥へと入つていつた。五間も入ると真の闇となつた。壁づたいに、手きぐりでいかなければ歩けない。壁は水がにじみ出でて、じつとりぬれている。地面は所々岩がとび出していて、歩きにくい。小半時も進んでろうか。後方をふり返ると、入口の明るさはもう見えなかつた。相当奥まで来てしまつたのだ。夢中になつて前方のかすかな光を追つていた彼は、初めて自分の立場を考へてみた。なんの為に、自分はどこまでいつてもまきりがない光を追わねばならないのか、彼は引き返そうと思つた。その時である。前方にかすかに見えていた光が、急に明るさを増して近づいて来るではないか。彼はとつさに、近くの岩陰に身を隠した。光は彼がいる岩の真前で止つた。光は、たいまつから発するものであつた。それを掲げている者の顔は、光が強すぎてわからない。が、ともかく、人もめつたに来ない森の洞窟の中に人がいたのである。突然、「次夫。」と呼ぶ声がした。相手は、彼が岩陰に隠れていることも、その上、彼の名前までも知つていたのだ。彼は逃げだした。こんな所に人がいた、というのでさえ、少々意味の悪いことなのに、まして、自分の名前まで呼ばれたのだ。が、たいまつを三間も離れると、まわりは真暗になる。彼はとび出した岩につまずいて倒れてしまつた。起き上つて走り出そうとした時、彼のすぐ後で、再び、「次夫。」と呼ぶ声がした。ふり返つた彼の目には

たいまつに照らされた、二十年の間、一時も忘れたことのない母の顔が写った。驚きの為にあ然としている彼に、顔に笑みを浮べて女は口を開いた。「お前が驚くのも無理はない。死んだはずの母が、たいまつを持って目の前に立っているんだからね。でもこれにはわけがあるんだよ。私達がいるこの洞窟は「よみの国」と「人間界」との唯一の通路となつているの。今立っている所は、丁度その中間にあたるのよ。お前はこれより奥には行けないし、私もここから先へは行けない。ここだけがお前と話が出来る所なんだよ。さて……。お前もずいぶん苦労したね。私はお前のことなら何だつて知っているよ。あの世からじつとお前の成長をみつめてきたんだよ。下界に降りて助けてやりたかったことも、何度あつたかわからない。ずいぶんはがゆかつたこともあつたね。……。あつ、大変。たいまつのお火がもういくらもたない。早く戻らなければ……。私に会いたいと思つた時は、いつでもここへおいで。だけ、しつかりやるんだよ。」このまま行かせたら、母は又一よみの国の人」となつてしまう。母をつれ戻すのだ。立去りかけた母の手をむんずと掴むと、彼は一目散に走り出した。幸い彼女の持つていたいまつで、洞窟はかなり明るい。途中何度か岩に足をとられて倒れたが、起き上つては又、走つた。母の手をしつかり握つたまま……。たいまつのお火がだんだん弱くなつてきた。あわや消えようとする時、

前方に明るい洞窟の入口が見えてきた。彼は一層速さを増した。手に大した抵抗もないことから察すると、母もあらん限りの力を出して走つていゝらしかつた。ついに視界が解けた。雨にけむつていゝ湖面でも、暗黒の世界から出てきた目には痛いほどまばゆい。彼は大きく息をしながら、ゆつくり母の方をふり返つた。が、母の姿はどこにもない。ただ彼の手は母のかわりに、もえつきたいまつを握つていゝのみである。彼は大いに落胆した。しかし、狂気して母の姿を探すようなことはしなかつた。そして次の瞬間には、頭を上げて、眼を輝かして、真すぐ湖の方へと歩いていつた。もう洞窟へ入らなくても彼の母に会えるように。雨は依然として降り止まない。湖面に浮いていゝ泡は、まだ消えずに残つていゝ。急に二つの泡は、互いに相手の方へと走つていつた。二つがしつかりくつついた時に、二つとも消えてしまつた。



その他

学級新聞より

—沖繩児童へ本を贈る—

關學生が中心となつてゐる「沖繩児童へ本を贈る會」を
ていのうぐるうぶの一員が知つたのは、一学期の終りの頃
だつた。この會が沖繩には本が極めて少なく、島によつて
は、本屋が一軒もない有様を知つて、今年の春に三千冊の
本を持つて沖繩へ送り、その実態を調査してきた。それで
も足りないので、第二回発送を計画し、それを終えんと、
続いて第三回発送を各方向に一人一冊を目標に呼びかけ、
約五千冊を最近終つた。我がクラスでもていのうぐるうぶ
が中心となり第二回、三回発送に協力、クラスだけで、約
二百冊を届けた。これを翌いた一年六・九組の有志も協
合計數百冊を先方へ届け、この運動に一役買つた。この運
動のことが、六日の朝日新聞に掲載されてから、予想以上
の反響があり、多くの部數を贈ることができ、沖繩児童の
喜びも一しおとのこと。

日本人でありながら、今なお米国の支配下の沖繩の人々。
そして本も手に入らないという現状。現在の私たちの事を
考えれば信じられないことである。その点に気付いた一学
生の起した運動が、このような反響を起したのもうなずけ
る。私達は一日も早く沖繩が本土に復帰されることを心に、
祈り、できるだけのことをしたものである。

ワングルの旅

二年一組 河村正人

第一日目。七時二〇分に大阪駅を出発、行先は若狭湾の西
にある奥丹後半島である。福知山線—山陰本線—宮津線
を通つて、峰山で降りる予定。武田屋あたりから、トラ
ンプ開始。ババヌキ、五十一、カブを経て、ポーカーに
いたつた。第二日目の間食用のチューインガムをかけた。
福知山に着くころには、全員のチューインガムは僕の所
に集つた。モウかける物がなくなつたのでポーカーをや
めた。福知山と豊岡の列車は絶対にすわれないだろうと
思つていたが、幸運にもその列車は福知山発だったので
全員がすわれた。昼食(弁当)始メ!

豊岡から乗つた電車はケツタイな電車、上り坂にぐる
と歩いてゐる人が電車をおい越す。下り坂になると、モ
ウゼンとスピードを増し、風の当つてゐる方の目が痛く
なる。十時五十分、峰山で降りるのをやめて、一つ手前
の網野駅で降りる。電車が延着したので、そこからバス
で一予定では歩いて一人まで行つた。ところで間人と
はどう読むか知つてゐるかい?それは「タイザ」と読む
んである。この辺には変わった地名が多い。遊(あそび)
平(へい)、泊(とまり)、袖志、六萬部、等々といつ
たところ。テナ事を言つてゐるうちに、スバラシイ光景
が眼前に展開してきた。真ツ青な海、紺色の沖、そして

青く晴れわたつた空、真ッ白い雲……たまらなくなつて予定変更し、パスを飛び降りる。ここは城島一しろしま一という所らしい。上から見た形は能登半島に似ている。カンカン照りの岸壁に対馬流流の冷い青い水が打ち寄せ、白く散つている。岸はデコボコはあるが、まるでコンクリートで固めたように一枚の岩からなつている。広さは学校の運動場ぐらいか……一年の松田や広瀬が寒まつて騒いでいる。岩の中にある。半径三十cm、深さ一mぐらいの穴をのぞいている。そこには海水がたま、て、小魚が十匹ほどいる。彼らは、それらを取ろうとしているのだつた。ただちに全員一致協力して魚とりにかかる。道具は各自のかぶつている麦ワラ帽と弁当箱である。全員で一十名一魚を囲むのだが、やはり魚の方が速かつた。三十分のち七cmぐらいのハゼを捕えた。万才三唱。今日のカレーの材料がふえた。三時になつたので出発する。「サア一行クゾ。出発」と言えば全員「もーお」今日は竹野でキャンプにしよう。時速五キロでとばして、一時間後に到着。着いた時の前後の距離は約一キロであつた。みんなバテている。四時～五時までキャンプ地を探し回つた。サブリーダーが良い所をみつけてきた。五分間でテント建設。全員でカレーを作つた。肉がないので、サバのカンヅメで代用した。フト下を見るとフナ虫がゴソゴソと歩き回つている。(注 フナ虫……)

：ゴキブリに、ムカデの足をつけたような虫一そこで、さつそく、カレーの中に2つるつ投げこんだ。飯がたき終つたころには、日はトツブリと暮れていた。今日のカレーはゴツツウウまい。一人平均二合は平らげた。アア満腹だ。イイ氣持。カンテラの光がテントの黄色い色を浮び上がらせて、ゴツツウエエ感じである。皆の幸福そうな顔ノテントに入りしなに、カレーの材料を公表してやつた。若尾を除く他の者は平気な顔。しかし若尾だけは真ッ青になつている。(イヒヒヒヒ……)



第二日目

七時に起床。寝ている奴の足をけりとばす。朝飯は昨日の残りの飯と、即席ミソ汁。テントのまわりを見てみると、構は墓地であつた。どろりとして昨日は静かだつたはずだ。今日からお盆なので近くの村からお墓参りに来ている。九時出発。「サア一行くぞ、出発」。「モウ」時速四・五キロで歩く。此代あたりに来たころ一竹野から五キロ一小松先生にオコられた。「ワンダーフォーゲルはそんなに速く歩くんやないんだゾ」時速三キロぐらいいんだ」それで、ここから平一此代から約六キロまで、先頭は先生に交代した。僕は見習いのためセカンドにいた。時速三キロのノロノロ運転は、ほんとうに体にくたえる。「アア面白くねえ」。平一「ハイ」で先生は学校に電報を打つため残留した。これでじやまなブレーキがいなくなつた。サア、時速五キロで行こう……と思つたが、さつきの除行運転で、エンジンの調子が狂つたらしい。中浜村（平から2キロ）でついにエンコした。全員売店にかけ込んでジュースを飲んだ。代金は一本二十五円だつた（ジュースの中味二十円、冷し代五円也）。

中浜から二キロの海岸でタクシーで追いかけてきた先生と落ち合つて、昼食にした。献立はいつもの通り、クラッカーと粉末ジュースを水だけ、クラッカーは一人当たり一箱である。安井と広瀬は栄養不足を補うためか

一生懸命クラッカーについている固形スープをかじつている。三時まで休憩にする。左の沖の方に女子中学生らしいのが5、6人泳いでいた。若尾はさつそく遠眼鏡（トイメダネと読む）を取り出して、のぞいている。僕を除く全員（もちろん先生も）が、トイメダネを借りて観察した。そして最後に僕がのぞいた。「中学三年ぐらいやなあ」全員の意見が一致した。紺谷、橋本、背戸柳の諸君は波打ち際に砂のお城を建設しはじめた。松田、赤司、先生も協力し、大きなお城ができた。

今日の予定はここまでののであるが、まだまだ時間があまつているので、三日目の目的地である経ヶ岬まで来ると噂々景色がよくなつた。道のすぐ横が三十mほどのゆるい崖になつていて、その下では波が白く、くだけている。海の底が透けて見える。紫色だ。水が驚くほど澄んでいる。沖に行くに従つて水の青さが濃くなつて行つて、紺色になるなあと思つた時に真っ白い空がある。そして空の上の方は又、清い青色である。カンカン照りの太陽のため、皮膚はジリジリと痛い、体の中はこの青色がしみわたつてくるようで、なんと言うか、冷いほど涼しい……そんな心持である。穴文珠のあたりで先生は写真を撮るためと称して隊列から落ゴしていつた。サア、スピードをだすぞ。経ヶ岬の手前一キロあたり

では、かけ足程度の速さになつていた。もう五時三十分である。早く経ヶ岬について、テントを張つて、食事の用意をしなければならぬ。五時五十分到着。「エライコツチャ」キャンブ地を探しに行つた紺谷がそり言いがらもどつてきた。キャンブ予定地には岩ばかりがゴロゴロしているという報告である。六時二十分まで一生懸命平たい所：一人が一人横になるような広さの一を探し回つたが、自動車の往来する道路以外には、どこにもない。しかたがないので、今夜は岩の上にテントを張る事にした。五分間でテント小屋完成。もう日は暮れてゐる。今夜の献立は好き嫌であつたのだが、時間がなくてチキンラーメンに変更した。調理主任一といつてもお湯を沸すだけが一は青戸柳氏に任命。五十メートルほど北の方に氷よりも冷たい水が湧き出しているのを発見した。名付けて「河村水道」。七時までに全員チキンラーメンを二袋食べていい調子。その後故郷をしのんで歌声をやつた。リーダーの美声、サブリーのシブイ声、一年生諸君のかわいらしい声、二年生達のドラ声、先生の音程の狂つた声が重なつて奇妙なハーモニーをかもし出す。十時 WENT TO BED。下の岩が背なかにくい込んで限りにくい。明日はここに停滞して全員の体力回復を計ろう。「ああ、あつる日で大阪駅までたどり着けるかなあ」。

第三日目

体長二十ミリぐらいもある蚊になやまされ続けて、睡眠特異はる時間あるかないかである。普通蚊なら平気なんだが、この蚊は特別製の針で武装している。毛糸のクツ下を問題にせず、シャツ+下着の壁もうち破つて攻撃してくるのだからたまらない。刺されたあとには、4cm平方ぐらいの赤色のコブができる。それが実にカユイのである。ポリポリかいていると痒々かゆくなる。そして痒々強くかくと、又さらにかゆくなる。たまになつて海水パンツをはいて海水の中に首までつかると、やつととまつた。こんな所では今日の一滴はとりやめにしなければならぬ。昼まで泳いだ。さすがに海である。プールと違って下は凸凹である。そればかりか、石のかけにムラサキウニやイソギンチャク等がゴロゴロしているし魚も群をなして泳いでゐる。真ツ黒な奴、銀色の平べつたい奴、白と黒のジャケツを着たいきな魚等々である。釣道具を持つてこなかつた毒がクヤまれる。昼からはワンダーフォーゲルの特性を發揮して、ヒツチハイクとしやれこんだ。俗にこの事を「ヒツチル」と言う。自動車パンサイである。十五キロの道のりを二十分で行くこの快適さよ。またたくまに本庄上に着いた。地図によれば、この西の山の上に「布引の滝」があることになつてゐる。三時三十分山の上に着。四時三十

分山の中腹。もうそろそろ滝の音が聞こえてきてよき
そうなものだが、いつこうに聞えない。勾傾四十度ぐら
いか……十八キログラムの荷物をかついで登るため足
もとがフラついてきた。五時になつた。まだ水のニオイ
もしない。全員を小休止させて橋本と二人で斤候に出か
けた。山の頂上に着いたが、どこにも滝らしいものはな
い。橋本が何か発見したらしい。茂つた草をかき分けて
いる。行つてみると溝のような凹みの中に水が糸のよう
に流れている。さては滝とはこれの事だつたのか……
多分「夏枯れ」というやつだろう。これで滝のそばでキ
ヤンプをして、グツスリ寝ようという希望は断ち切れ
た。さつそく山を下りる。近くの農家で得た杖報による
と、本庄浜には清水が湧いているということだ。そこで
キャンプができなかつたら今夜は橋の下で野宿といくか
六時四十分本庄浜に到着。よかつた砂浜だ。さつそく
設営にかかつた。砂浜では普通のベツグでは役にたたな
いので、一冊ほどの青竹や枯木を探してきて使つた。今
日は懐中電灯の中でクラツカーとコーヒーだけの夕食に
する。食一く一い終ると、横の墓地（第一日目とは違う
所）の横に便所を建設した。もそもそと毛布にもぐり込
んだ。誰かがオレのチヨコレートを取り出している音が
するが、もう欲も徳もない。明日も歩かねばならないの
だ。サア寝ヨ寝ヨ。オヤスミナサアイ

三年六組の

紳士淑女の御詞

「十年後に又会おうぜ—98+α—人でそれまで頑張れ行宏
「6組の野郎共は昔不真面目だつたね。津田君を除いて？
我らが未来は洋々とす。高校四年も気にするなね」雅信
「太陽がとつても青いから遠廻りして大学へ入ろう。「永
田君、君はどうして遠廻りするの」「はい。裏口の關係
で感傷の果てに……はかなきゆえに美しき」⁵¹
「私はこの組一の美女と自覚していますが、イカヌ彼氏が
このごろほかの子に氣をとられています。どうしたら
いですか」答「あなたの氣持はよくわかります。体で彼
にぶつかりなさい」幸福は心の中にある。くじけず上を
向いて。上を向いて周囲も見つめて自信を持つて前進す
るのだ。雖天長地久、歲月不待人。甚長生きしてくれよ」
英智のある男より
「希望あれば道も樂し」M・D（エイチのある男）
「ワンスのように成せばなる成さねばならぬ何事もああ我
が愛する人よ。在天願作比翼鳥、在地願為連理枝（秀）
されど孤独は人の常、我道を歩まん。」
「鉄路二条、進不得相合、退不得相忘（常）愛は万物の a
b。o。e にあり。愛は美し愛は清し愛は尊し愛は樂しああ

愛したい。求む。M。」

「デミア デミア セクラ セクローネーKRE」。カメラはアサヒペンタックスを。前科者犯ISSF我は好き好き前者なり隠れていてもすぐ薫。黙つて坐ればピタリ当る君は恋愛中ね。ヤツパシ(童)

「CEM・SPYNEHKEYLR ガチヨンノ。さてこれは何を意味するでしょうか？まあみなさんきいて下さいこれが三年六組の女神なんです。イカしてシぶくてカワいくてノんきでプしようなオとこ。自信過剰も時には利なり、自信をもとう。(マコト)」

「何を書こうかなあ、何がいいかなあ、あれ、スペースがなくなつた。(A・A)」

「じゃこのへんで第一巻をやめようか。○○○○○さんへSNGARDADDY。」

「おしみなく愛は奪ふ。(武郎)」

「ああ、楽しかった楽しかった。高校生活は楽しかった。MAハイブリッジ、ああモチナカタなーあノまたガンパロウ、ある男」(大手前よサラバーイヒヒヒヒヒー)

「ここから原稿では三枚目である。書いてるやつは二枚目M・S」

「うそを書くのはよくないよ。うそで入試は「透」ならん」

「愛する者は奪われる。シャーから愛せよしつかりと悦。」

成せば成るといつて誰でもむやみに愛さないでね！」

「物事の結果は、目前の状態のみではわからない。価値の最終的な判断は歴史の審判に委ねるつもりで視点を遠くにおいて(20の視力で)毎日を送りたいものです。(宮崎城)」



編集雑感

編集委員長
森 本 兼 義

――活発なる一年生に期待する――

今年度のスプリングの編集は苦しかった。

二週間たらずの間に、アンケートの創案から―集計まで又、他校訪問の原案作成から―実行―総まとめ：等々、本当に委員の皆さんに良く動いてもらった。二十人たらずの人数で、毎勉毎勉夜遅くまで居残ってもらった。

少しのいやな顔もみせず、僕があまりの急がしさについて、カッとなつて、しかりつけた時にも、ただ、黙々せつせつと動いて下さった。

僕はこの二週間にいくつもの貴重な精神的体験を得た。

古風ふんぶんなる伝統をまだいくつもかかえているこの大手前高校で、一般に利己的傾向を示すこの大手前高校で入学以来、かつて得られなかつた素晴らしい精神的感動をうけとめた。

例を供そう。

あの十一月二十八日の木曜日、二年生のコーラス大会予選の日のことである。印刷の原稿〆切日三十日を目前にひ

かえて、アンケート係全員の努力にもかかわらず、まだアンケートの集計が大部分残っているのである。ここで僕はやむにやまれぬ立場からではあるが、ある一つの冒険を試みた。一般生徒の協力はほとんど望めない。―という本校自治会の鉄則的な習慣にそむいたのである。

当日、二年生は予選のためにため、三年生はもちろんため、残る一年生も予選通過組はため、しかたなく一年生の二組三組四組の会長さんに頼み込んだ。詳しい事情を話して、全員を放課後、金蘭会館によこしてくるようになり。

そして放課後、二年生予選を進行させる一方、金蘭会館の報告を受ける。「ブツブツ言うやつがおるけど、うまいこといつてるわ」。少しほつとしたがまだ半信半疑である。しかし、金蘭会館に入つてみてその疑いは一変して温い感動となつた。もう五時近く、外はうす暗い、その中で、明かるい照明の下で百人もの人々がせつせつと集計をしていたのである。そしてその人達は、五時半近くまで手伝ってくれたし、その後も五十人の人が六時半まで、最後の人達には実に八時すぎである……。

そしてその翌日、まだ四分の一以上も残っている集計をいかにするかの問題である。前日で味をしめた僕は、又も強行手段である。七時に金蘭会館を使用した一年七組と、残り十組の方々に四時すぎから頼み込んだ。この日も又、又、おそくまで皆残つて下さった。……

これが利己主義が多いとする大手前の実態か。

少なくとも今の一年生には利己的ということばはあてはまらないように思う。あらゆる面で我々二三年よりも大きな跳躍力を持っているようである。

全一年生諸君よ、幅広く活躍してくれ、期待する。

文芸作品を五十ページもとり入れたがこの倍以上の原稿をカットしたことを御報告すると共に、投稿者におわびする。

編集委員の中でも、特に自分の勉強を犠牲にしてまでお手伝い下さった方々に、心から、真に心から、感謝いたします。

編集委員一覧

○アンケート

岩崎 正子 (一一五) 金谷 裕子 (一一五)
 今城 緑 (一一五) 船井美智子 (二一十)
 北村佳衣子 (二一十) 水田 子 (二一十)
 岡本 太郎 (二一五) 山田 裕 (二一五)

○クラブ紹介

中谷 英明 (一一九) 仲井 徹 (二一)

○文芸作品

中原 千鶴 (一一九) 寺西 浩子 (一一九)
 嶋田 一美 (二一四) 足立 啓子 (一一八)
 北村 泰子 (二一九)

○他校訪問

樋野 典夫 (二一五) 北野 徹義 (二一三)
 柴田 哲郎 (二一七) 赤池 輝弘 (二一四)
 上窪 良和 (一一四) 瀬島 恒雄 (一一四)

○アンケート集計協力

一年生、二組、三組、四組、七組、十組
 二年生、四組、五組の女子
 E.S.S.、通研部 各部員 (どうもありがとう)

○総務、常任委員